

**第二期戸田市
子ども・子育て支援事業に関する
ニーズ調査報告書**

**平成 31 年 3 月
戸田市**

目 次

第1章 調査実施の概要	3
1 調査の目的.....	3
2 調査の設計.....	3
3 調査票の配布と回収状況.....	4
4 報告書の見方について.....	6
(1) 電算処理の注意点.....	6
(2) グラフの見方について.....	6
第2章 調査結果	9
1 お住まいの地域について.....	9
2 お子さんご家族の状況について.....	9
(1) 就学前児童の属性.....	9
(2) 小学生の属性.....	10
(3) 調査回答者の状況と配偶者の有無.....	10
(4) 主な保育者.....	11
3 現在の子育ての環境について.....	11
(1) 日常的に子育てに関わっている方・子育てに影響を与える環境.....	11
(2) 子育てに関する相談者の状況.....	14
(3) 子育てのゆとりや気持ち.....	15
4 保育者の就労状況.....	16
(1) 母親の就労状況.....	16
(2) 父親の就労状況.....	22
5 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望.....	25
(1) 平日の定期的な教育・保育事業.....	25
(2) 定期的な教育・保育事業の利用理由と未利用の理由.....	29
(3) 教育・保育サービスの無償化について.....	32
6 地域の子育て支援事業の現状と今後の利用希望.....	33
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況.....	33
(2) 今後の利用意向.....	36
(3) 子育て支援事業の認知度・利用状況と今後の利用意向について.....	37
7 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望.....	38
(1) 土曜・休日の定期的な教育・保育事業の利用希望.....	38

(2) 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望	41
8 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ.....	43
(1) 病気やケガで保育所や幼稚園が利用できない時の対処について.....	43
9 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用.....	49
(1) 不定期に利用している教育・保育事業の状況.....	49
(2) 宿泊を伴う一時保育の利用状況.....	53
10 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について	55
(1) 育児休業制度の利用状況	55
(2) 支援制度の認知状況.....	57
(3) 職場復帰の状況.....	58
(4) 短時間勤務制度の利用状況.....	62
(5) 育児休業取得期間の希望	63
11 放課後の過ごし方について.....	64
(1) 平日の放課後の状況.....	64
(2) 学童保育室の利用希望（土曜日、日曜日・祝日、長期休暇期間）	69
12 子育ての環境や支援への満足度.....	72
13 子育て情報や施設について.....	74
14 自由記述	76
資料編	91

第1章

調査実施の概要

第1章 調査実施の概要

1 調査の目的

子ども・子育て支援法に基づき、平成27年度に策定された第一期戸田市子ども・子育て支援事業計画の終期が平成31年度であることから、平成32年度を始期とする第二期戸田市子ども・子育て支援事業計画を改めて策定します。新計画の策定にあたり、第一期戸田市子ども・子育て支援事業計画の評価、現状や課題の整理を行うとともに、子ども・子育て支援施策の目標値や内容、提供体制を明確にすることを目的として調査を実施しました。

2 調査の設計

調査票は調査対象者別に作成しており、各調査の件数及び調査期間・方法は、以下のとおりです。

■ 調査票の種類と調査対象者及び調査の実施方法

①調査票「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査(就学前児童)」	
調査対象者	住民基本台帳から、市内在住の就学前児童を年齢別・地域別に無作為抽出
調査票配布数	2,500人
調査期間	平成30年12月5日～平成30年12月26日
調査方法	郵送配布・郵送回収により調査を実施
②調査票「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査(小学生)」	
調査対象者	住民基本台帳から、市内在住の小学生を年齢別・地域別に無作為抽出
調査票配布数	1,500人
調査期間	平成30年12月5日～平成30年12月26日
調査方法	郵送配布・郵送回収により調査を実施

3 調査票の配布と回収状況

調査によるそれぞれの配布・回答状況は、以下のとおり。

■ 調査票の配布・回収状況

調査対象者	配布数(人)	回収数(人)	回収率(%)
就学前児童の保護者	2,500	1,245	49.8
小学生の保護者	1,500	814	54.3

■ 年齢別回収状況（就学前児童）

年齢	配布数(人)	回収数(人)	回収率(%)
0歳	418	221	52.9
1歳	417	196	47.0
2歳	417	195	46.8
3歳	417	201	48.2
4歳	417	218	52.3
5歳	414	197	47.6
全体	2,500	1,245	49.8

※ アンケート調査票の「お子さんの生年月」が無回答であったサンプルが存在するため、0～5歳の調査票回収数の合計と、全体の調査票回収数は一致しません。

■ 地区別回収状況（就学前児童）

年齢	配布数(人)	回収数(人)	回収率(%)
下戸田地区	725	348	48.0
上戸田地区	600	297	49.5
新曽地区	575	293	51.0
笹目地区	350	162	46.3
美女木地区	250	100	40.0
全体	2,500	1,245	49.8

※ アンケート調査票の「お住まいの地区」が無回答であったサンプルが存在するため、各地区の調査票回収数の合計と、全体の調査票回収数は一致しません。

■ 年齢別回収状況（小学生）

年齢	配布数(人)	回収数(人)	回収率(%)
1年生	249	143	57.4
2年生	250	137	54.8
3年生	251	151	60.2
4年生	251	123	49.0
5年生	250	128	51.2
6年生	249	123	49.4
全体	1,500	814	54.3

※ アンケート調査票の「お子さんの学年」が無回答であったサンプルが存在するため、1～6年生の調査票回収数の合計と、全体の調査票回収数は一致しません。

■ 地区別回収状況（小学生）

年齢	配布数(人)	回収数(人)	回収率(%)
下戸田地区	435	207	47.6
上戸田地区	360	203	56.4
新曽地区	345	191	55.4
笹目地区	210	97	46.2
美女木地区	150	75	50.0
全体	1,500	814	54.3

※ アンケート調査票の「お住まいの地区」が無回答であったサンプルが存在するため、各地区の調査票回収数の合計と、全体の調査票回収数は一致しません。

4 報告書の見方について

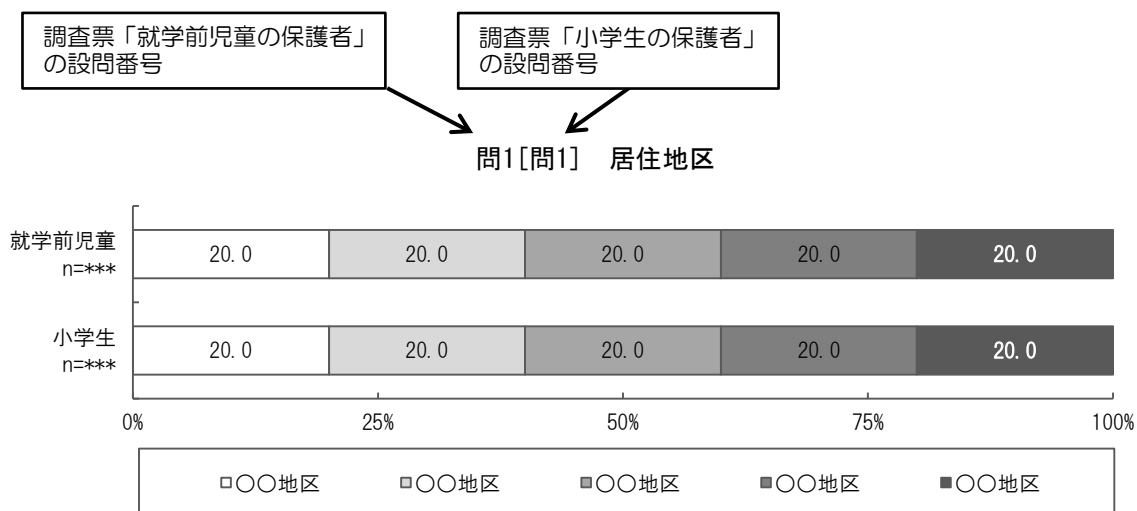
(1) 電算処理の注意点

調査結果の数値については小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。

なお、基数となる実数は「n」として掲載し、各グラフや表の比率は「n」を母数とした割合を示しています。

また、複数回答が可能な設問では、各項目の割合の合計が100%を超える場合があります。

(2) グラフの見方について



第2章 調査結果

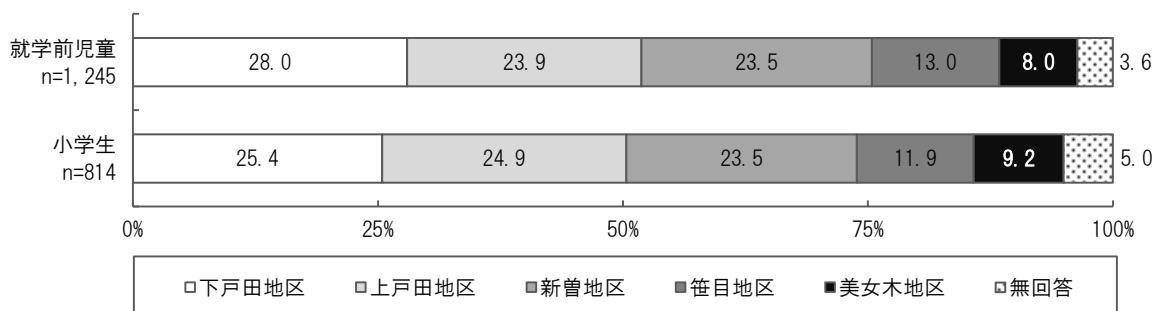
第2章 調査結果

1 お住まいの地域について

居住地域の状況

○調査対象者別の回答者の居住地区は以下のとおりです。

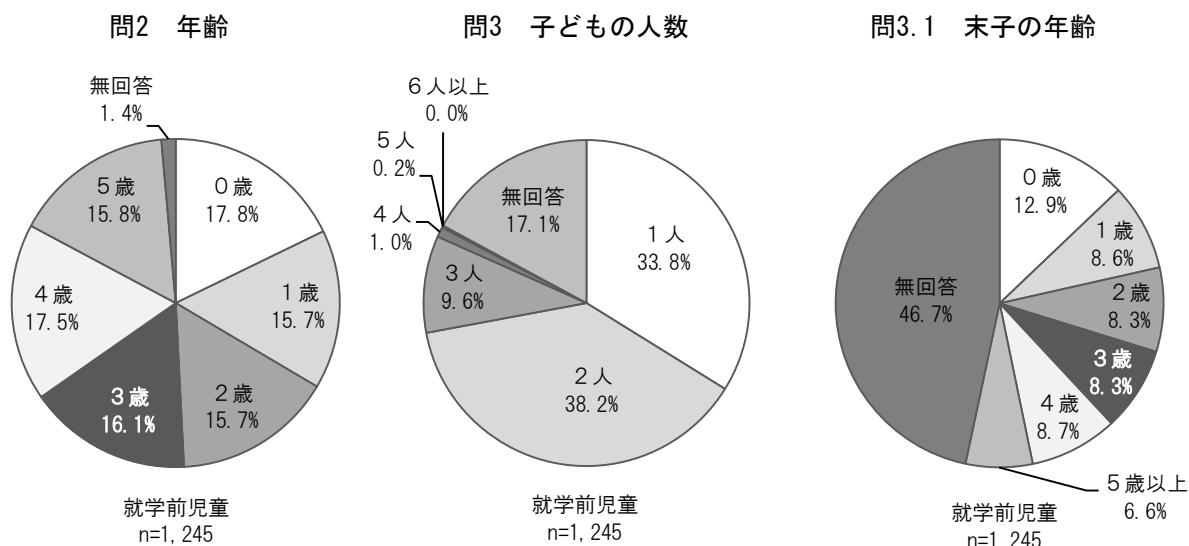
問1[問1] 居住地区



2 お子さんご家族の状況について

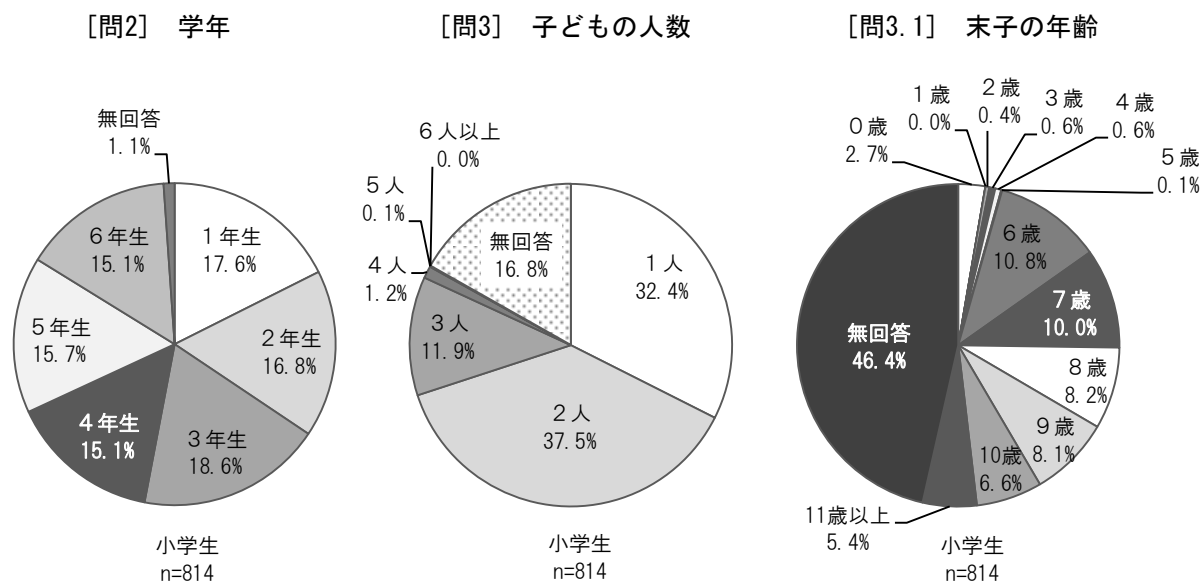
(1) 就学前児童の属性

○回答された1,245人の就学前児童の属性は、以下のとおりです。



(2) 小学生の属性

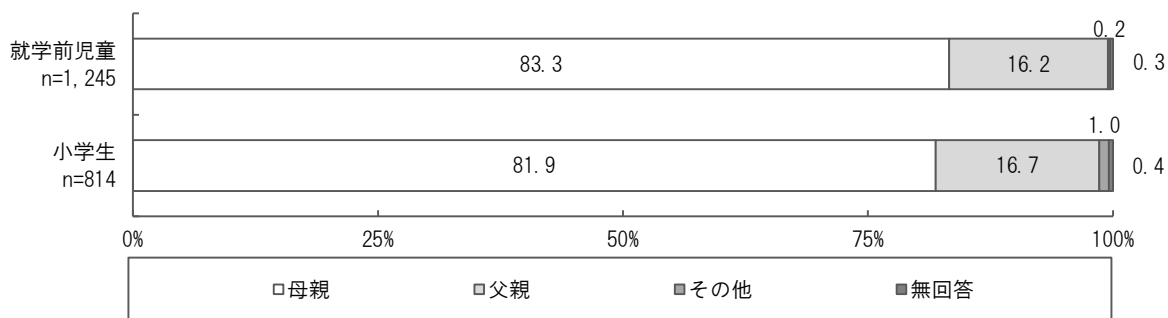
○回答された814人の小学生の属性は、以下のとおりです。



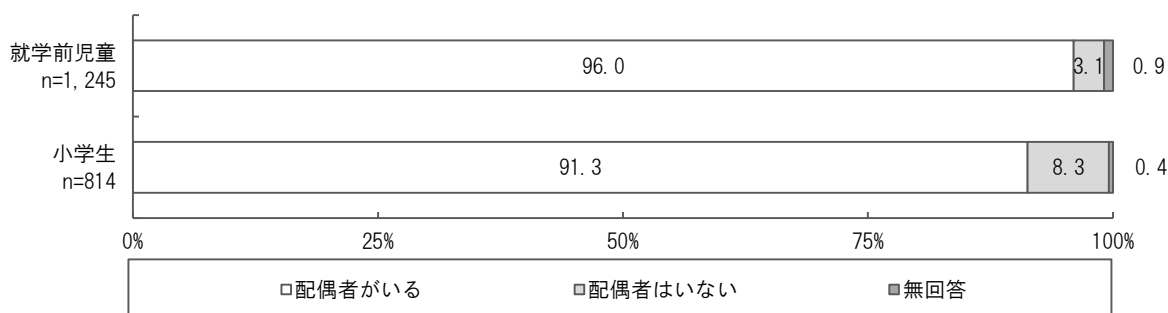
(3) 調査回答者の状況と配偶者の有無

○回答者については、「母親」がともに80%を超えています。配偶者の有無については、「配偶者がいる」が就学前児童96.0%、小学生91.3%となっています。

問4[問4] 調査回答者



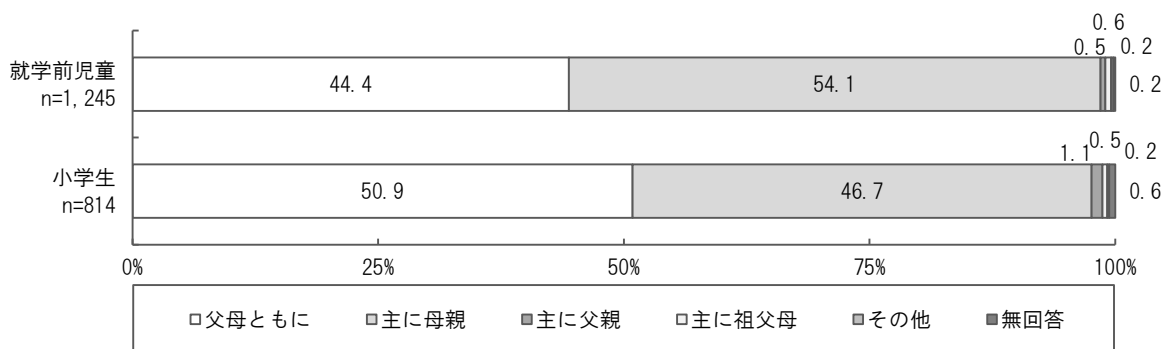
問5[問5] 配偶者の有無



(4) 主な保育者

○主な保育者の状況については、就学前児童では「主に母親」が54.1%と最も高く、次いで「父母ともに」が44.4%となっており、小学生では「父母ともに」が50.9%と最も高く、次いで「主に母親」が46.7%となっています。

問6[問6] 主な保育者の状況



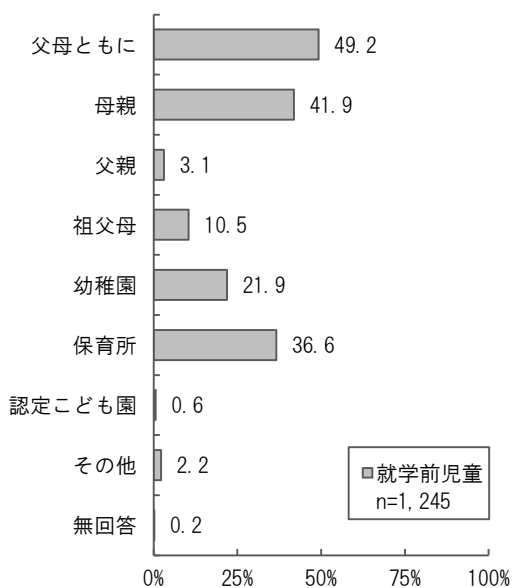
3 現在の子育ての環境について

(1) 日常的に子育てに関わっている方・子育てに影響を与える環境

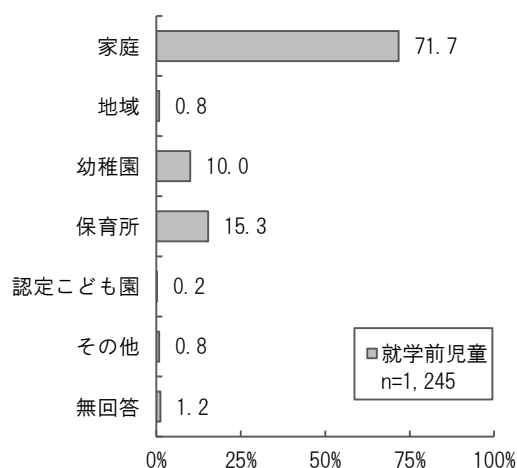
○日常的に子育てに関わっている方については、「父母ともに」が49.2%と最も高くなっており、次いで「母親」が41.9%となっています。

○子育てに影響を与える環境については、「家庭」が71.7%と最も高くなっており、次いで「保育所」が15.3%、「幼稚園」が10.0%となっています。

問7 日常的に子育てに関わっている方（施設含む）

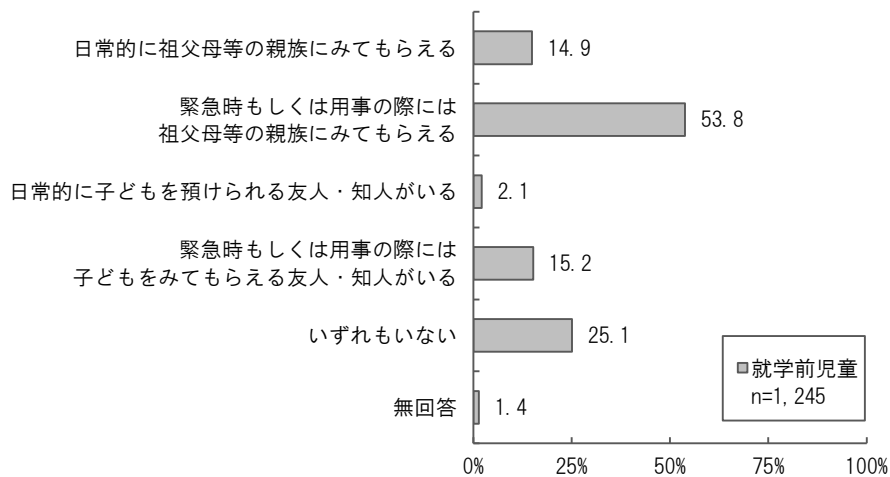


問8 子育てに影響を与えると思う環境

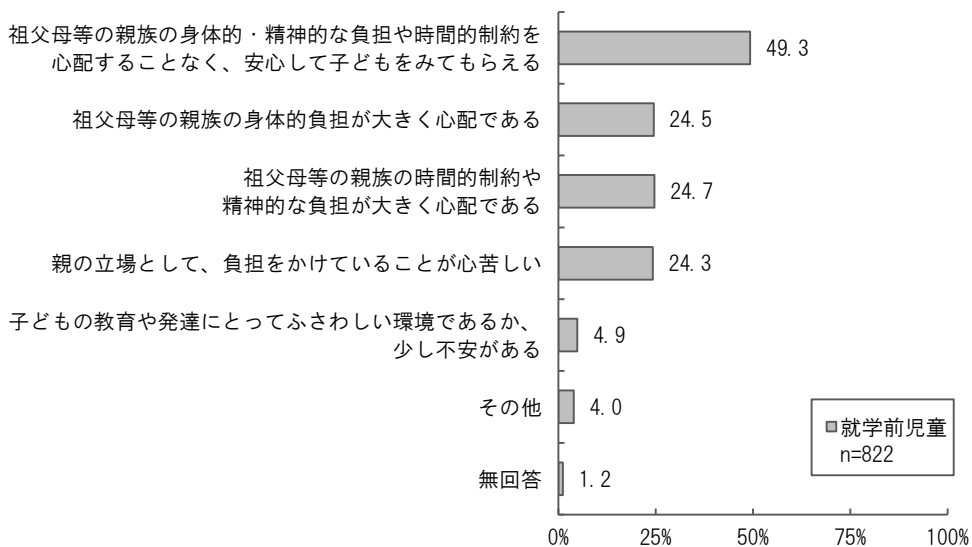


- 親族・知人等協力者の状況については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が53.8%、「いずれもない」が25.1%となっています。
- 親族に子どもをみてもらっている状況については、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心してみてもらえる」が49.3%と最も高いものの、一方で、約25%が祖父母の負担に対する心配や不安などを抱えながら協力してもらっています。
- 友人・知人に子どもをみてもらっている状況については、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が40.5%と最も高いものの、一方で、約25～30%が友人・知人の負担に対する心配や不安などを抱えながら協力してもらっています。

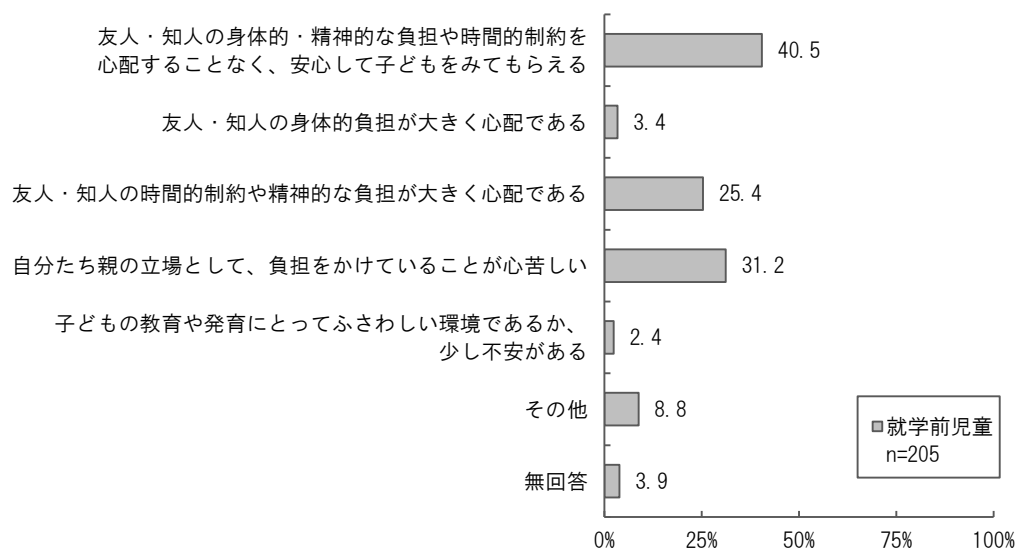
問9 親族・知人等協力者の状況



問9-1 親族に子どもをみてもらうことへの考え



問9-2 知人に子どもをみてもらうことへの考え

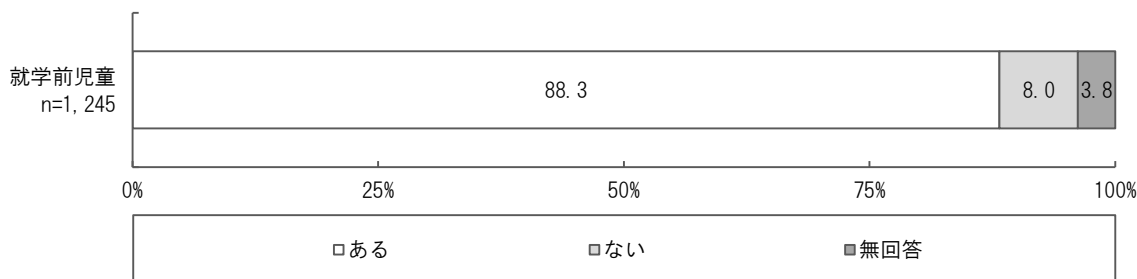


(2) 子育てに関する相談者の状況

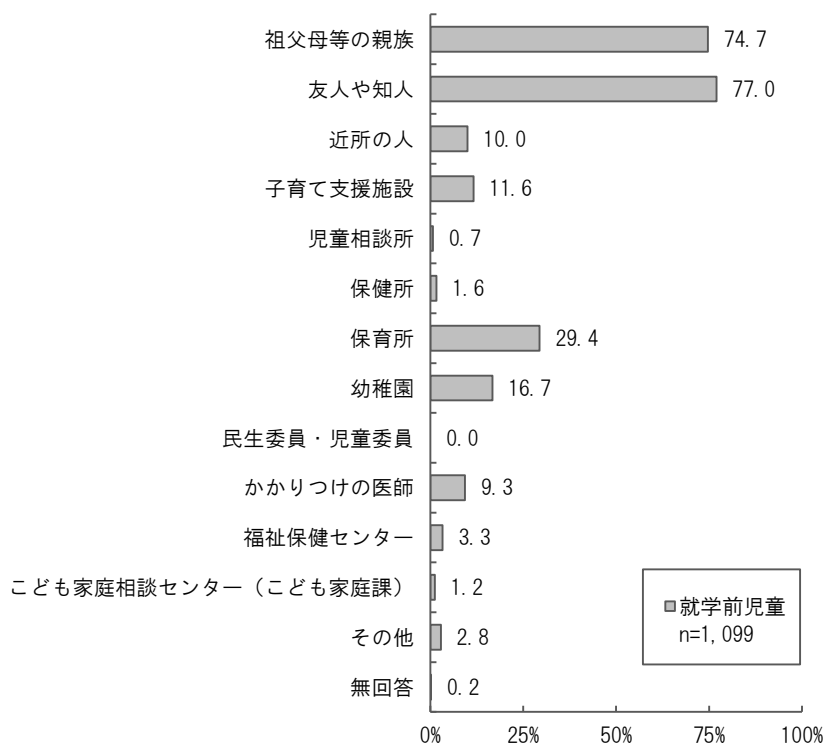
○気軽に相談できる人の有無については、「ある」が88.3%となっています。

○気軽に相談できる相手については、「友人や知人」が77.0%と最も高く、次いで「祖父母等の親族」が74.7%となっています。

問10 子育てに関して気軽に相談できる人の有無



問10-1 気軽に相談できる相手

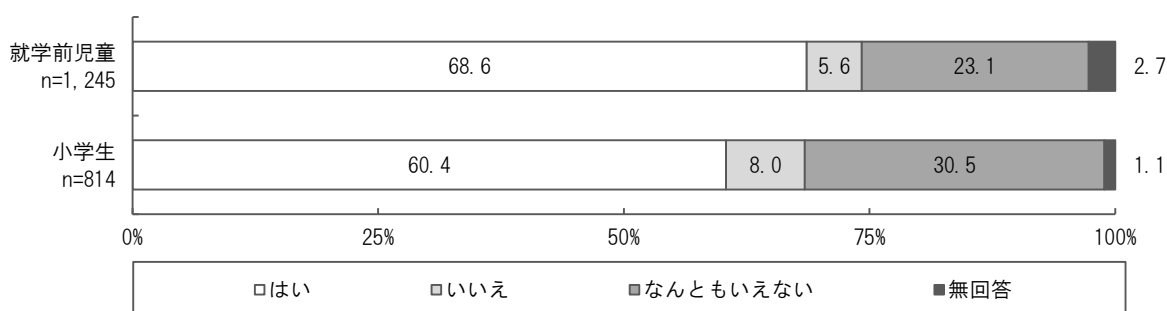


(3) 子育てのゆとりや気持ち

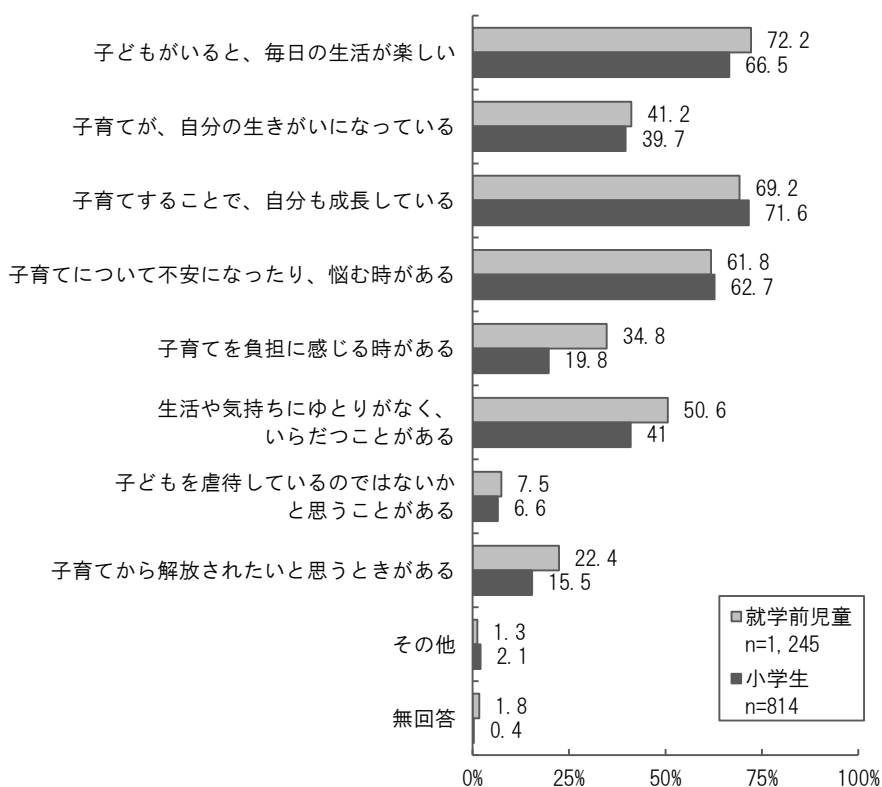
○ゆっくりとした気分でお子さんと過ごせる時間があるかについては、「はい」が就学前68.6%、小学生60.4%となっています。

○子どもを育てている、あなたの今の気持ちについては、就学前では「子どもがいて、毎日の生活が楽しい」が72.2%と最も高く、次いで「子育てすることで、自分も成長している」が69.2%となっており、小学生では「子育てすることで、自分も成長している」が71.6%と最も高く、次いで「子どもがいて、毎日の生活が楽しい」が66.5%となっています。

問11 ゆっくりとした気分でお子さんと過ごせる時間があるか



問11-2 子どもを育てている、あなたの今の気持ち



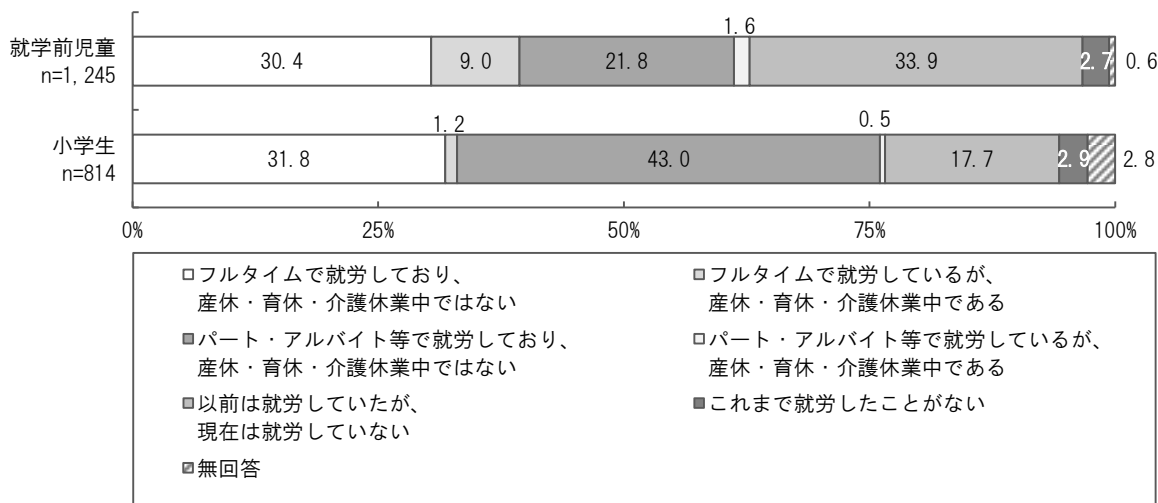
4 保育者の就労状況

(1) 母親の就労状況

○母親の就労状況については、就学前児童では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が33.9%と最も高く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が30.4%となっています。小学生では「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が43.0%と最も高く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が31.8%となっています。

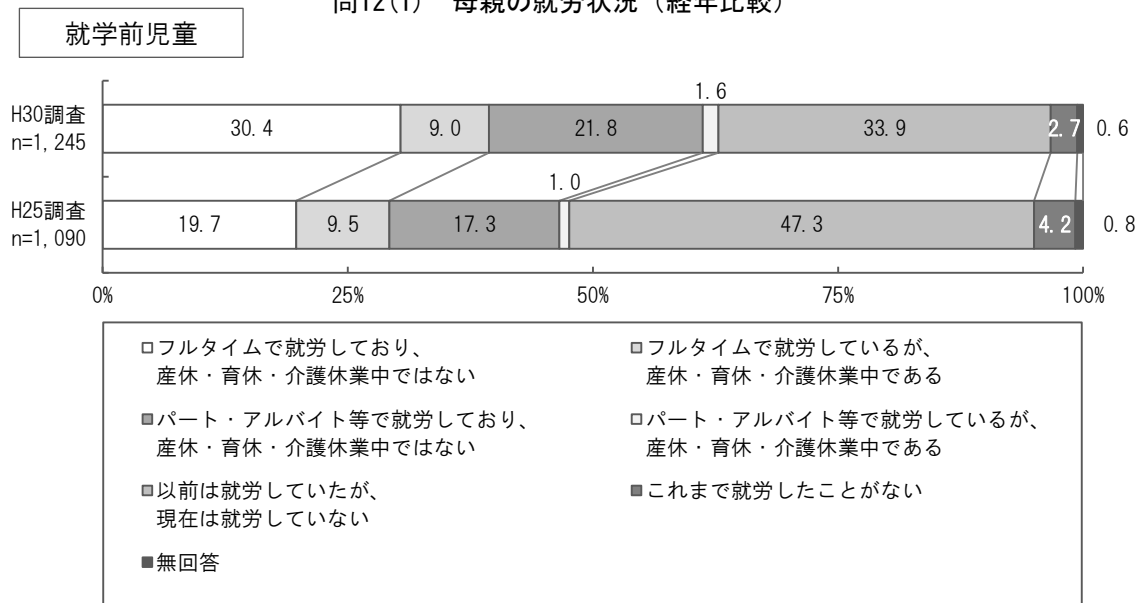
○「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」を合わせた現在就労している方（休業中を除く）は、就学前児童で52.2%、小学生で74.8%となっています。

問12[問7] 母親の就労状況

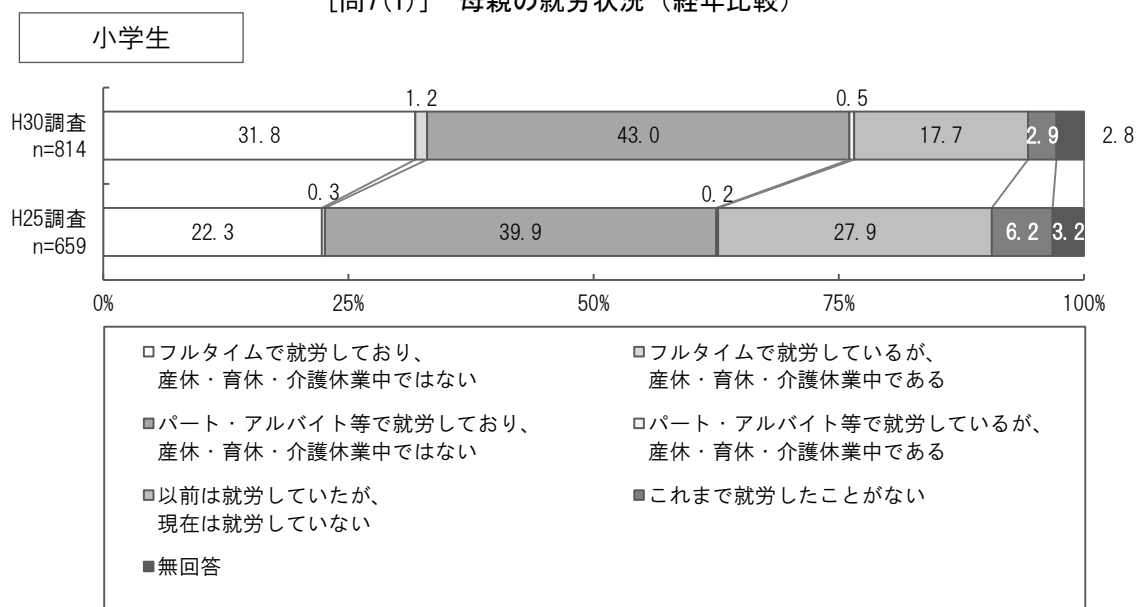


○前回調査と比較すると、就労している母親の割合が、就学前児童では15.2ポイント、小学生では12.6ポイント高くなっています。

問12(1) 母親の就労状況（経年比較）



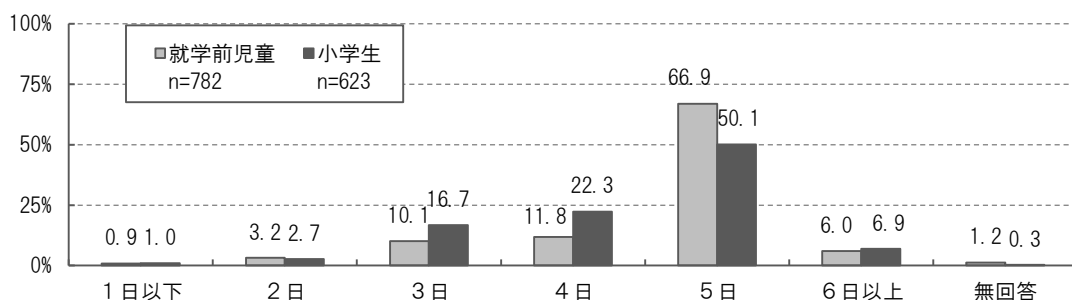
[問7(1)] 母親の就労状況（経年比較）



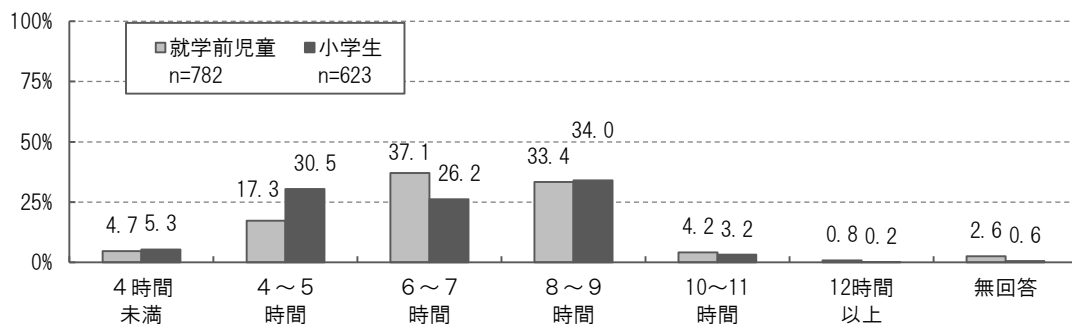
○母親の就労日数については、「5日」が最も高く、就学前児童66.9%、小学生50.1%となっています。就労時間については、就学前児童は「6～7時間」が37.1%、小学生は「8～9時間」が34.0%と最も高くなっています。

○母親の出勤時間については、「8時台」が最も高く、就学前児童47.1%、小学生54.1%となっています。また、帰宅時間については、「18～19時台」が最も高く、就学前児童52.7%、小学生42.7%となっています。

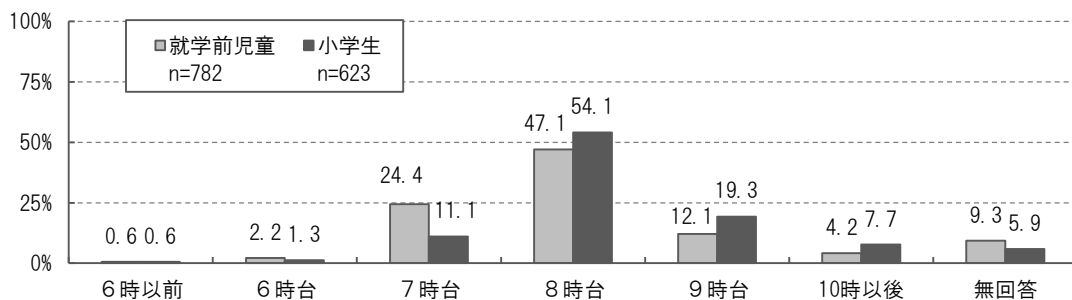
問12(1)-1[問7(1)-1] 母親の就労日数（1週当たり）



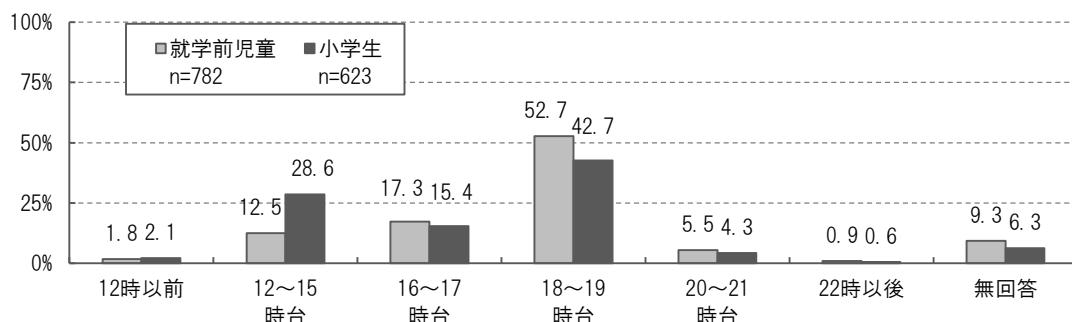
問12(1)-1[問7(1)-1] 母親の就労時間（1日当たり）



問12(1)-2[問7(1)-2] 母親の出勤時間

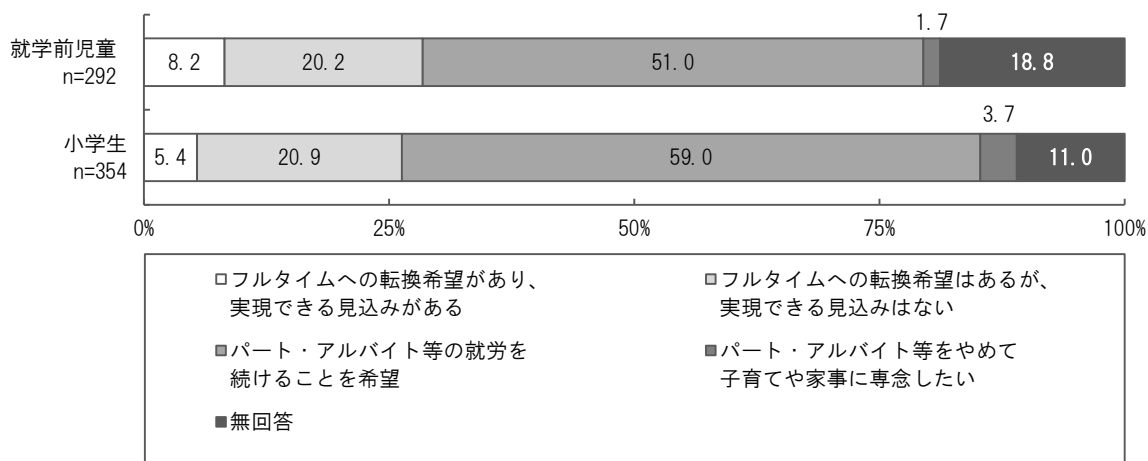


問12(1)-2[問7(1)-2] 母親の帰宅時間



○「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」と「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」を合わせたパートタイムからフルタイムへの転換希望がある母親は、就学前児童で28.4%、小学生で26.3%となっています。

問13(1) [問8(1)] 母親のパートタイムからフルタイムへの転換意向



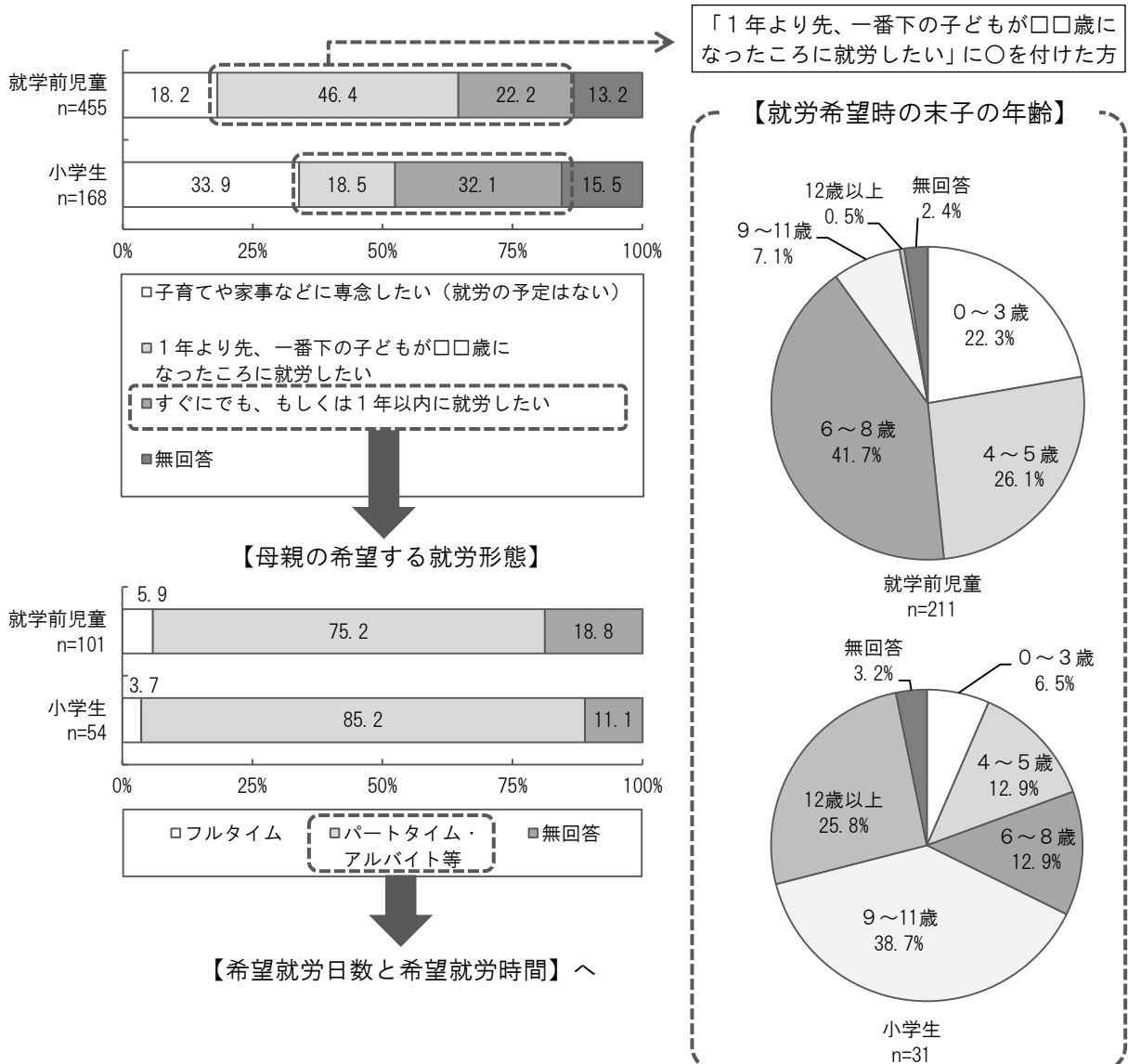
○現在就労していないが今後の就労希望がある就学前児童の母親は68.6%、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」が46.4%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が22.2%となっています。

○「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」母親が希望する就労形態は「パートタイム、アルバイト等」が75.2%、「フルタイム」が5.9%となっています。また、「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」母親の就労時期となる子どもの年齢は「6～8歳」が最も高く、41.7%となっています。

○現在就労していないが今後の就労希望がある小学生の母親は50.6%、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」が18.5%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が32.1%となっています。

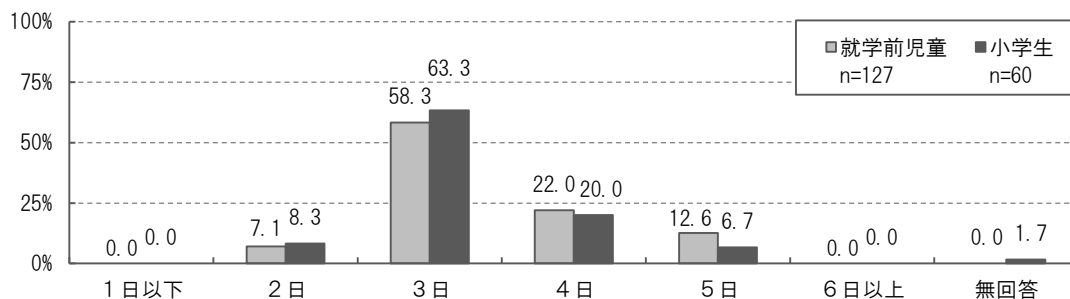
○「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」母親が希望する就労形態は「パートタイム、アルバイト等」が85.2%、「フルタイム」が3.7%となっています。また、「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」母親の就労時期となる子どもの年齢は「9～11歳」が最も高く、38.7%となっています。

問14(1) [問9(1)] 就労していない母親の今後の就労意向

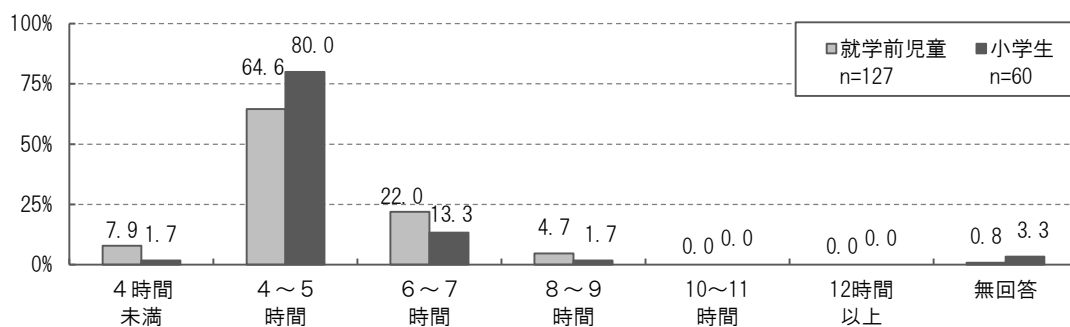


○パートタイム・アルバイト等での就労を希望する母親の希望就労日数は、「3日」が最も高く、就学前児童58.3%、小学生63.3%となっています。また、希望就労時間は「4～5時間」が最も高く、就学前児童64.6%、小学生80.0%となっています。

問14(1)-3②[問9(1)-3②] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労日数(1週当たり)



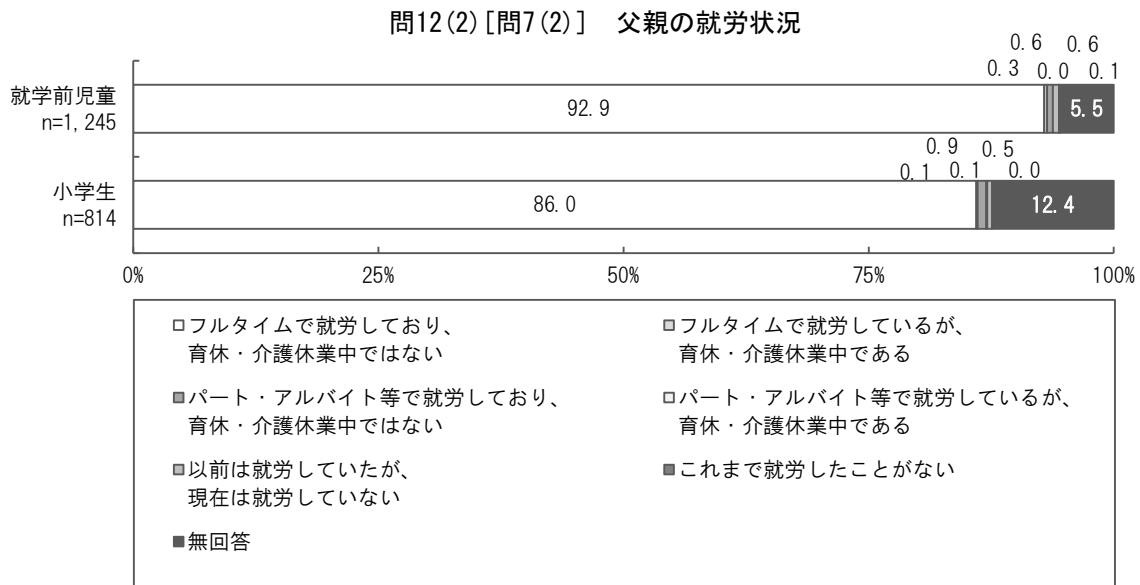
問14(1)-3②[問9(1)-3②] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労時間(1日当たり)



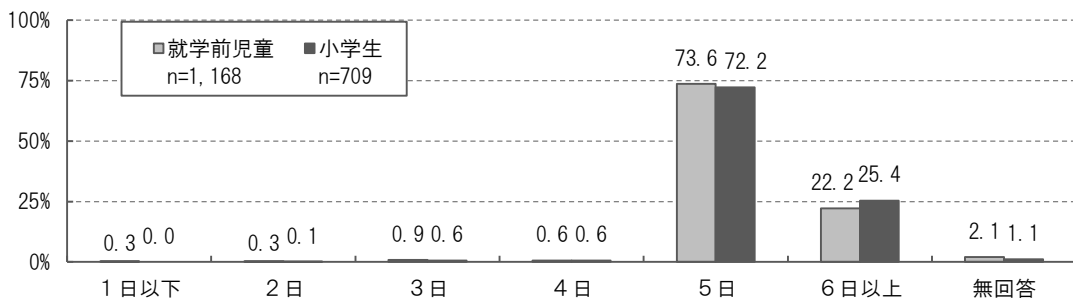
(2) 父親の就労状況

○父親の就労状況については、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」を合わせた現在就労している方（休業中を除く）は、就学前児童で93.5%、小学生で86.9%となっています。

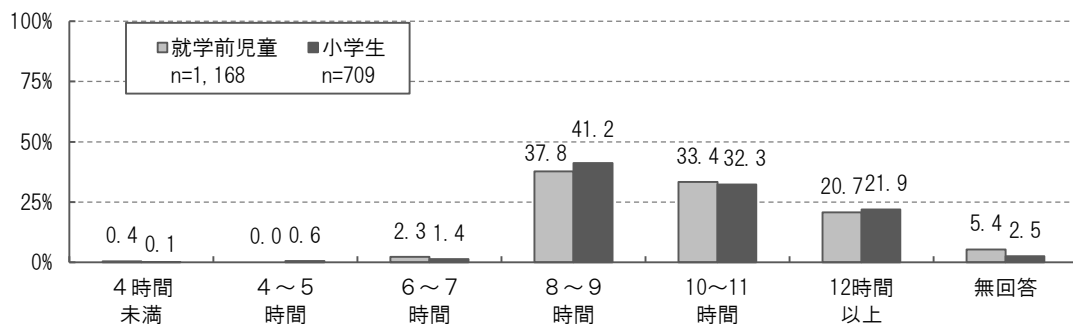
○父親の就労日数については、「5日」が最も高く、就学前児童73.6%、小学生72.2%、次いで「6日」が就学前児童22.2%、小学生25.4%となっています。また、就労時間については、「8～9時間」が最も高く、就学前児童37.8%、小学生41.2%、次いで「10～11時間」が就学前児童33.4%、小学生32.3%となっています。



問12(2)-1 [問7(2)-1] 父親の就労日数（1週当たり）



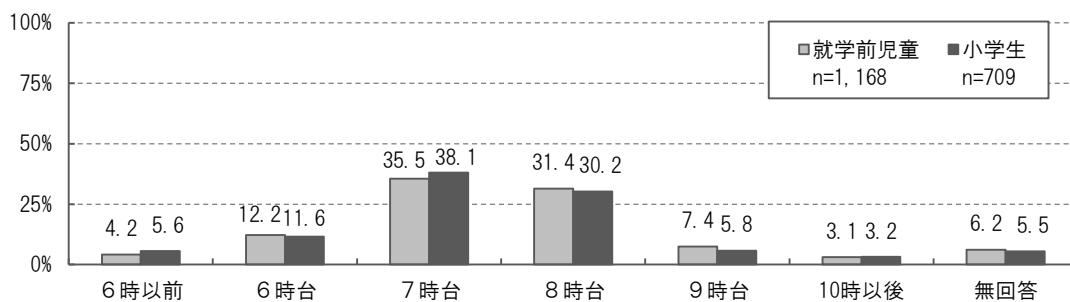
問12(2)-1 [問7(2)-1] 父親の就労時間（1日当たり）



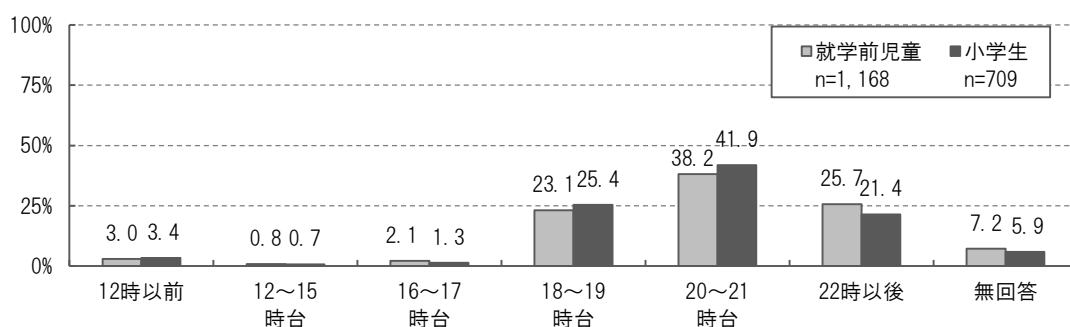
○父親の出勤時間は、「7時台」が最も高く、就学前児童35.5%、小学生38.1%となっており、帰宅時間は、「20～21時台」が最も高く、就学前児童38.2%、小学生41.9%となっています。

○父親のパートタイムからフルタイムへの転換希望は以下のとおりです。

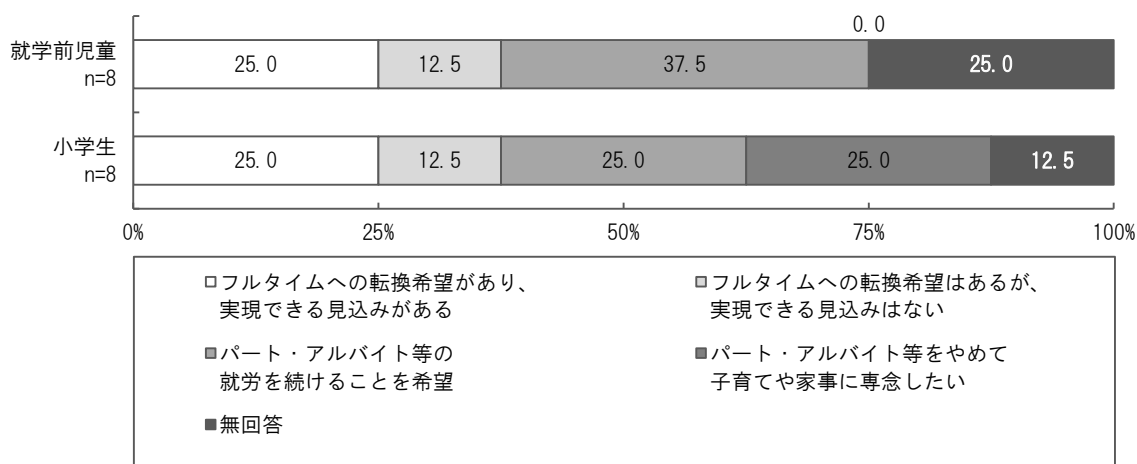
問12(2)-2[問7(2)-2] 父親の出勤時間



問12(2)-2[問7(2)-2] 父親の帰宅時間

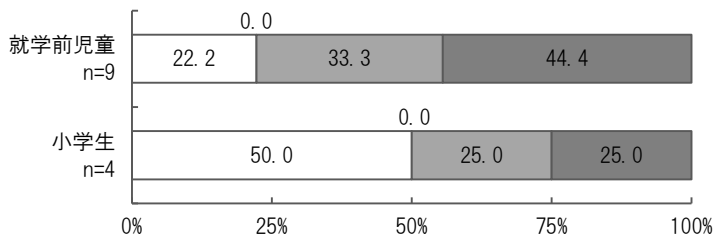


問13(2)[問8(2)] 父親のパートタイムからフルタイムへの転換希望



○現在就労していない父親の今後の就労希望は以下のとおりです。

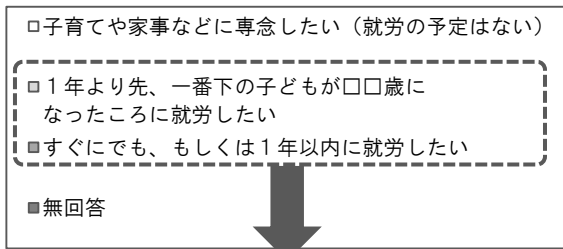
問14(2) [問9(2)] 就労していない父親の就労希望



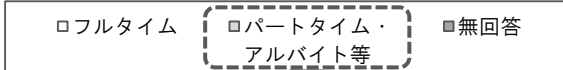
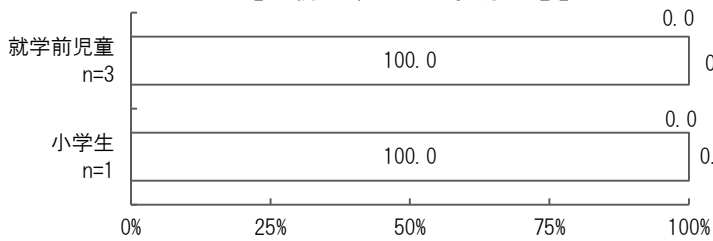
「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったときに就労したい」に○を付けた方

【就労希望時の末子の年齢】

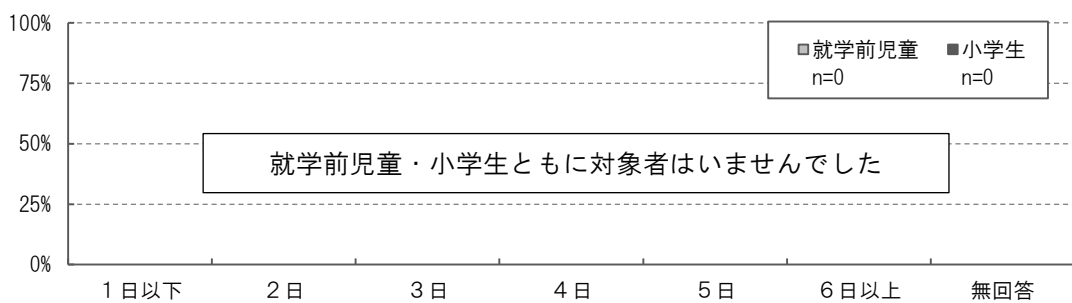
就学前児童・小学生ともに対象者はいませんでした



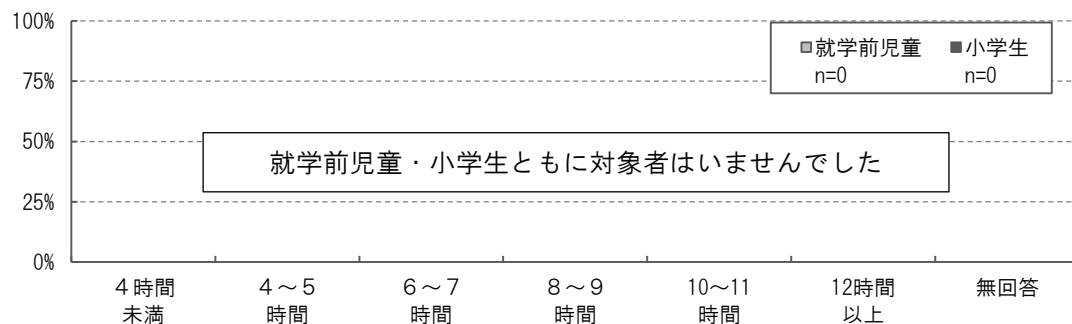
【父親の希望する就労形態】



問18-2-3② [問17-2-3②] 就労希望のある父親の希望就労日数 (1週当たり)



問18-2-3 [問17-2-3] 就労希望のある父親の希望就労時間 (1日当たり)



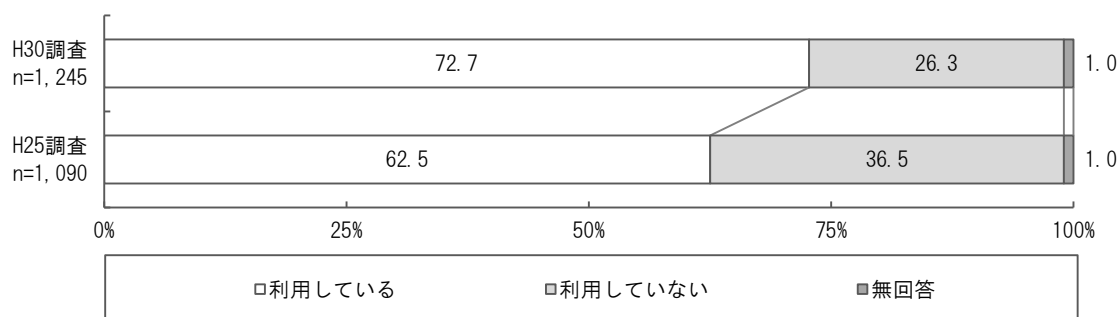
5 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

(1) 平日の定期的な教育・保育事業

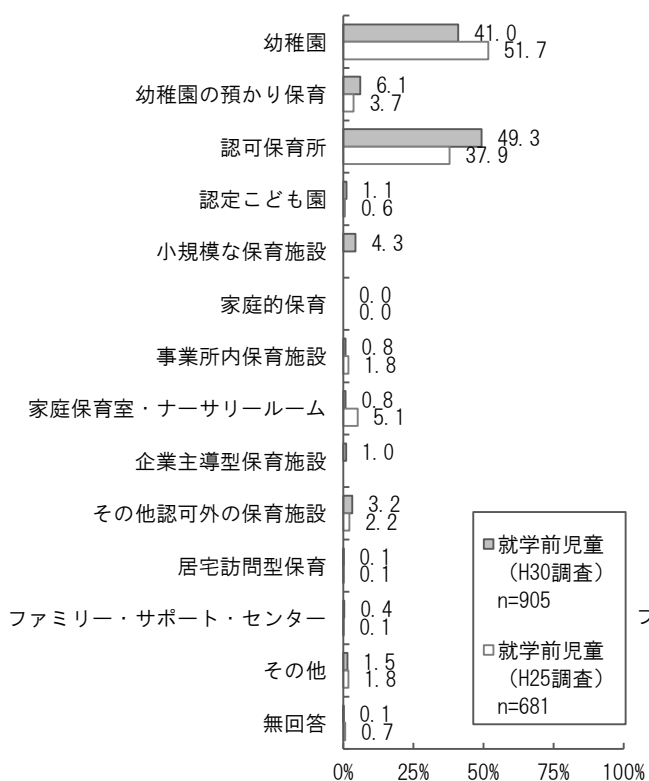
○定期的な教育・保育事業を「利用している」が72.7%となっており、前回調査と比較すると、「利用している」が10.2ポイント高くなっています。

○利用中の事業については、「認可保育所」が49.3%、「幼稚園」が41.0%となっています。一方、今後の利用希望では「幼稚園」が59.2%と、現状より18.2ポイント高く、「幼稚園の預かり保育」も38.4%と、現状より32.3ポイント高くなっており、需要が高まっていることがうかがえます。また、前回調査と比較すると、「幼稚園の預かり保育」が利用状況で2.4ポイント、利用希望で8.5ポイント高くなっています。

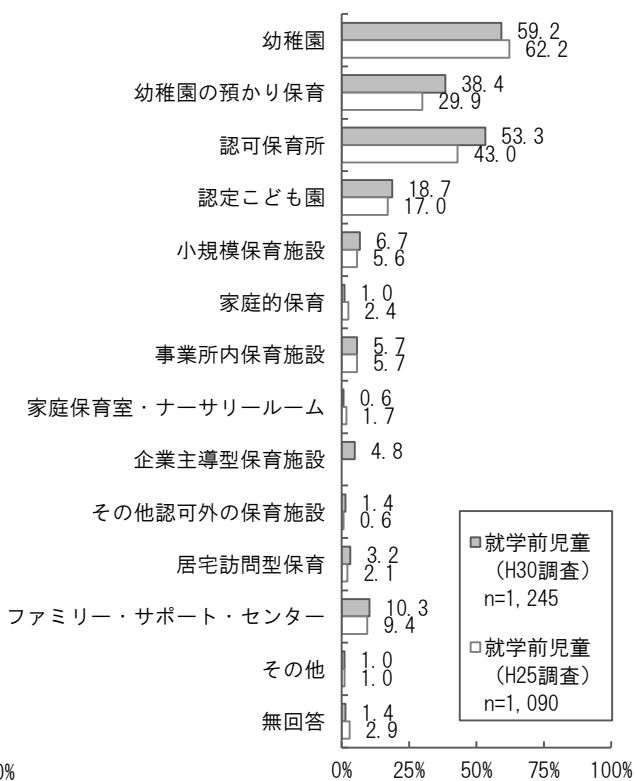
問15 定期的な教育・保育事業の利用状況（経年比較）



問15-1 定期的な教育・保育事業の利用状況（経年比較）



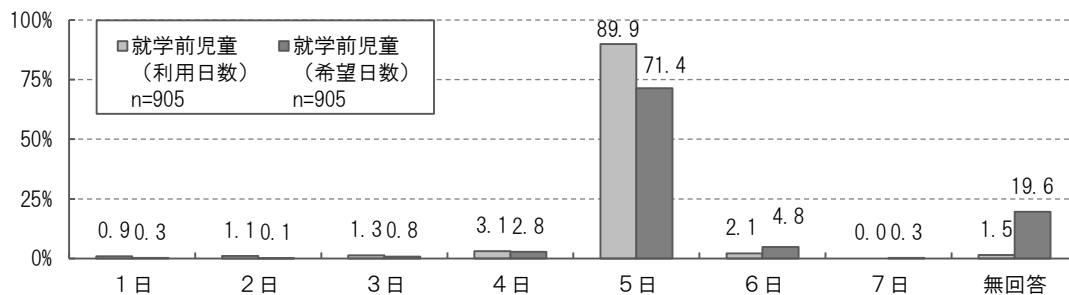
問16 希望する定期的な教育・保育事業（経年比較）



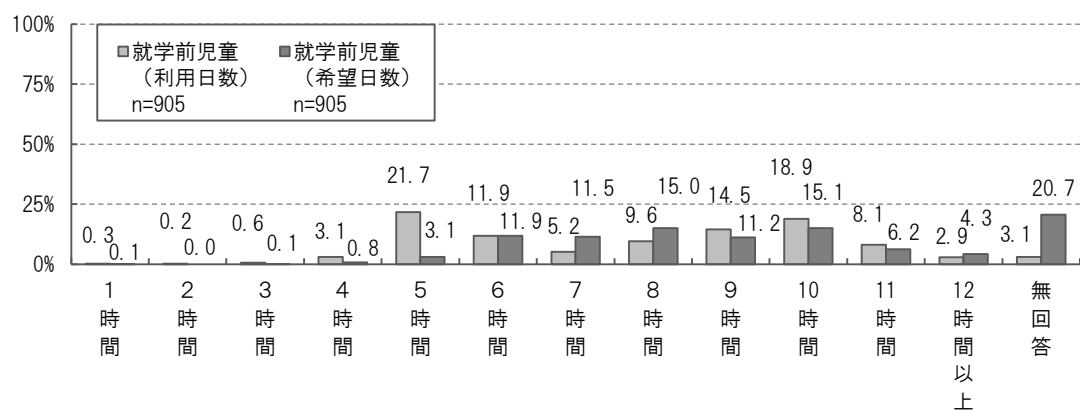
○定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数については、利用・希望ともに「5日」が最も高く、利用89.9%・希望71.4%となっています。

○利用時間と希望時間については、利用時間は「5時間」が21.7%、希望時間は「10時間」が15.1%と最も高くなっています。

問15-2(1)・15-2(2) 定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数（1週当たり）

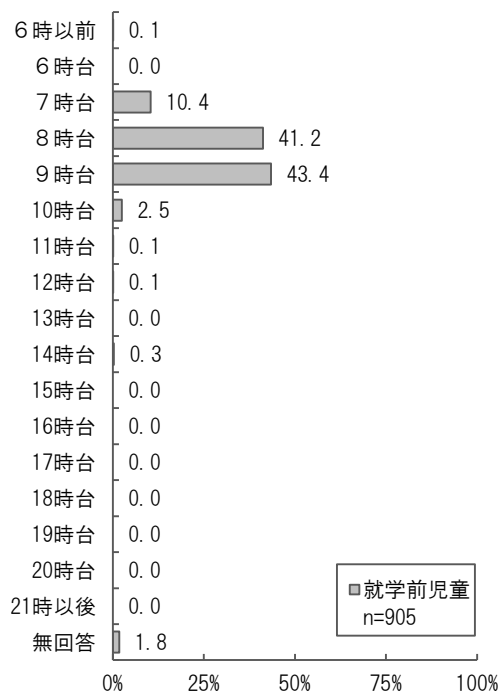


問15-2(1)・15-2(2) 定期的な教育・保育事業の利用時間と希望時間（1日当たり）

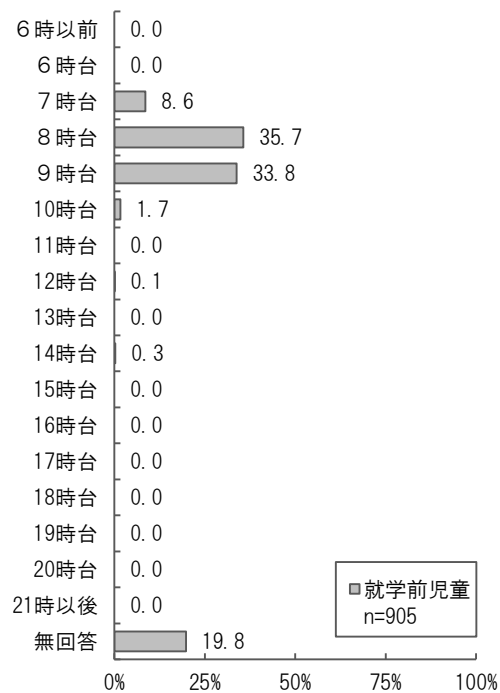


- 利用開始時間・希望開始時間ともに「8時台」「9時台」が高くなっています。
- 利用終了時間は、「14時台」から「18時台」が高く、希望終了時間は「15時台」から「18時台」が高くなっています。

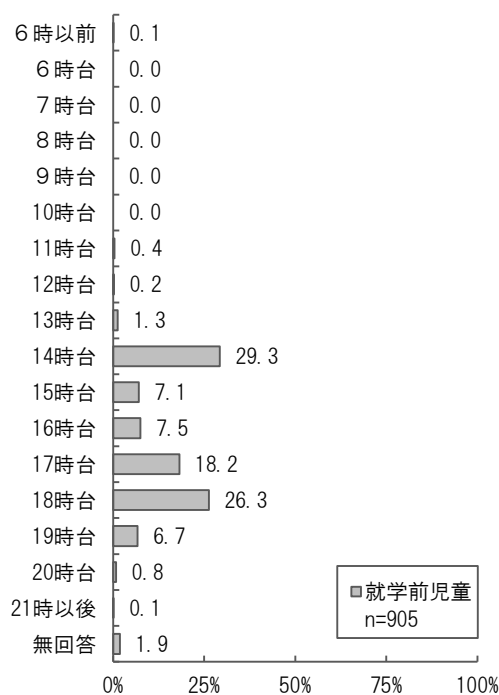
問15-2(1) 利用開始時間



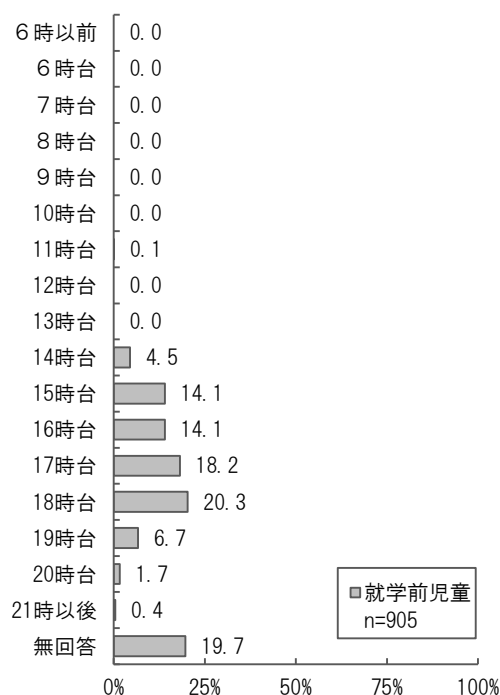
問15-2(2) 希望開始時間



問15-2(1) 利用終了時間

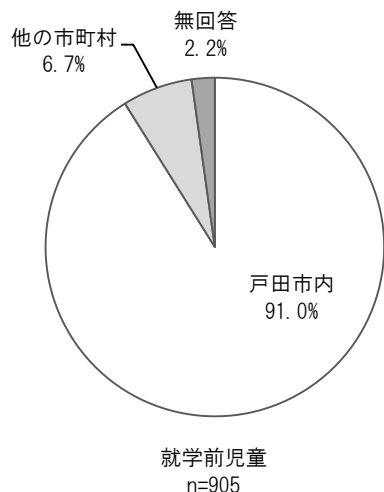


問15-2(2) 希望終了時間

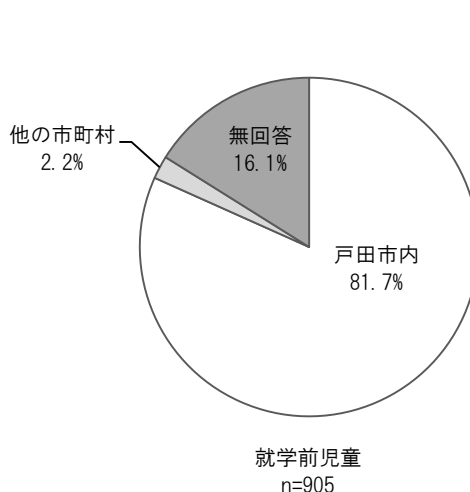


- 現在利用している教育・保育事業の実施場所については、「戸田市内」が91.0%となっています。
- 希望する教育・保育事業の実施場所については、「戸田市内」が81.7%となっています。

問15-3 教育・保育事業の実施場所

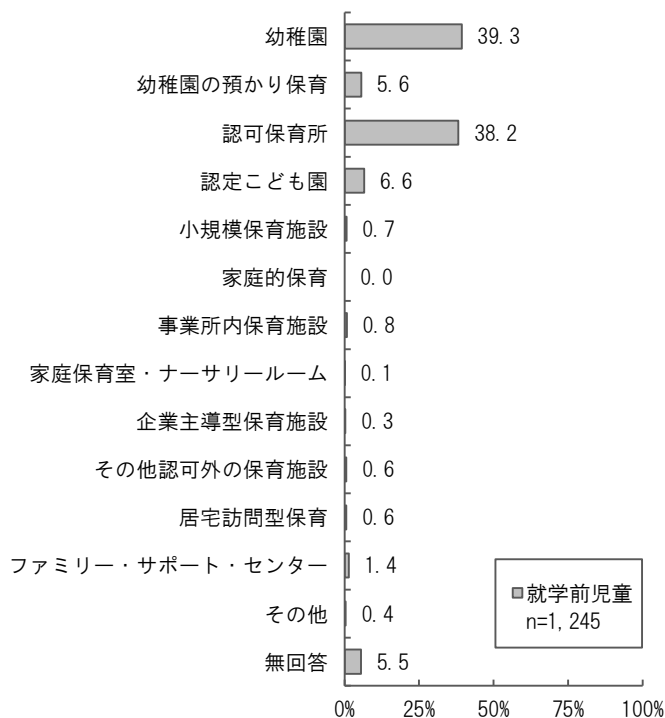


問16-4 教育・保育事業の希望実施場所



- 最も利用したい事業については、「幼稚園」が39.3%、「認可保育所」が38.2%となっています。

問16-1 最も利用したい定期的な教育・保育事業

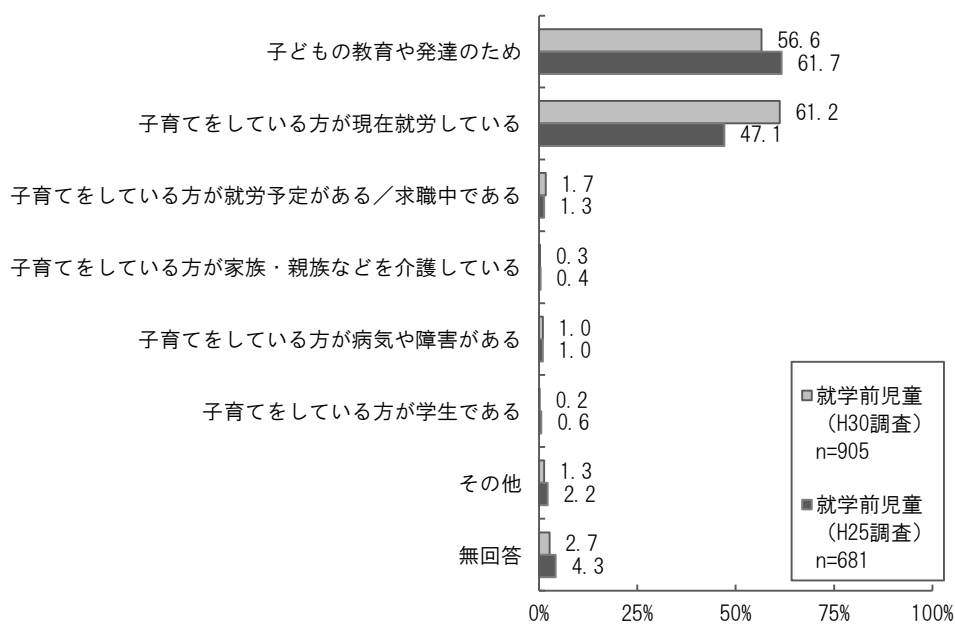


(2) 定期的な教育・保育事業の利用理由と未利用の理由

○平日に教育・保育事業を利用している理由は、「子育てをしている方が現在就労している」が61.2%と最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」が56.6%となっています。

○前回調査と比較すると、「子育てをしている方が現在就労している」が14.1ポイント高くなっています。

問15-4 平日に教育・保育事業を利用している理由（経年比較）

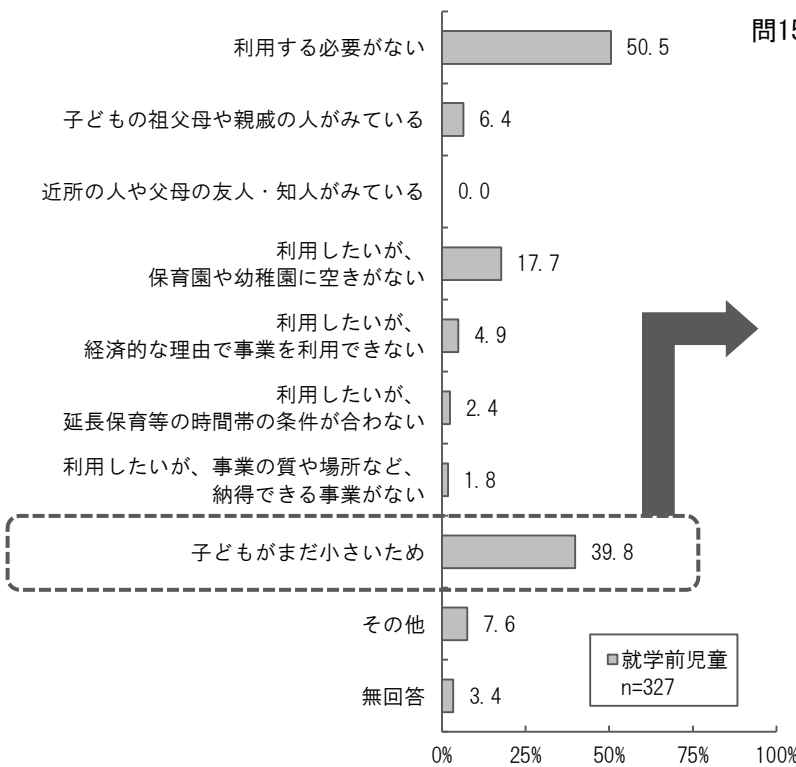


○利用していない理由は、「利用する必要がない」が50.5%と最も高く、次いで、「子どもがまだ小さいため」が39.8%となっています。

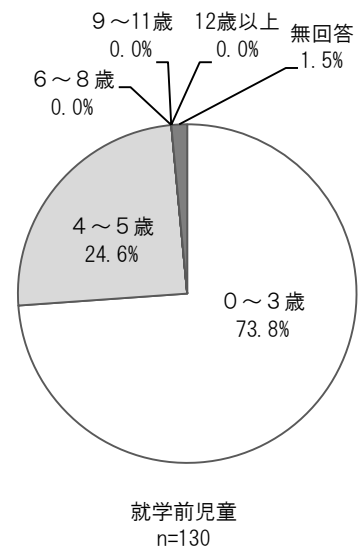
○「子どもがまだ小さいため（□歳くらいになったら利用しようと考えている）」と回答した方が、教育・保育事業の利用を希望する子どもの年齢は、「0～3歳」が73.8%となっています。

○平日の教育・保育事業の中で、特に幼稚園の利用を強く希望している方は62.4%となっています。

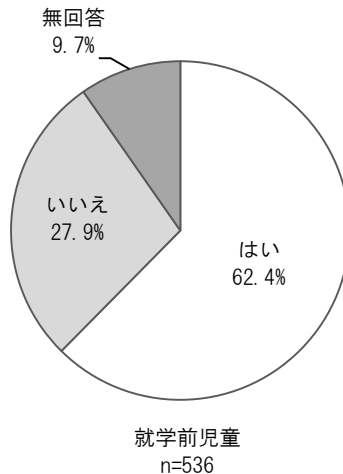
問15-5 教育・保育事業を利用していない理由



問15-5.8 利用を希望する子どもの年齢

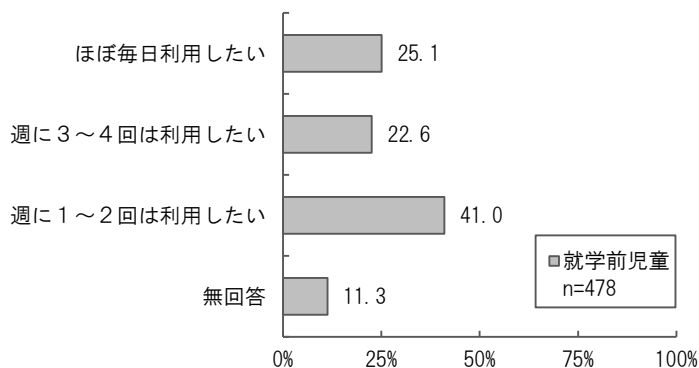


問16-1 幼稚園の利用意向（強く希望）の有無



○希望する幼稚園の預かり保育の頻度は、「週に1～2回は利用したい」が41.0%と最も高くなっています。

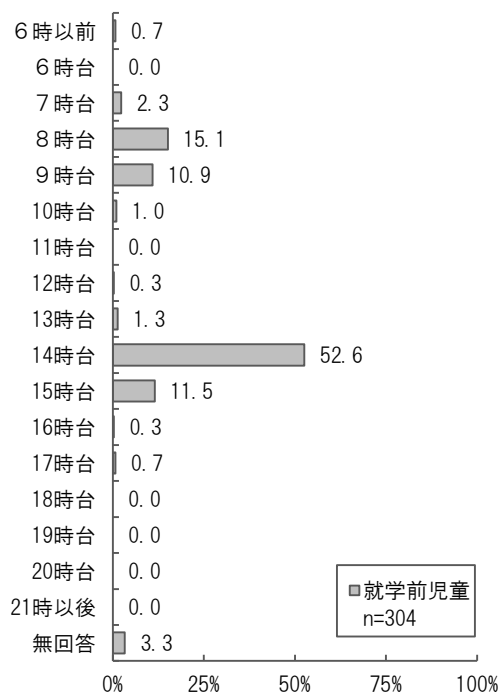
問16-3 希望する幼稚園の預かり保育の頻度



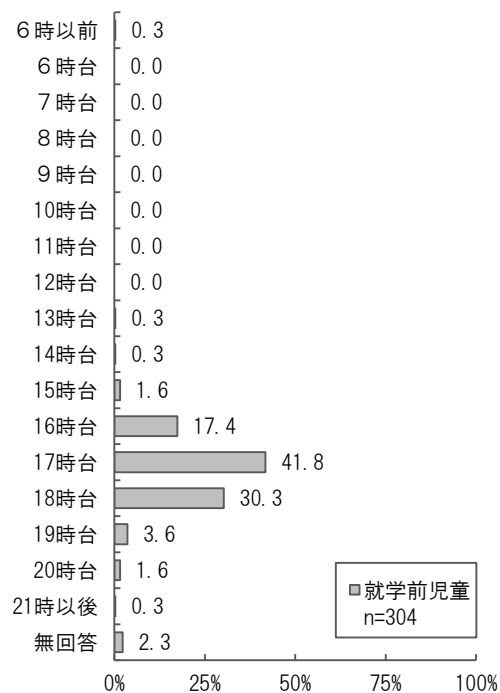
○希望開始時間は、「14時台」が最も高くなっています。

○希望終了時間は、「16時台」から「18時台」が高くなっています。

問16-3 (1) 希望開始時間



問16-3 (2) 希望終了時間

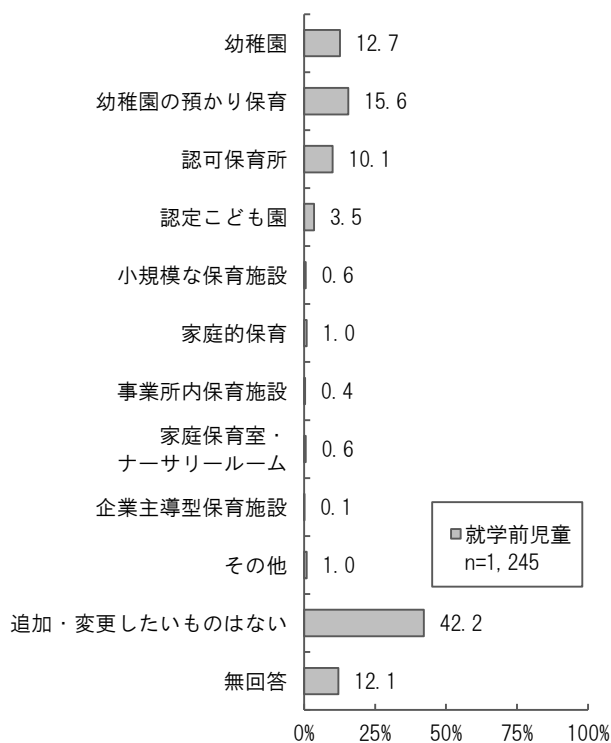


(3) 教育・保育サービスの無償化について

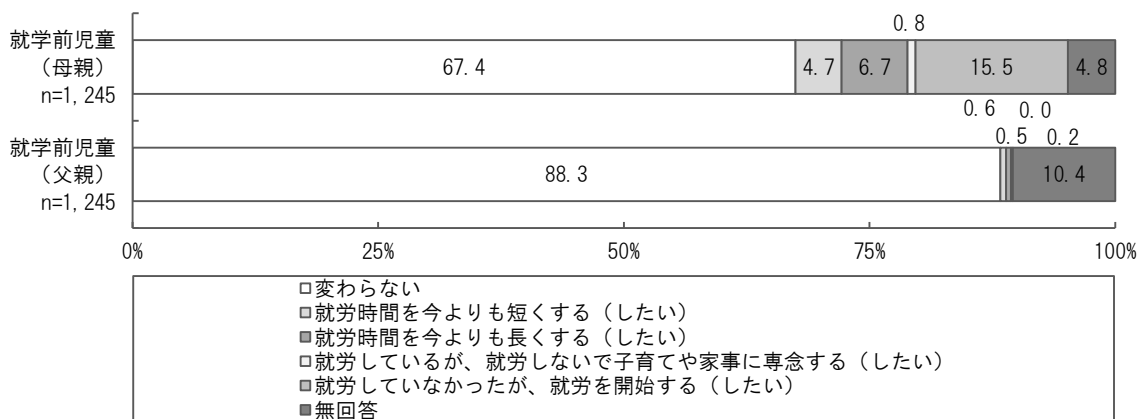
○教育・保育が無償化されるなら変更・追加したい事業については、「追加・変更したいものはない」が42.2%と最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」が15.6%となっています。

○教育・保育の無償化による就労状況の変化については、母親では「変わらない」が67.4%、次いで「就労していないが、就労を開始する(したい)」が15.5%となっています。父親では「変わらない」が88.3%となっています。

問16-5 教育・保育が無償化されるなら変更・追加したい事業



問16-6 教育・保育の無償化による就労状況の変化

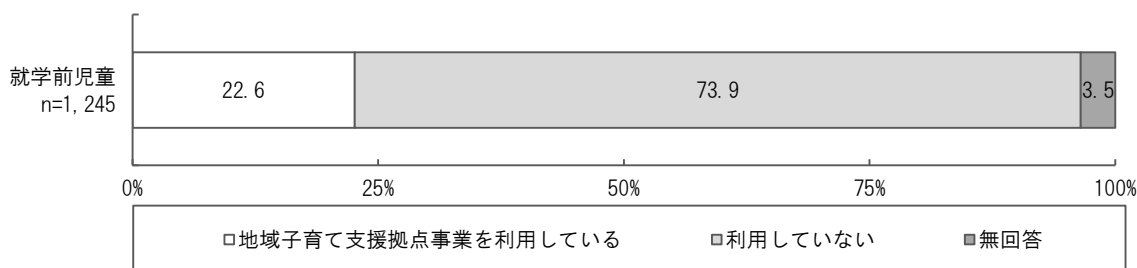


6 地域の子育て支援事業の現状と今後の利用希望

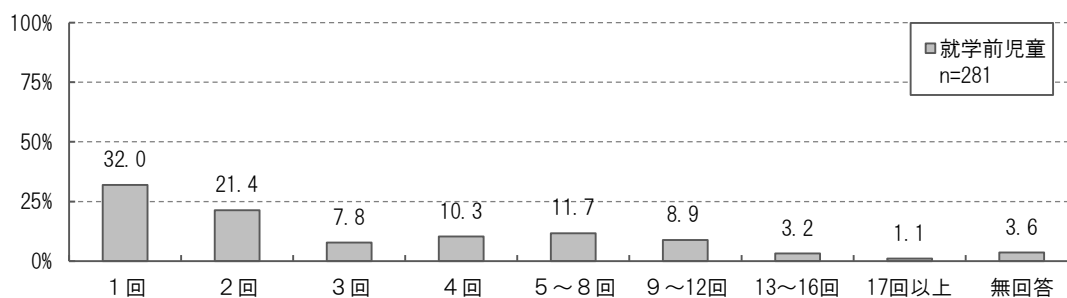
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況

- 地域子育て支援拠点事業の利用については、「利用している」は22.6%、「利用していない」は73.9%となっています。
- 地域子育て支援拠点事業の1ヶ月当たりの利用回数については、「1回」が32.0%、「2回」が21.4%、となっています。
- 地域子育て支援拠点事業の利用施設については、「子育て支援センター」が45.2%と最も高く、次いで「児童センターこどもの国わんぱくタイム」は33.1%となっています。

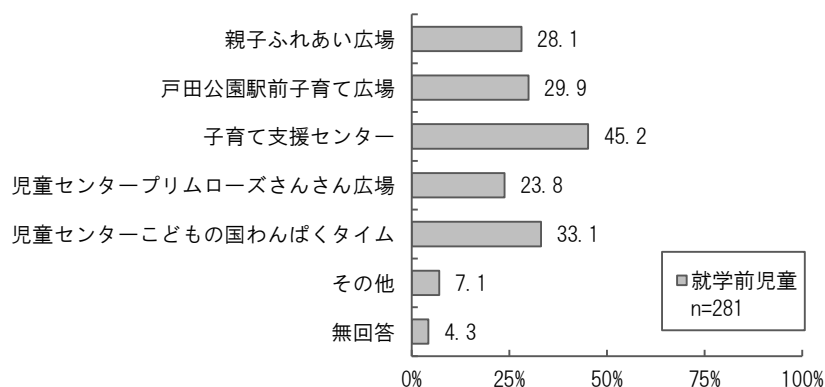
問17 地域子育て支援拠点事業の利用状況



問17.1 地域子育て支援拠点事業の利用回数（1ヶ月当たり）

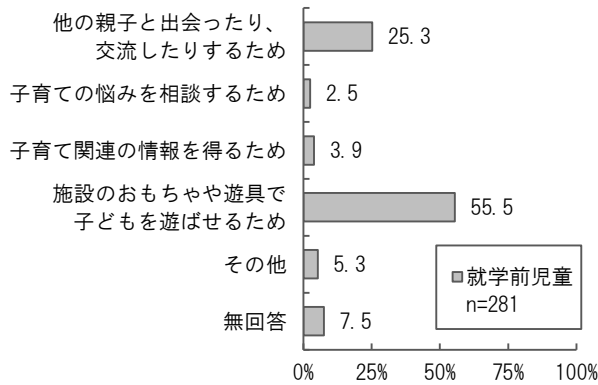


問17-1 地域子育て支援拠点事業の利用施設

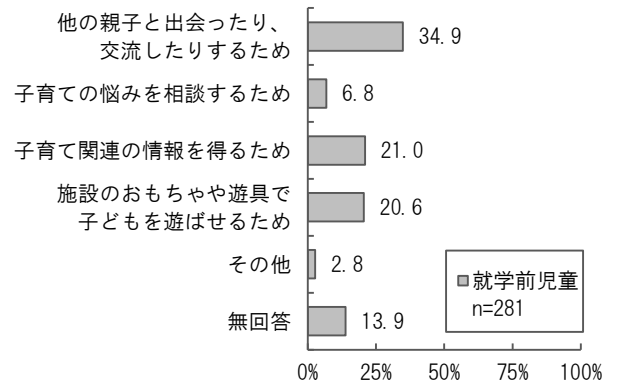


○施設を利用する目的については、1番目の目的として「施設のおもちゃや遊具で子どもを遊ばせるため」が55.5%と最も高く、次いで「他の親子と出会ったり、交流したりするため」が25.3%となっており、「他の親子と出会ったり、交流したりするため」は2番目の目的として34.9%と最も高くなっています。

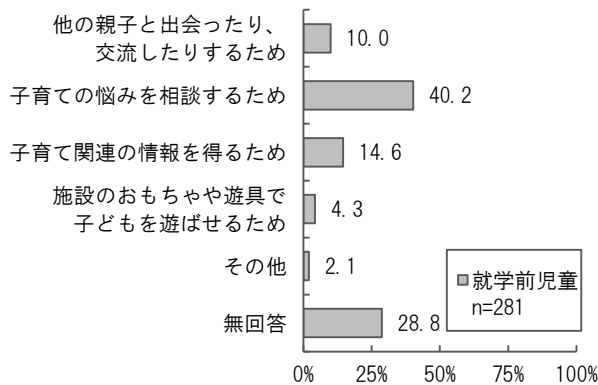
問17-2① 施設を利用する目的（1番目）



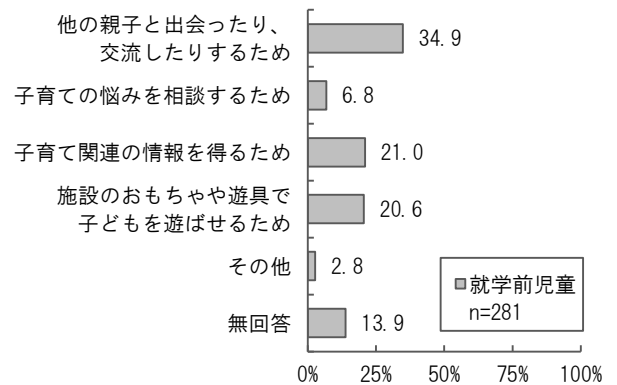
問17-2② 施設を利用する目的（2番目）



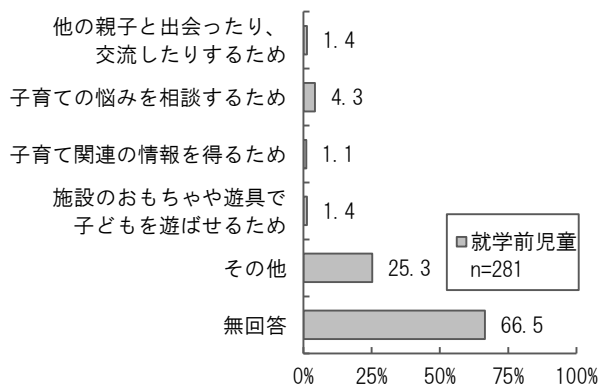
問17-2③ 施設を利用する目的（3番目）



問17-2④ 施設を利用する目的（4番目）

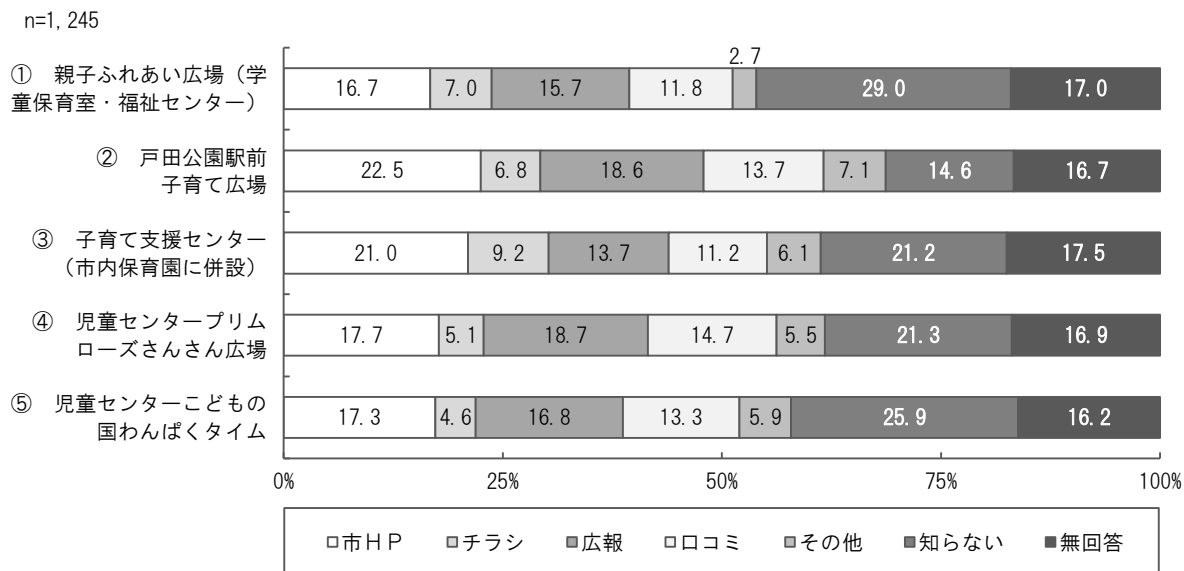


問17-2⑤ 施設を利用する目的（5番目）



○施設をどこで知ったかについては、「市HP」が16.7～22.5%、「広報」が13.7～18.7%となっています。

問18 施設をどこで知ったか

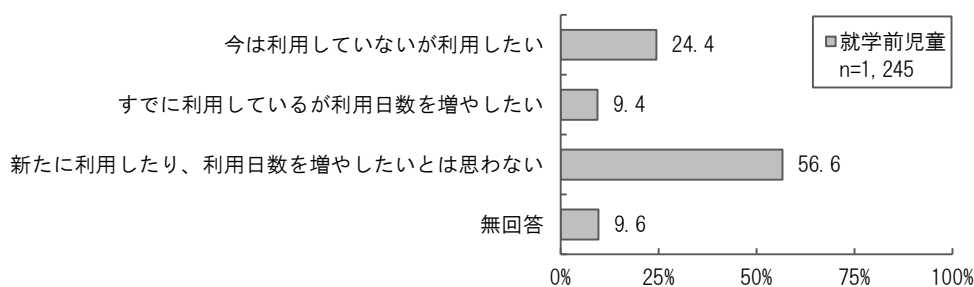


(2) 今後の利用意向

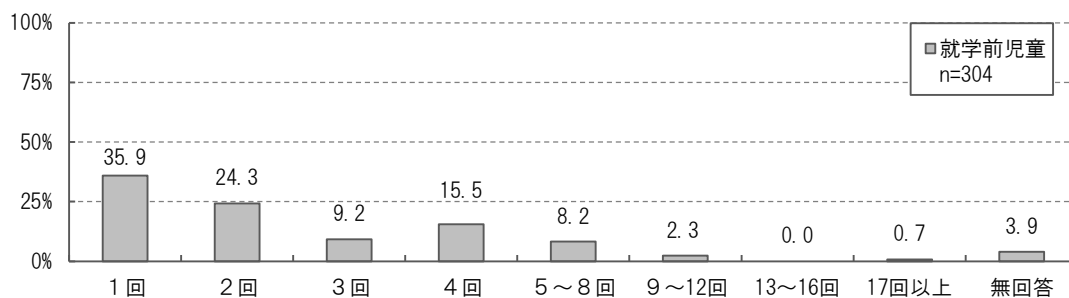
○地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向については、「今は利用していないが今後利用したい」は24.4%、「すでに利用しているが利用日数を増やしたい」は9.4%となっています。一方、56.6%が「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」と回答しています。

○未利用者の今後の利用希望回数は、「1回」が35.9%、「2回」が24.3%となっています。

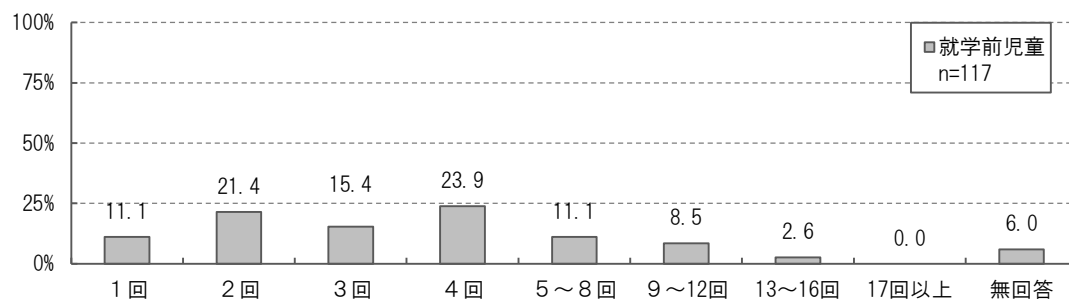
問19 地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向



問19.1 未利用者の今後の利用希望回数（1ヶ月当たり）



問19.2 既利用者の今後増やしたい利用回数（1ヶ月当たり）



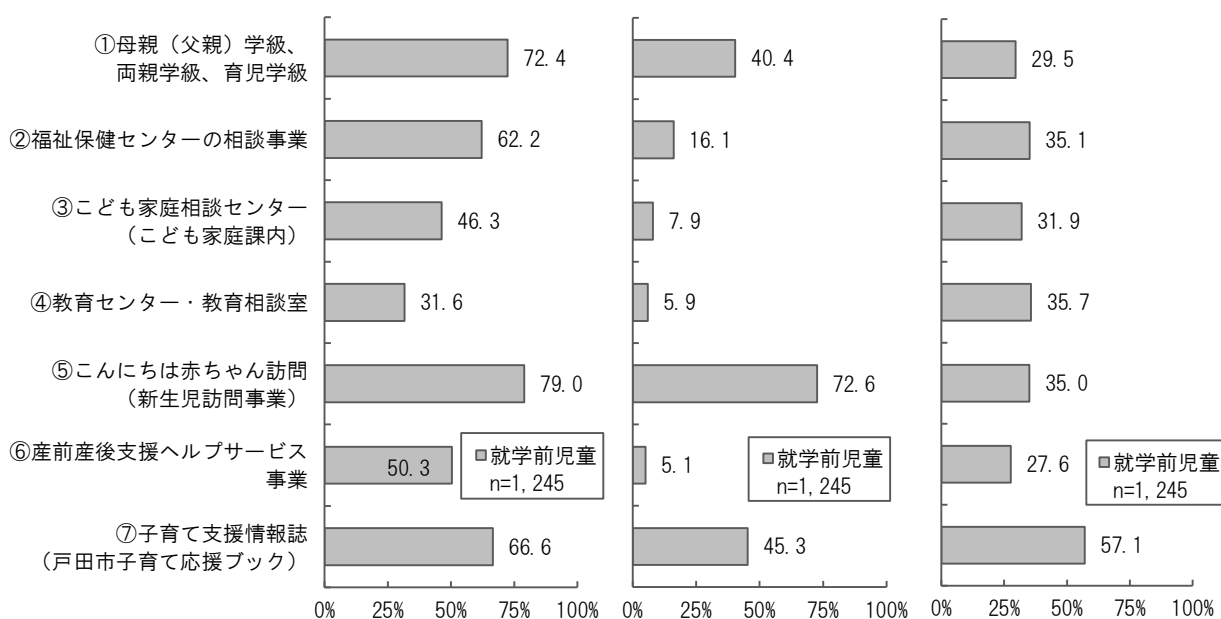
(3) 子育て支援事業の認知度・利用状況と今後の利用意向について

○子育て支援事業の認知度については、「こんにちは赤ちゃん訪問」が79.0%と最も高く、次いで「母親（父親）学級、両親学級、育児学級」が72.4%と、7割以上の方が知っているものの、「教育センター・教育相談室」が31.6%にとどまっています。

○利用したことがある事業については、「こんにちは赤ちゃん訪問」が72.6%と最も高く、次いで「子育て支援情報誌」が45.3%となっています。

○今後の利用希望については、「子育て支援情報誌」が57.1%と最も高く、次いで「教育センター・教育相談室」が35.7%となっています。

問20 A. 子育て支援事業の認知度 B. 利用したことがある C. 今後利用したい



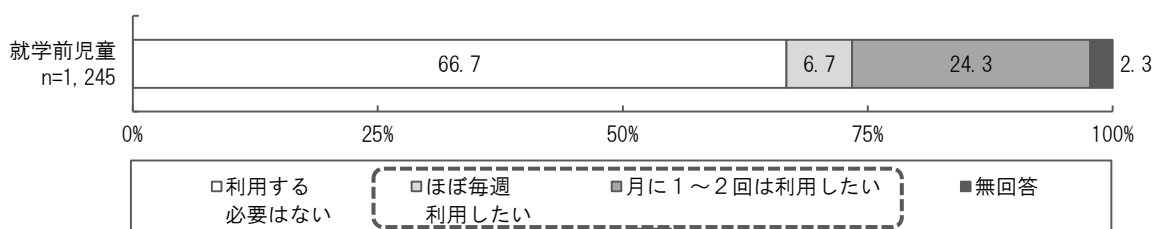
7 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望

(1) 土曜・休日の定期的な教育・保育事業の利用希望

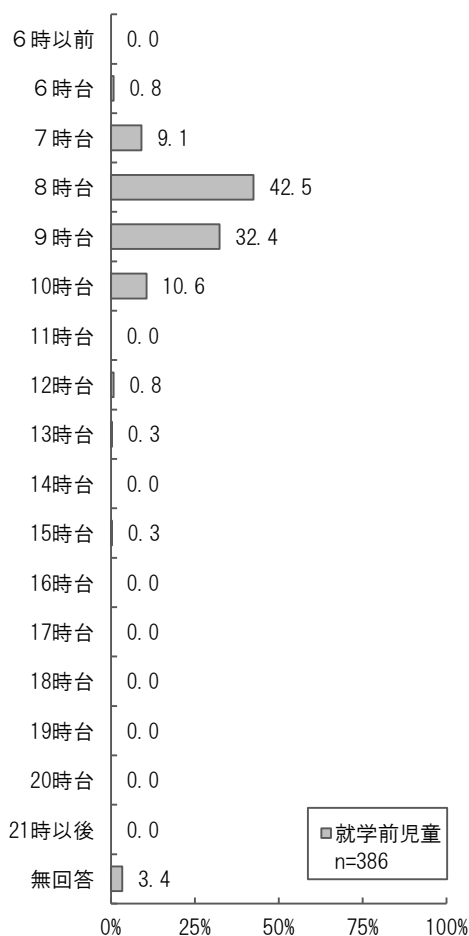
○土曜日の教育・保育事業の利用意向については、「ほぼ毎週利用したい」が6.7%、「月に1～2回は利用したい」が24.3%となっています。

○開始時間については「8時台」が42.5%、「9時台」が32.4%となっており、終了時間は「18時台」が31.9%、「17時台」が20.5%となっています。

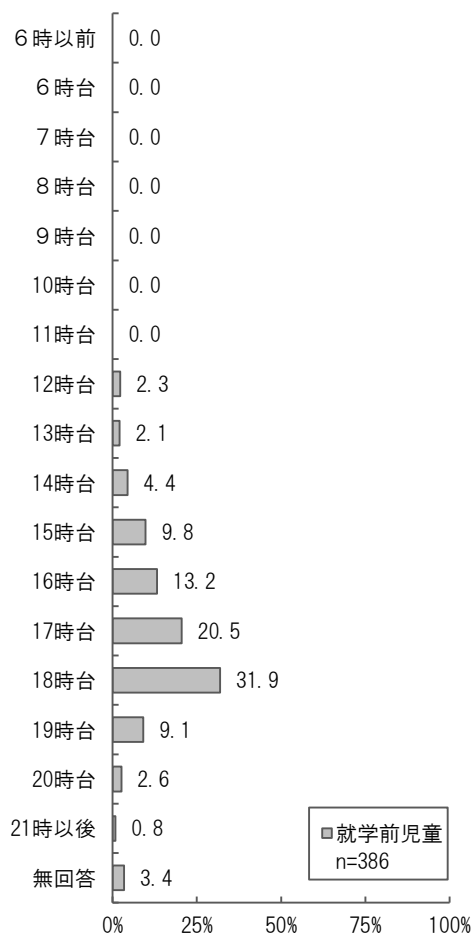
問21(1) 土曜日の利用希望



問21(1) 希望開始時間



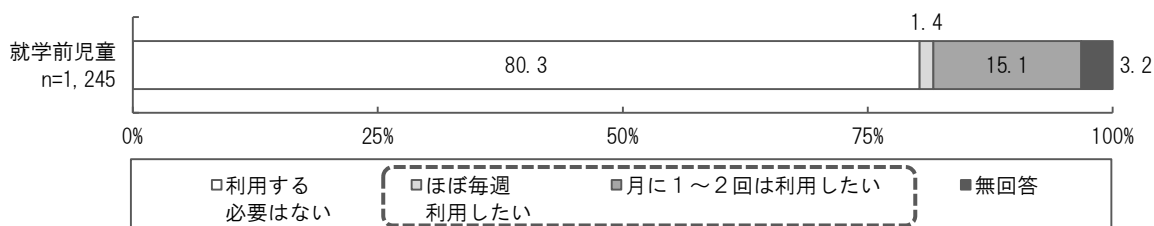
問21(1) 希望終了時間



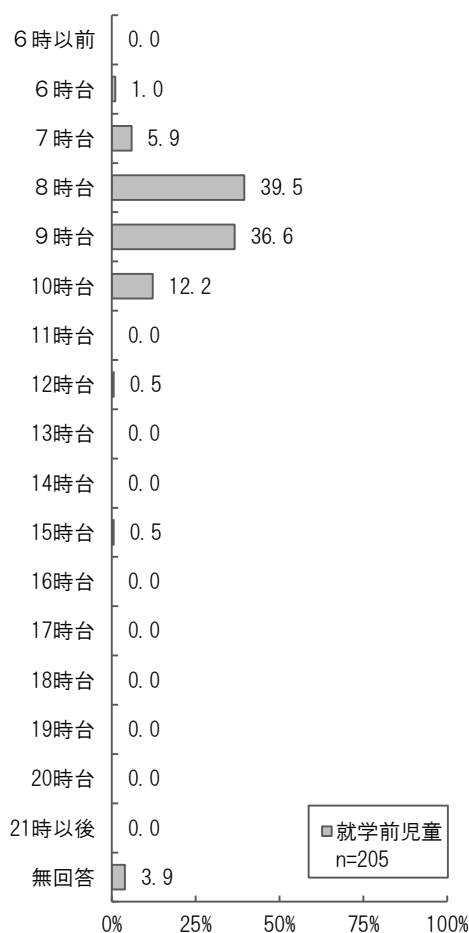
○日曜・祝日の教育・保育事業の利用希望をみると、「利用する必要はない」が80.3%となっているものの、「ほぼ毎週利用したい」が1.4%、「月に1～2回は利用したい」が15.1%と、あわせて16.5%が利用を希望しています。

○開始時間については「8時台」が39.5%、「9時台」が36.6%となっており、終了時間は「18時台」が29.8%、「17時台」が22.9%となっています。

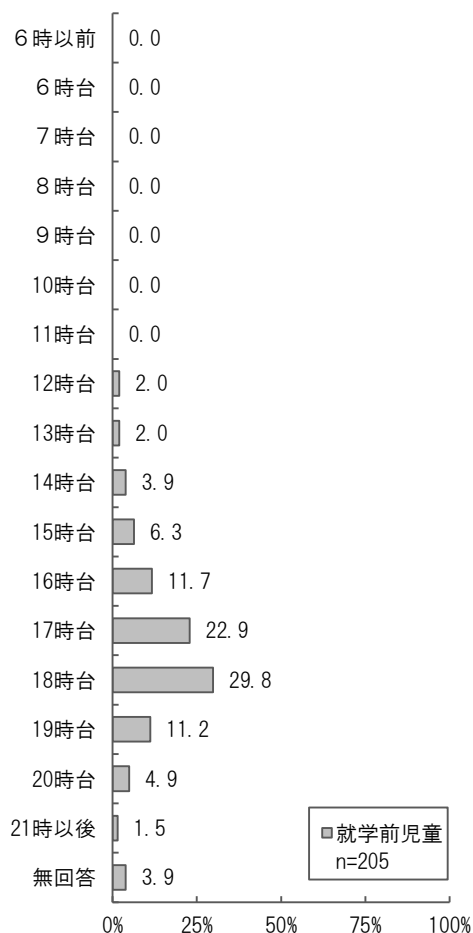
問21(2) 日曜・祝日の利用希望



問21(2) 希望開始時間

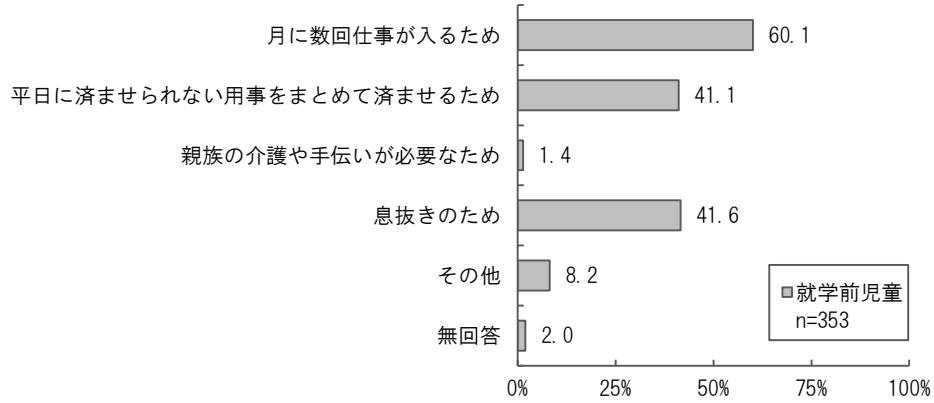


問21(2) 希望終了時間



○土曜日、日曜・祝日に「月に1～2回は利用したい」理由については、「月に数回仕事が入るため」が60.1%と最も高く、次いで「息抜きのため」が41.6%となっています。

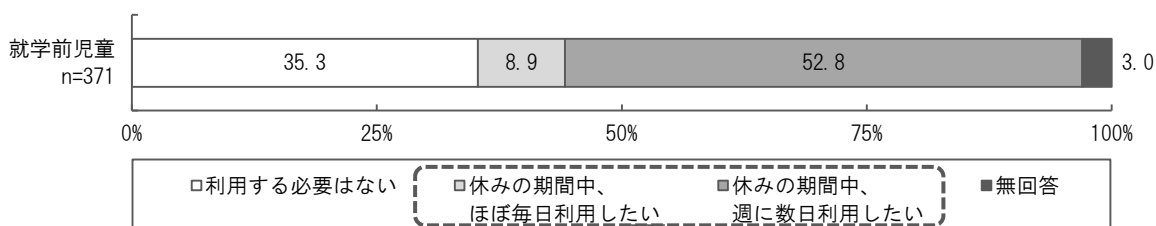
問21-1 毎週ではなく「月に1～2回利用したい」理由



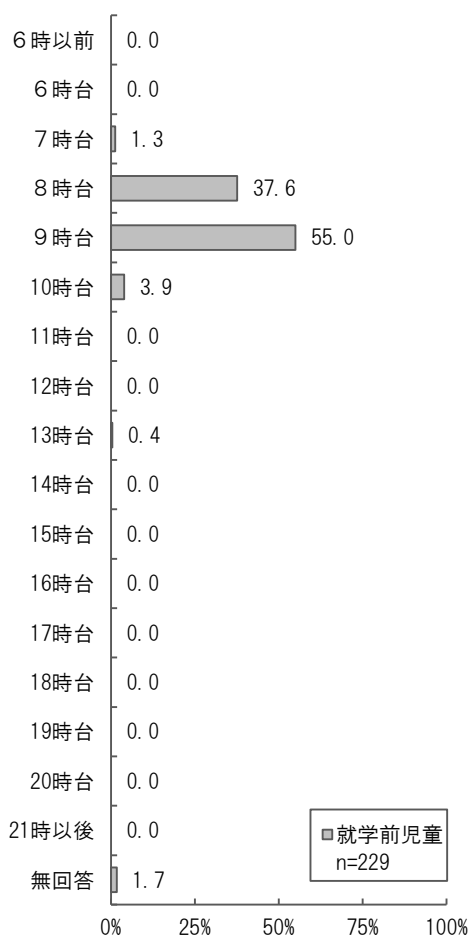
(2) 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望

○長期休暇中の教育・保育事業の利用意向については、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が8.9%、「休みの期間中、週に数日利用したい」が52.8%となっています。
 ○開始時間については「9時台」が55.0%、「8時台」が37.6%となっており、終了時間は「15時台」が28.8%、「17時台」が24.0%となっています。

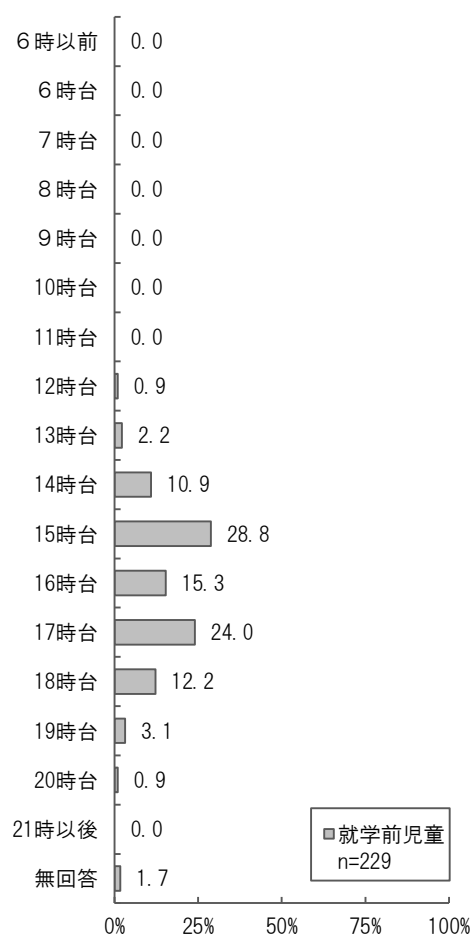
問22 長期休暇中の利用希望（幼稚園利用者）



問22 希望開始時間

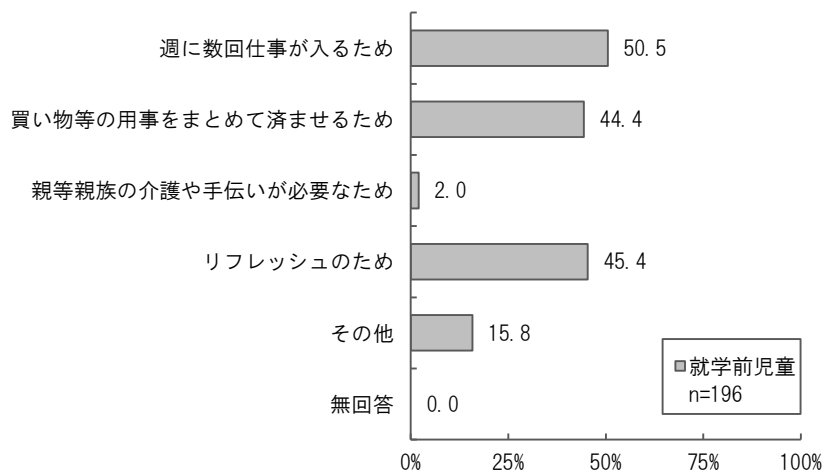


問22 希望終了時間



○長期休暇中に「週に数日利用したい」理由については、「週に数回仕事が入るため」が50.5%と最も高く、次いで「リフレッシュのため」が45.4%となっています。

問22-1 「休みの期間中、週に数日利用したい」理由



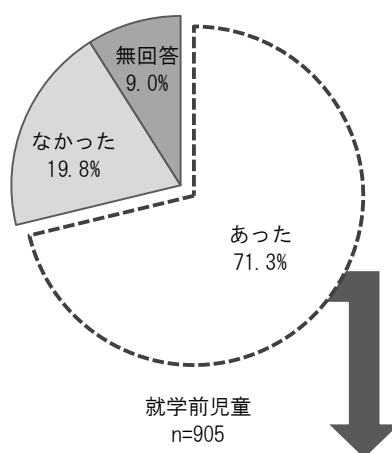
8 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

(1) 病気やケガで保育所や幼稚園が利用できない時の対処について

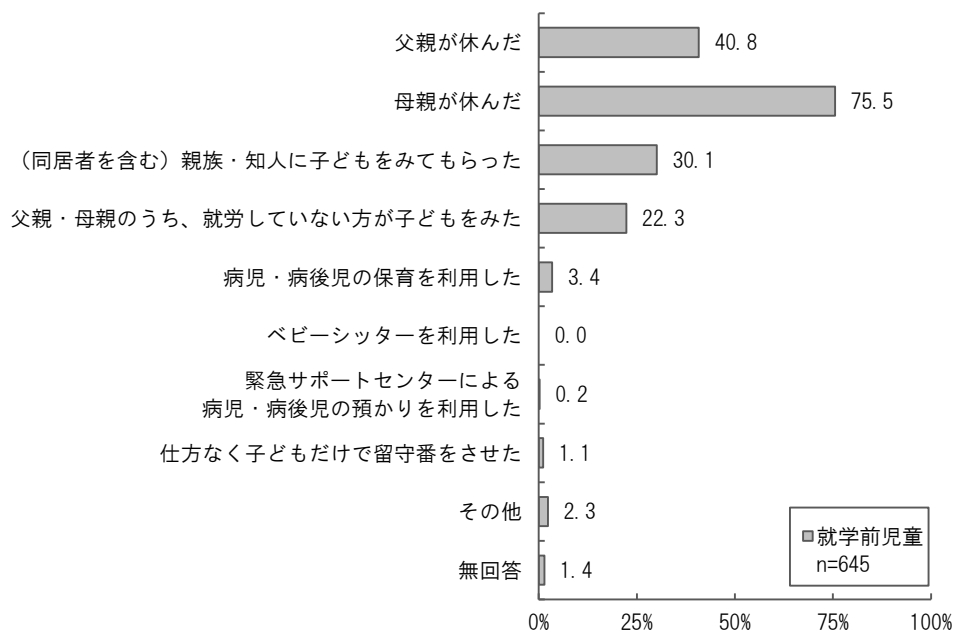
○病気やケガで保育所や幼稚園が利用できなかったことが「あった」方は71.3%となっています。

○その際の対処方法については、「母親が休んだ」が75.5%と最も高く、次いで「父親が休んだ」が40.8%、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」が30.1%となっています。

問23 病気やケガで教育・保育事業を利用できなかったことの有無

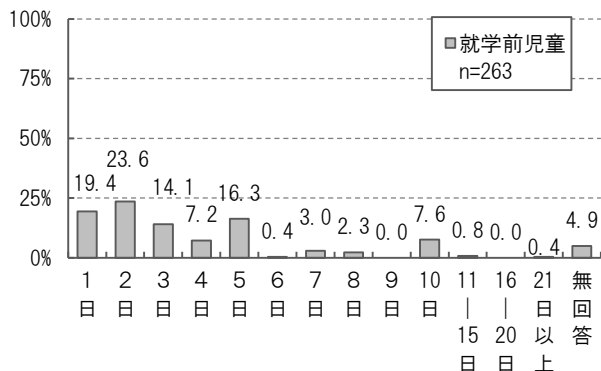


問23-1 この1年間の対処方法

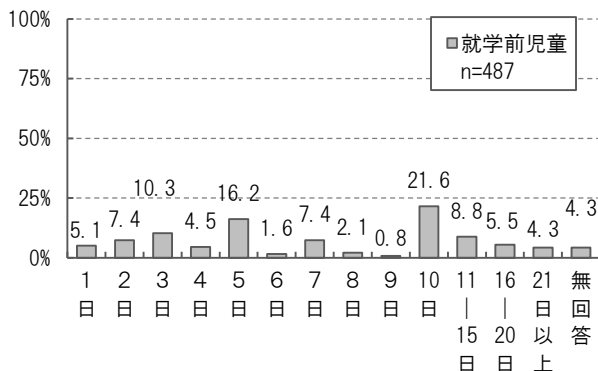


○この1年間の対処方法別の日数については、『母親が休んだ日数』は「10日」が21.6%、「5日」が16.2%となっており、『父親が休んだ日数』は「2日」が23.6%、「1日」が19.4%となっています。

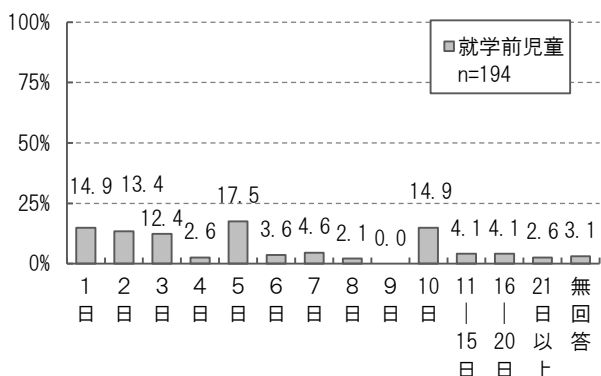
問23-1.1 父親が休んだ日数



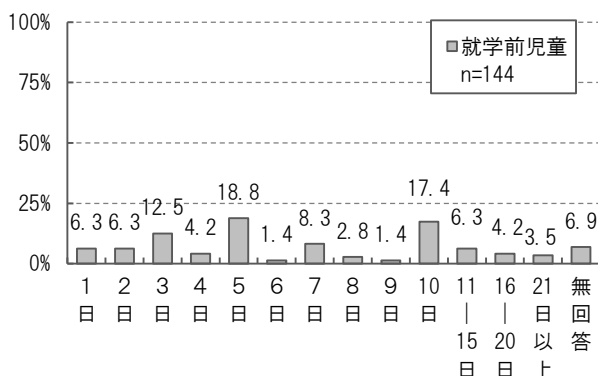
問23-1.2 母親が休んだ日数



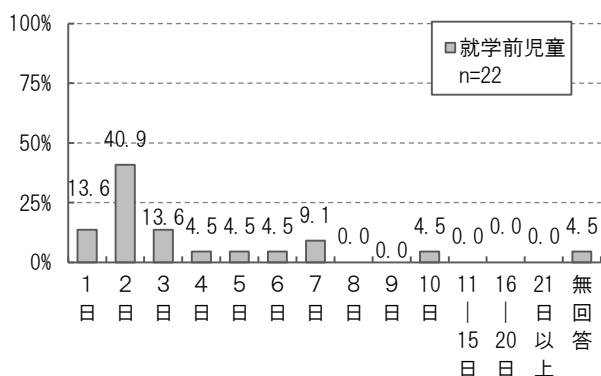
問23-1.3 (同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった日数



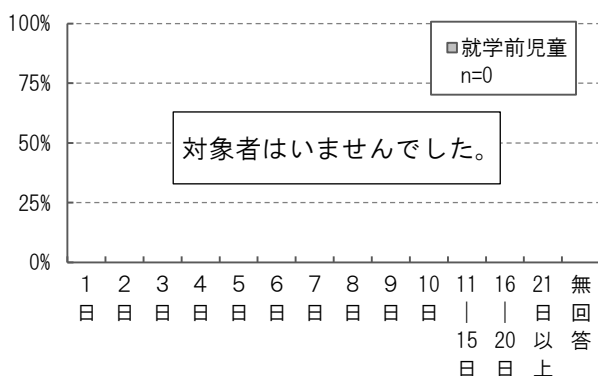
問23-1.4 父親・母親のうち、就労していない方が子どもをみた日数



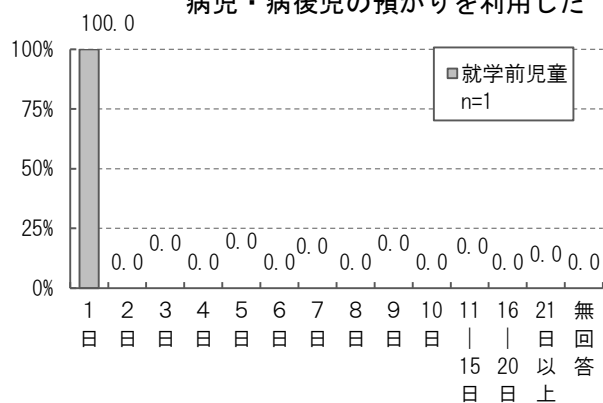
問23-1.5 病児・病後保育センターの保育を利用した日数



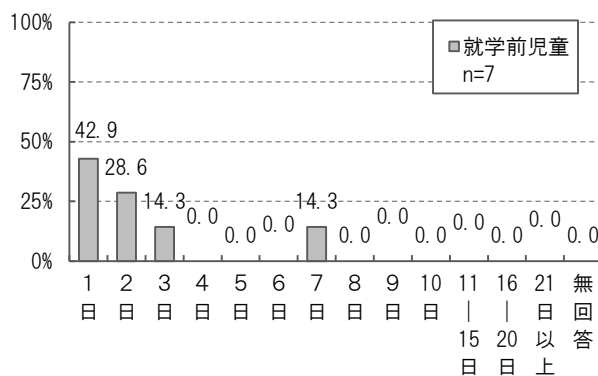
問23-1.6 ベビーシッターを利用した日数



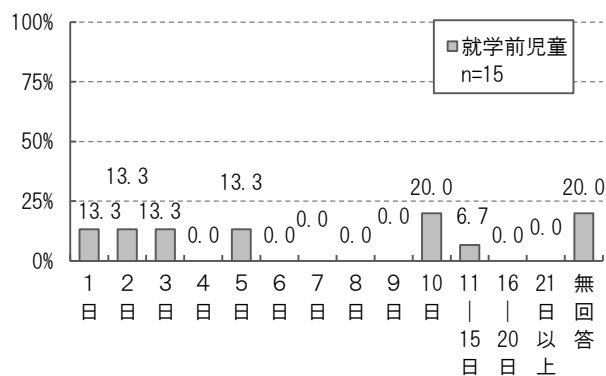
問23-1.7 緊急サポートセンターによる
病児・病後児の預かりを利用した



問23-1.8 仕方なく子どもだけで
留守番をさせた日数

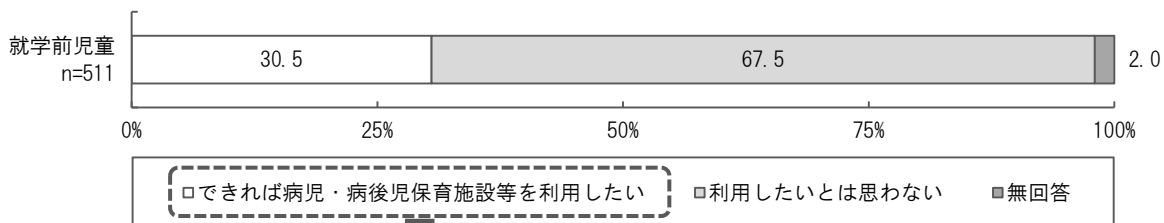


問23-1.9 その他

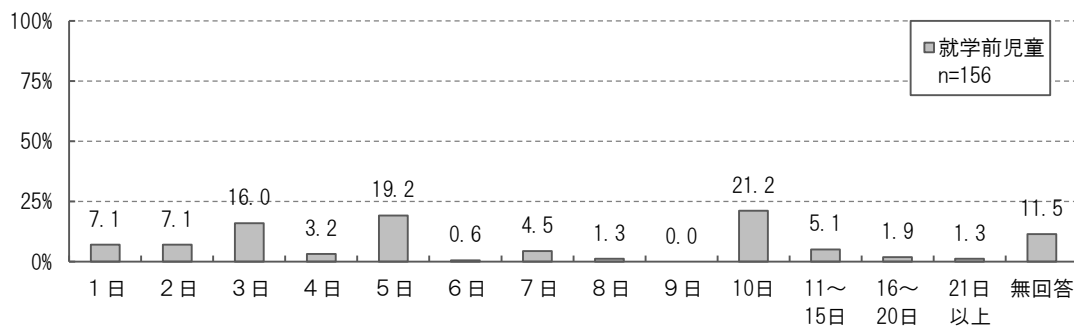


- 父親・母親が休んで対処した方の病児・病後児保育施設の利用意向については、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が30.5%となっています。
- その際の年間利用希望日数は、「10日」が21.2%、「5日」が19.2%、「3日」が16.0%となっています。

問23-2 父親・母親が休んで対処した方の病児・病後児保育施設の利用意向



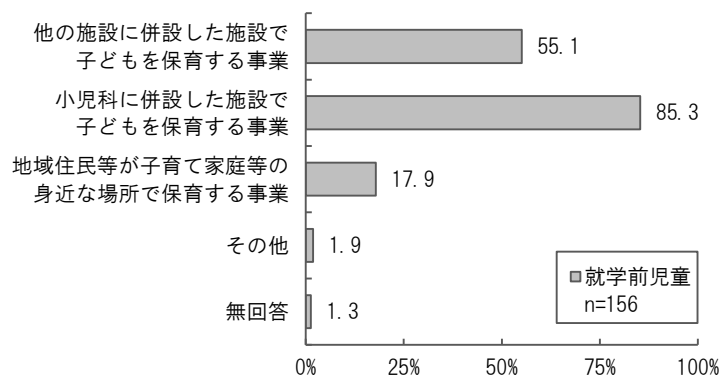
問23-2.2 病児・病後児保育施設の利用希望日数



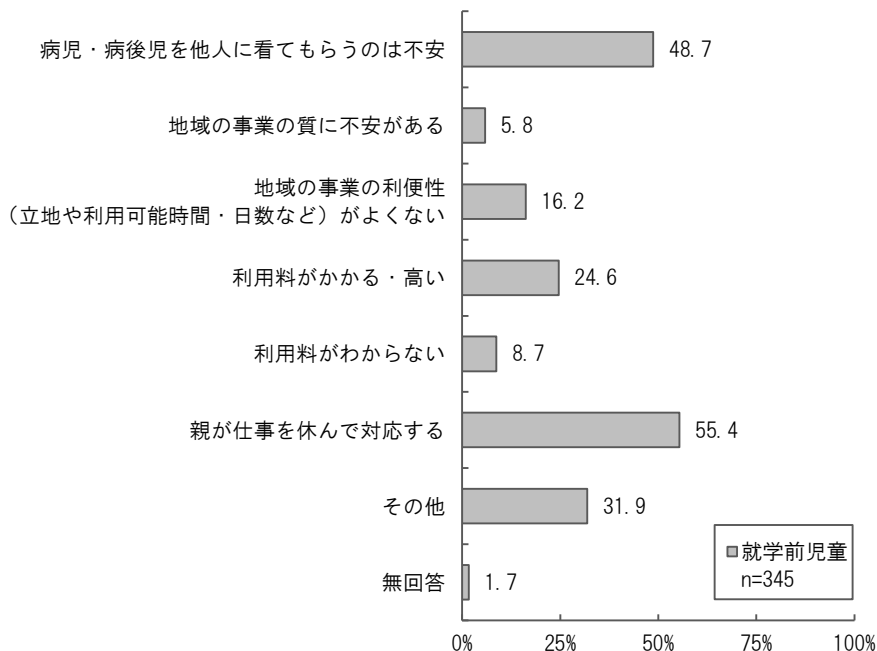
○子どもを預ける場合の望ましい事業形態については、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が85.3%と最も高く、次いで「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」が55.1%となっています。

○病児・病後児保育施設等の利用を希望しない理由については、「親が仕事を休んで対応する」が55.4%と最も高く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が48.7%となっています。

問23-3 子どもを預ける場合の望ましい事業形態

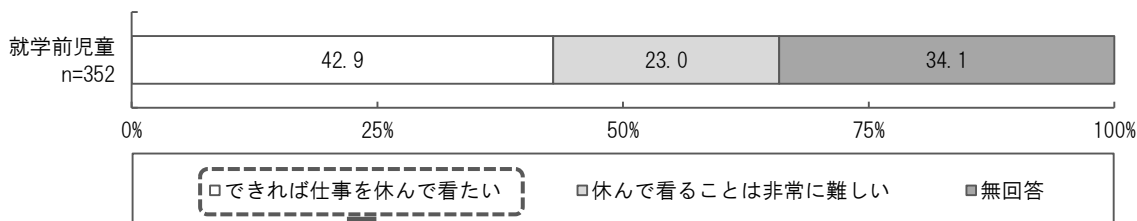


問23-4 病児・病後児保育施設を利用したいと思わない理由

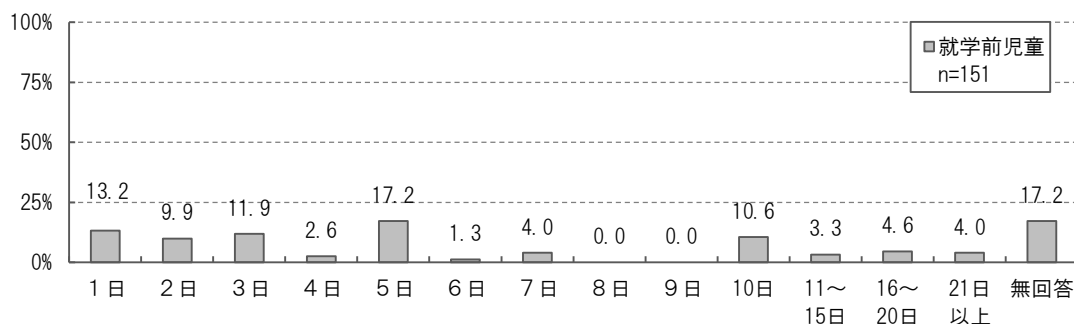


- 父母が休む以外の対処方法を選んだ方のうち、「できれば仕事を休んで看たい」が42.9%となっています。
- 「できれば仕事を休んで看たい」方の年間希望日数は、「5日」が17.2%と最も高く、次いで「1日」が13.2%、「3日」が11.9%となっています。
- 「休んで看ることは非常に難しい」理由については、「子どもの看護を理由に休みがとれない」が39.5%となっています。

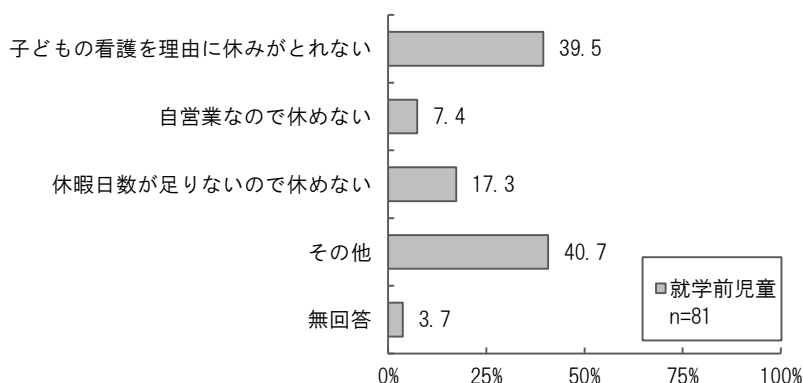
問23-5 父母が休む以外の対処方法を選んだ方の「父母が仕事を休んで看たい」意向



問22-5.1 「父母が仕事を休んで看たい」希望日数



問23-6 「休んで看ることは非常に難しい」理由

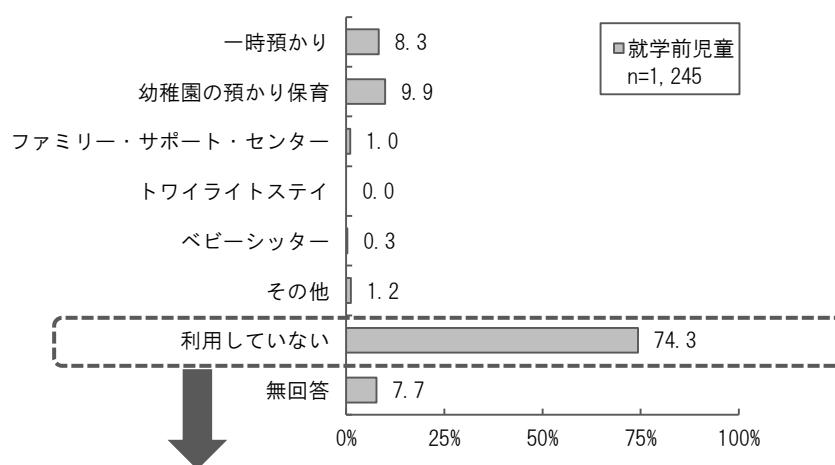


9 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用

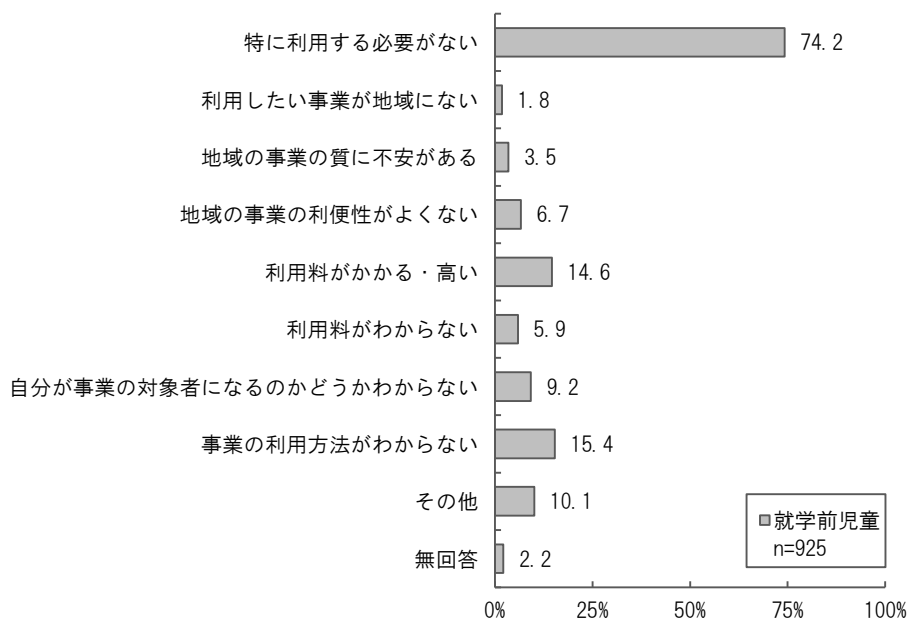
(1) 不定期に利用している教育・保育事業の状況

- 不定期に利用している教育・保育事業については、「幼稚園の預かり保育」が9.9%、「一時預かり」が8.3%となっていますが、「利用していない」が74.3%となっています。
- 「利用していない」理由としては、「特に利用する必要がない」が74.2%となっており、それ以外の理由としては、「事業の利用方法がわからない」が15.4%、「利用料がかかる・高い」が14.6%となっています。

問24 不定期に利用している教育・保育事業

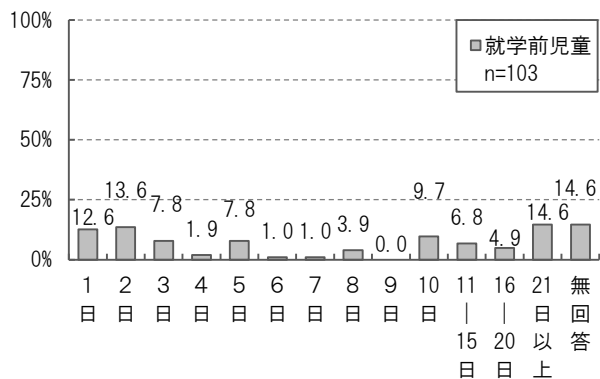


問24-1 現在利用していない理由

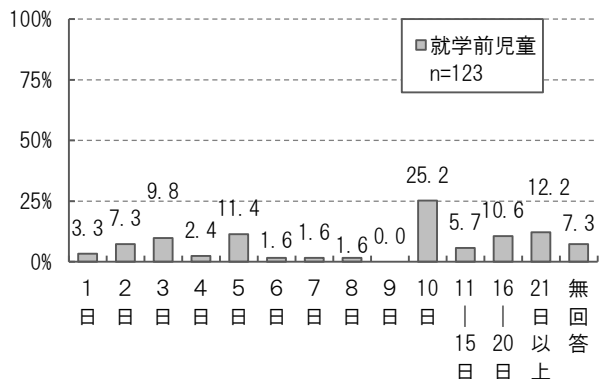


○事業別の年間利用日数は、以下のとおりです。

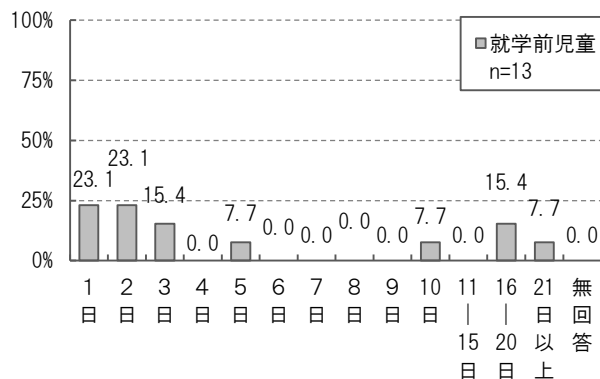
問24.1 「一時預かり」年間利用日数



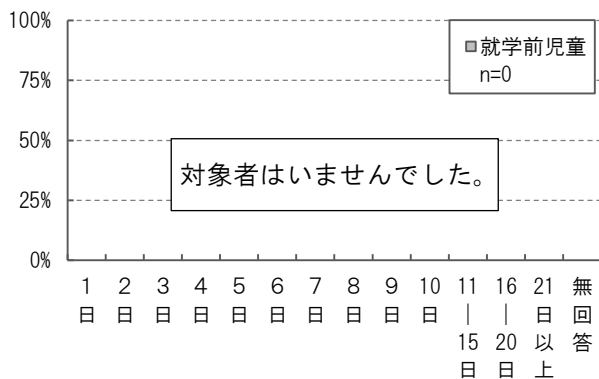
問24.2 「幼稚園の預かり保育」年間利用日数



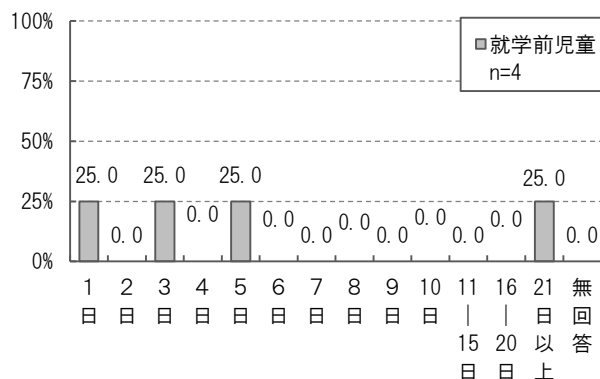
問24.3 「ファミリー・サポート・センター」年間利用日数



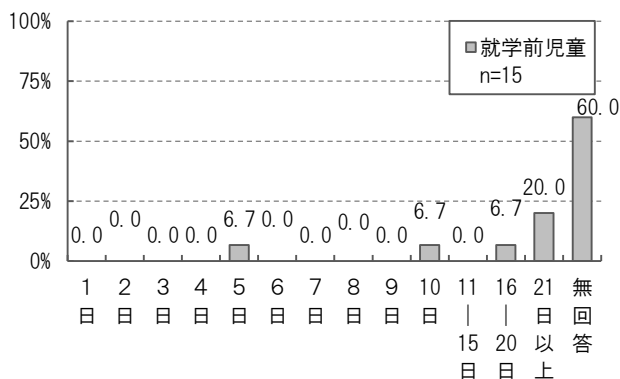
問24.4 「トワイライトステイ」年間利用日数



問24.5 「ベビーシッター」年間利用日数

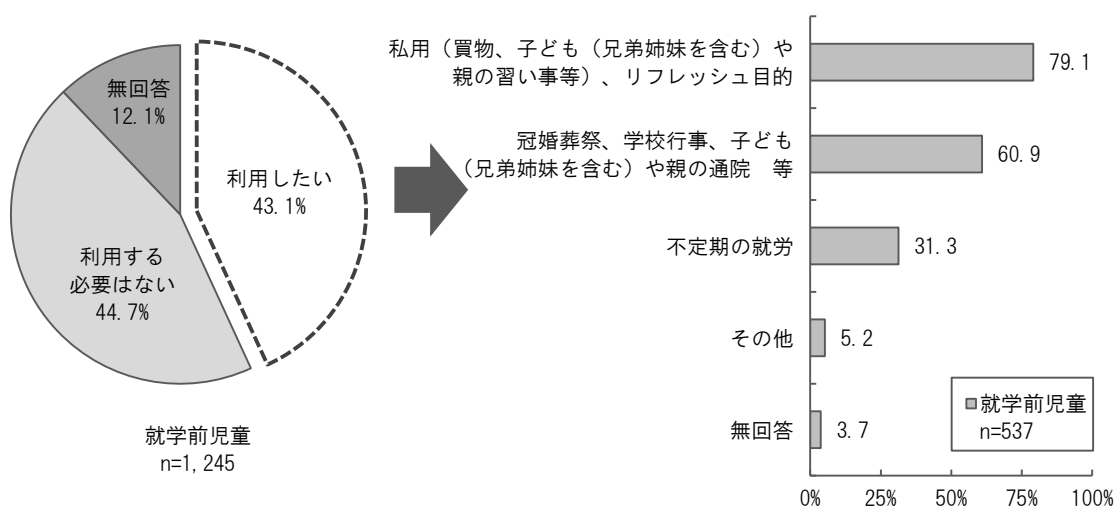


問24.6 「その他」年間利用日数

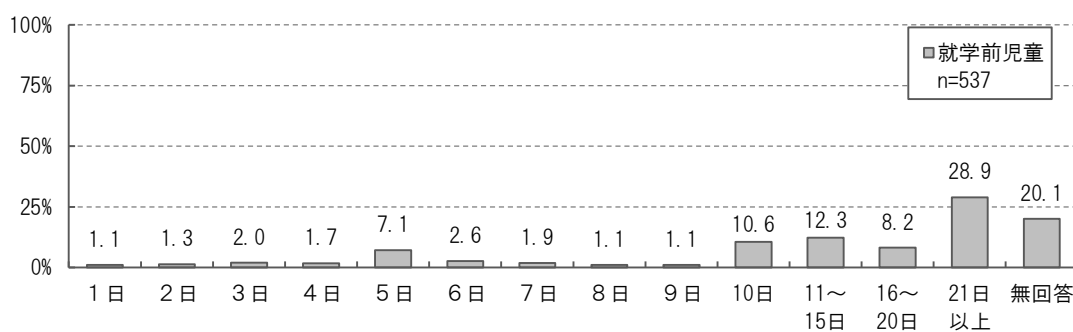


- 一時保育事業の利用希望については、「利用する必要はない」が44.7%、「利用したい」が43.1%となっています。
- 「利用したい」目的は、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が79.1%と最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」が60.9%、「不定期の就労」が31.3%となっています。
- 年間の利用希望日数の合計は、「21日以上」が28.9%と最も高く、次いで「11～15日」が12.3%となっています。

問25 一時保育事業の利用希望とその目的

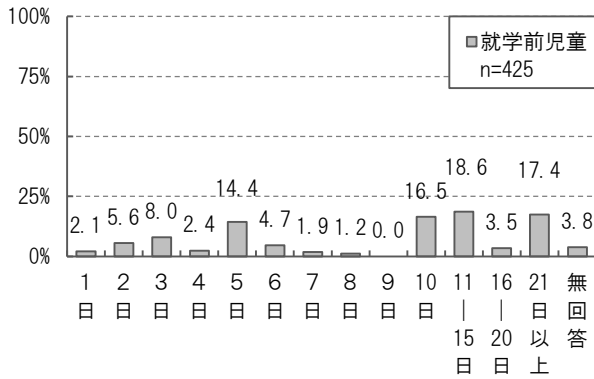


問25.1 一時保育事業の利用希望年間合計日数

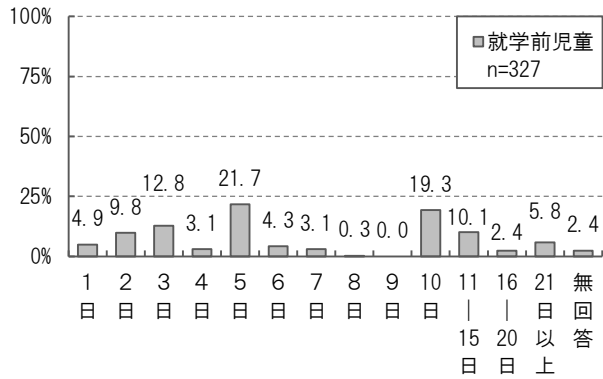


○目的ごとの年間利用希望日数は、『私用、リフレッシュ目的』では「11～15日」が18.6%、『冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等』では「5日」が21.7%、『不
定期の就労』では「21日以上」が35.1%と、最も高くなっています。

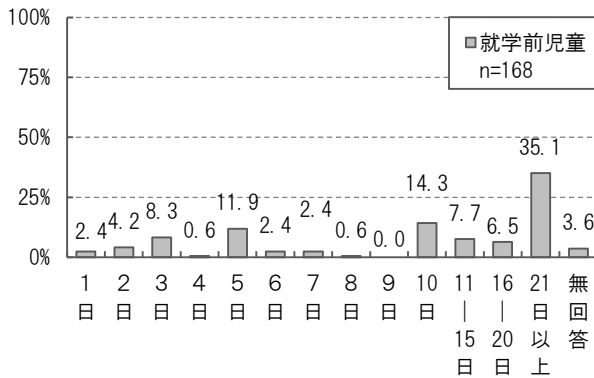
問25.1① 私用、リフレッシュ目的



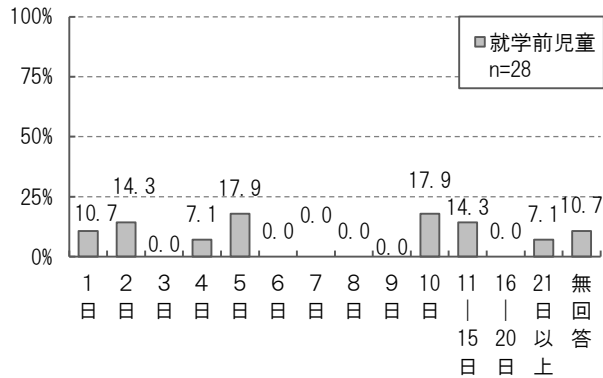
問25.1② 冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等



問25.1③ 不定期の就労

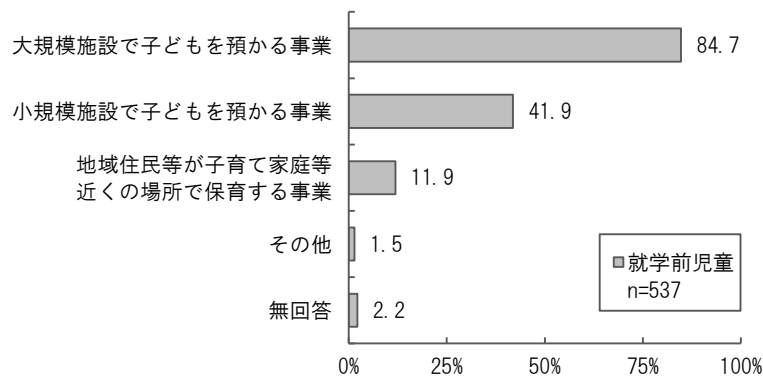


問25.1④ その他



○子どもを不定期的に預ける場合の望ましい事業形態については、「大規模施設で子どもを預かる事業」が84.7%と最も高く、次いで「小規模施設で子どもを預かる事業」が41.9%となっています。

問25-1 子どもを不定期的に預ける場合の望ましい事業形態

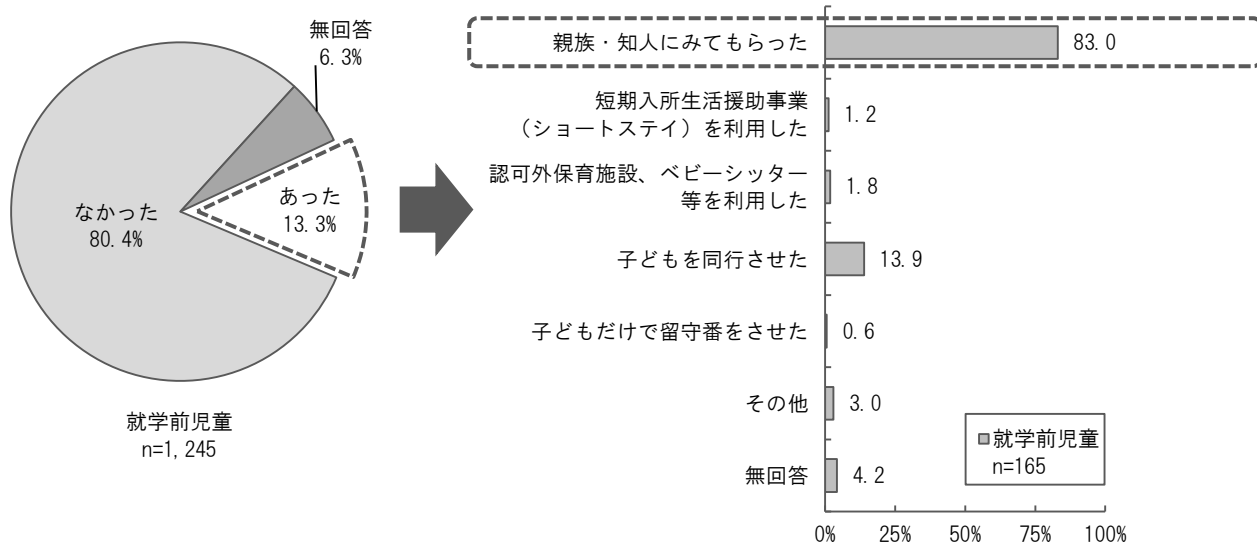


(2) 宿泊を伴う一時保育の利用状況

○この1年間に保護者の用事等で子どもを泊りがけでみてもらったことについては、「あった」が13.3%となっています。その対処方法については、「親族・知人にみてもらった」が83.0%、「仕方なく子どもを同行させた」が13.9%となっています。

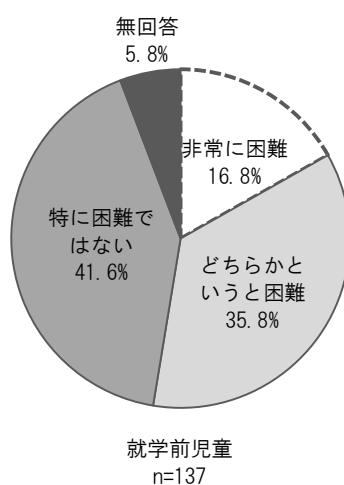
問26 この1年間に保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預けたことの有無

問26.1 1年間の対処方法



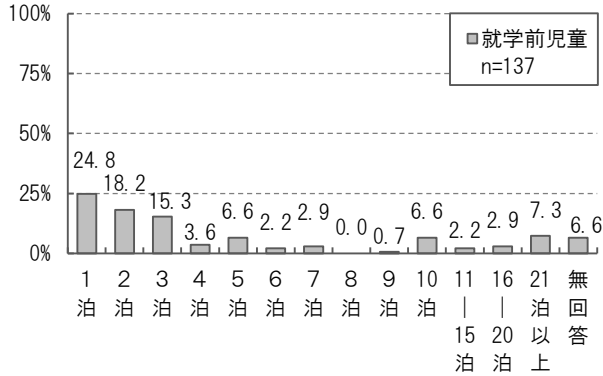
○親族・知人にみてもらうことの困難度については、「特に困難ではない」が41.6%、「どちらかという困難」が35.8%となっています。

問26-1 親族・知人にみてもらうことの困難度

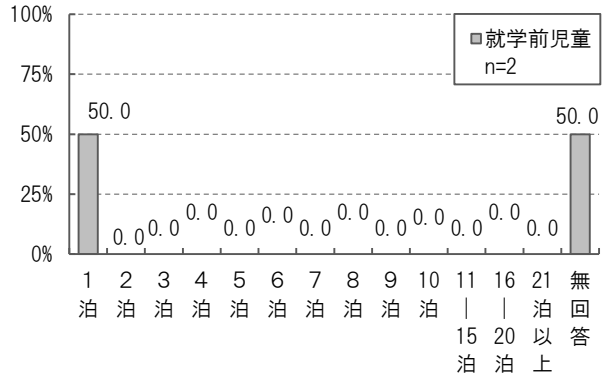


○対処方法別の年間宿泊数は以下のとおりです。『(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった』については、「1泊」が24.8%、「2泊」が18.2%となっています

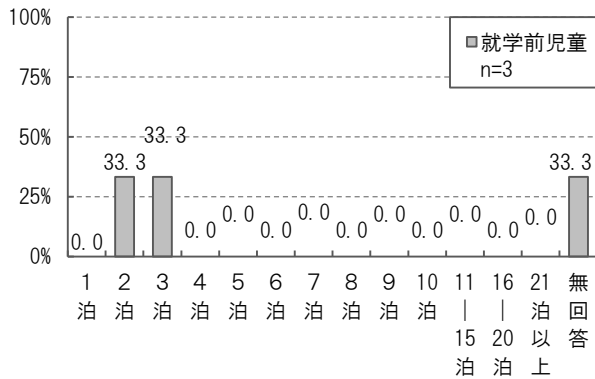
問31.1① (同居者を含む) 親族・知人にみてもらった



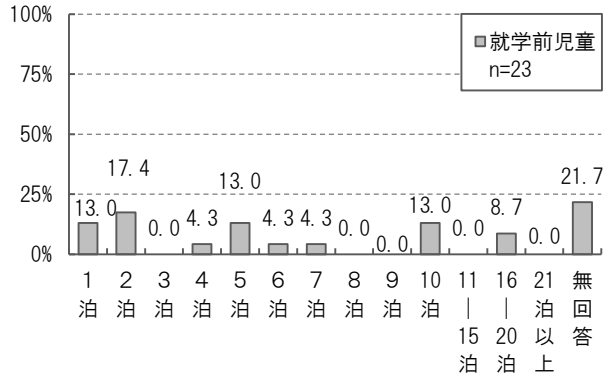
問31.1② 短期入所生活援助事業(ショートステイ)を利用した



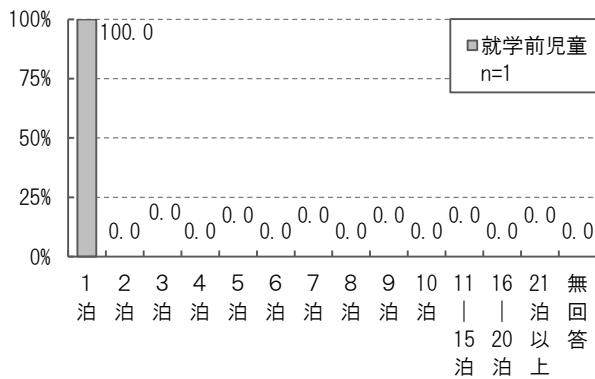
問31.1③ 短期入所生活援助事業以外の保育事業を利用した



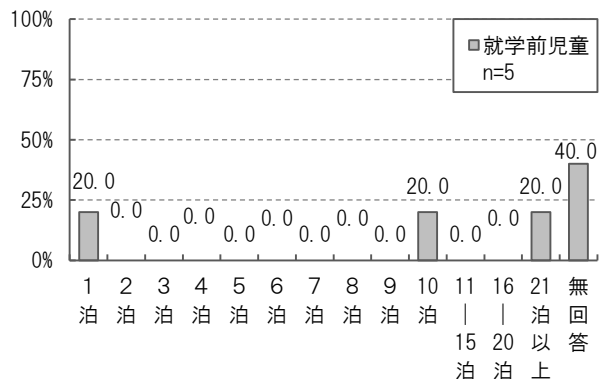
問31.1④ 子どもを同行させた



問31.1⑤ 子どもだけで留守番をさせた



問31.1⑥ その他

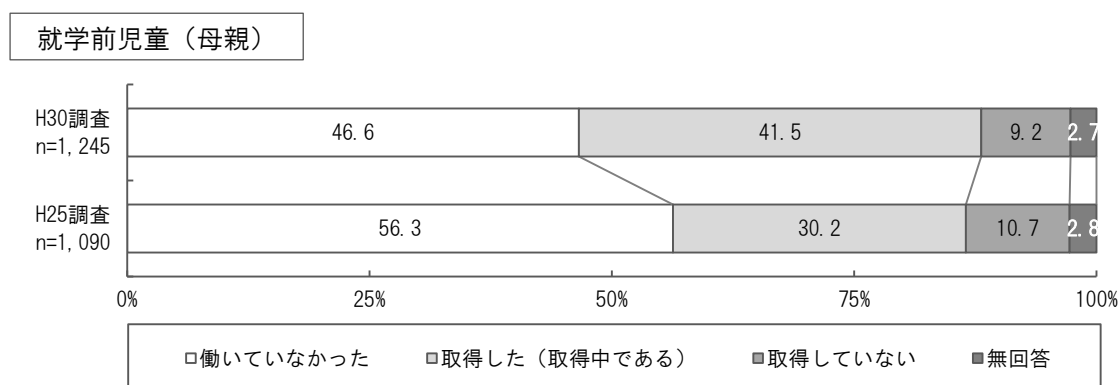


10 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

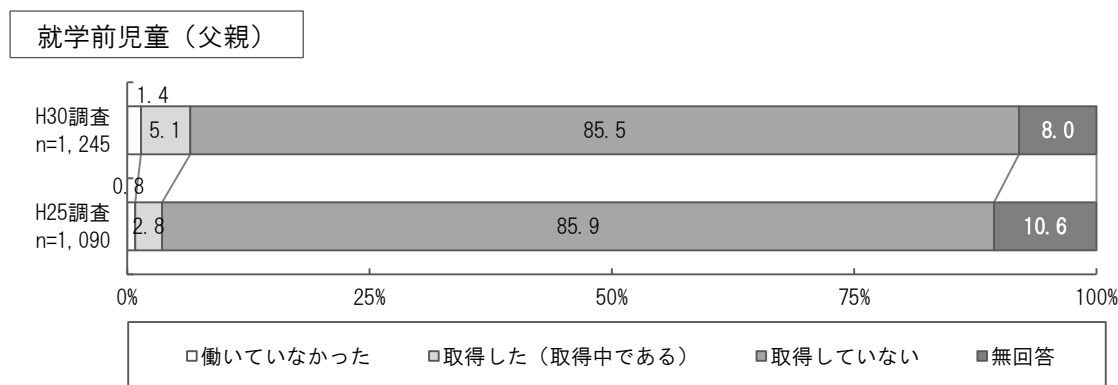
(1) 育児休業制度の利用状況

○育児休業制度の利用状況については、母親では「取得した（取得中である）」が30年度41.5%と、25年度の30.2%から11.3ポイント上昇しています。一方、父親では「取得した（取得中である）」が30年度5.1%と、25年度の2.8%から2.3ポイント上昇したものの、父親の育休取得は進んでいません。

問33 育児休業制度の利用状況（経年比較）

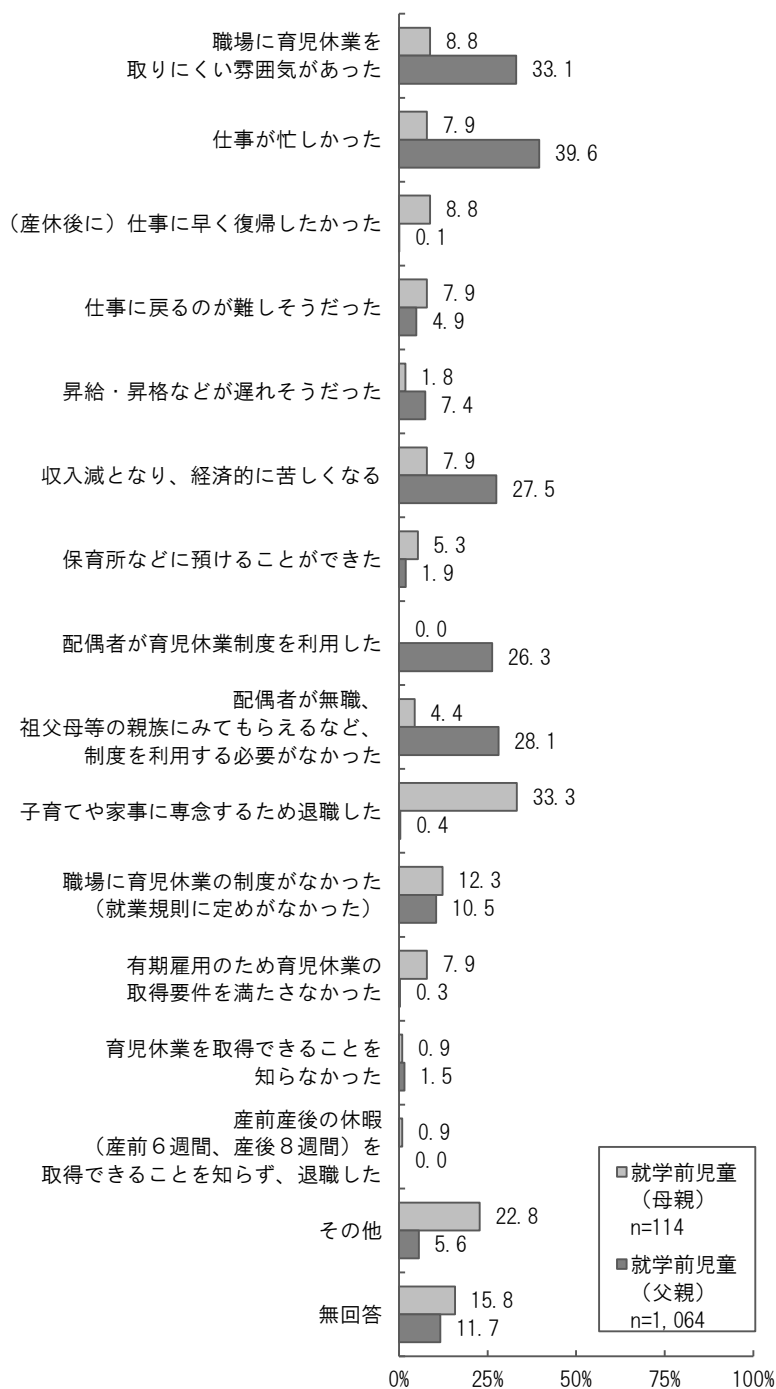


問33 育児休業制度の利用状況（経年比較）



○育児休業を取得していない理由については、母親では「子育てや家事に専念するため退職した」が33.3%と最も高く、次いで「その他」が22.8%となっています。父親では「仕事が忙しかった」が39.6%と最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が33.1%となっています。

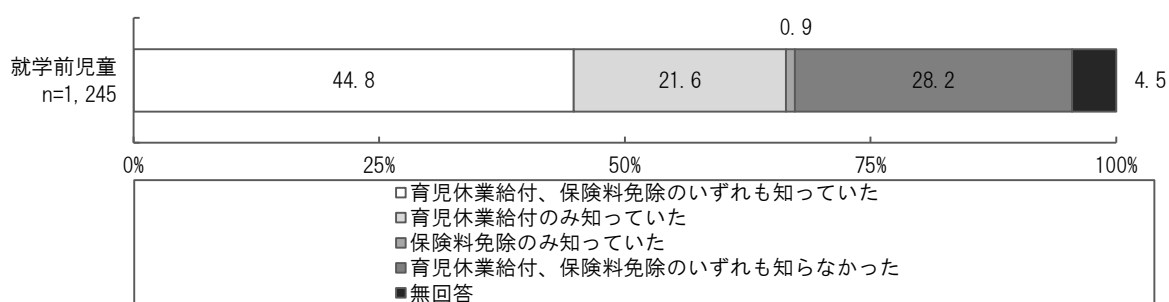
問33.1 育児休業を取得していない理由



(2) 支援制度の認知状況

○育児休業給付や育休中の健康保険料、年金保険料の免除を知っていたかについては、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」が44.8%と最も高く、次いで「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が28.2%となっています。

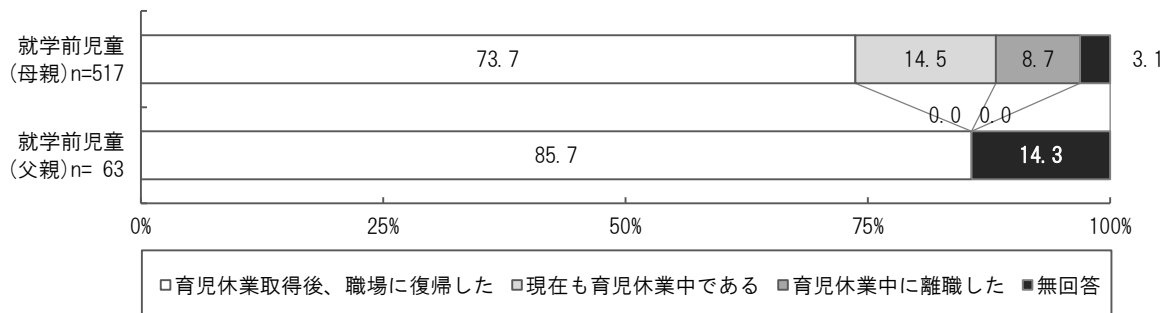
問33-1 育児休業給付や育休中の保険料免除を知っていたか



(3) 職場復帰の状況

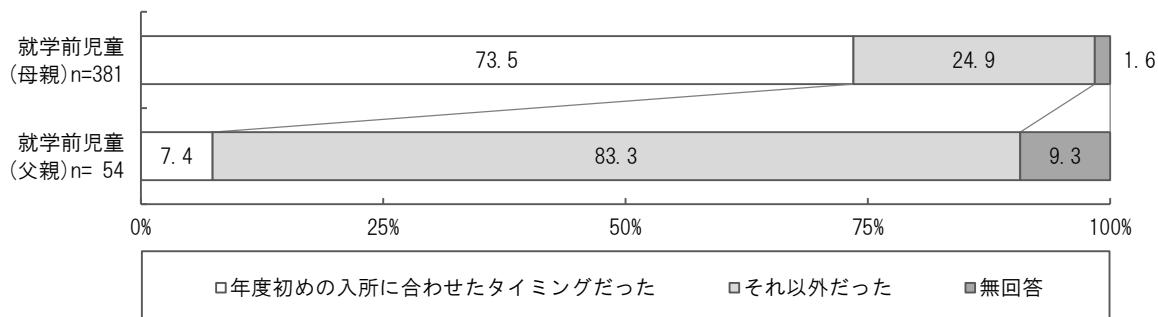
○育児休業取得後の職場復帰の状況については、母親では「育児休業取得後、職場に復帰した」が73.7%、「現在も育児休業中である」が14.5%となっています。父親では「育児休業取得後、職場に復帰した」が85.7%となっています。

問33-2(1)・問33-2(2) 育児休業取得後の職場復帰の状況



○育児休業取得後に職場へ復帰した時期については、母親では「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が73.5%、「それ以外だった」が24.9%となっています。父親では「それ以外だった」が83.3%となっており、母親は保育園入所時に、父親は保育所入所とは別の時期に職場復帰している傾向がみられます。

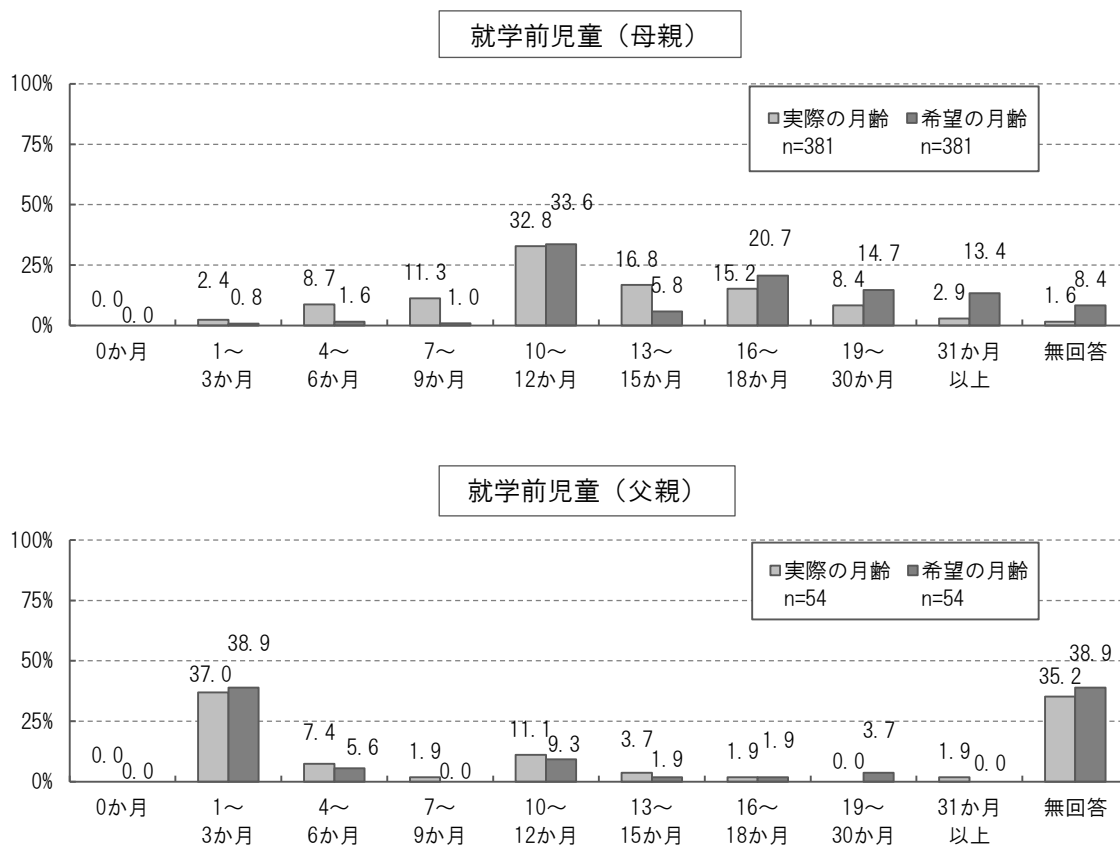
問33-3(1)・問33-3(2) 育児休業後に職場へ復帰した時期



○母親が育児休業から復帰したときの子どもの月齢については、実際には「10～12か月」が32.8%と最も高く、12か月以下があわせて55.2%となっています。一方、希望としては「10～12か月」が33.6%と最も高いものの、13か月以上があわせて54.6%となっており、1年を超えての取得希望がみられます。

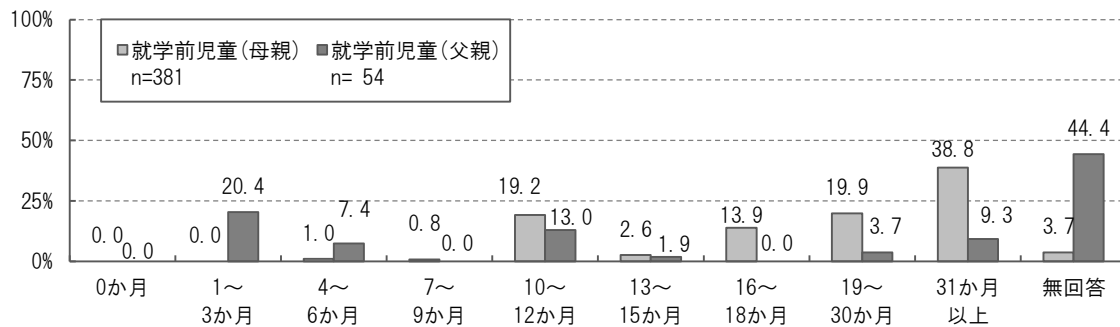
○父親が育児休業から復帰したときの子どもの月齢については、実際には「1～3か月」が37.0%と最も高く、次いで「10～12か月」が11.1%となっています。一方、希望でも「1～3か月」が38.9%と最も高く、次いで「10～12か月」が9.3%となっています。

問33-4(1)・問33-4(2) 育児休業から復帰したときの子どもの実際の月齢と希望する月齢



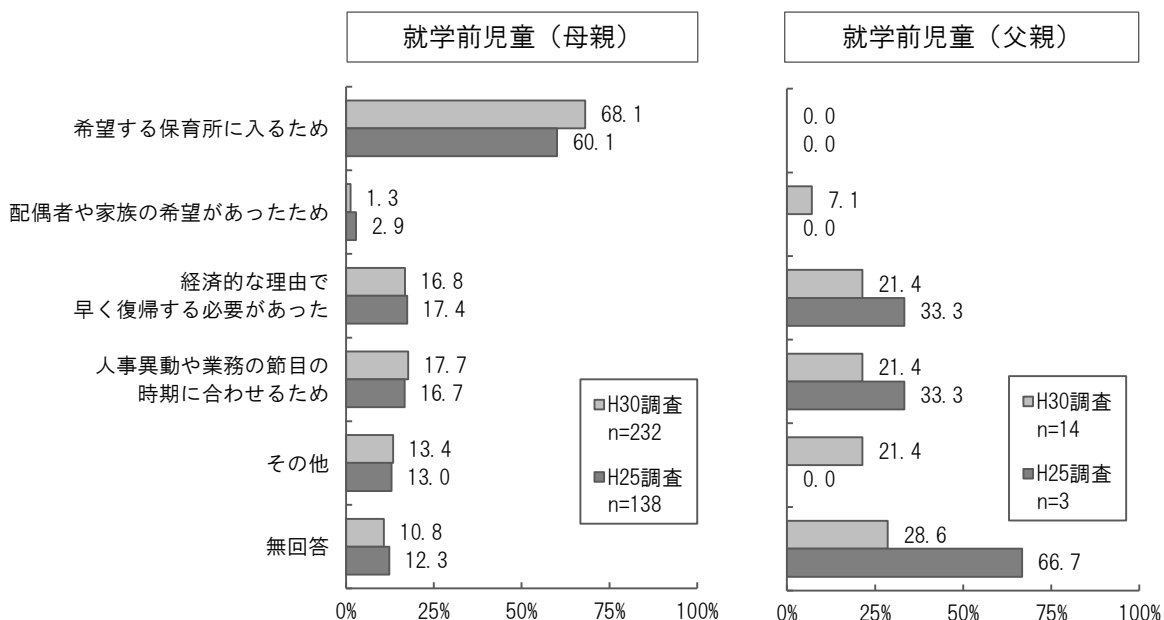
○3歳までの育児休業制度があった場合に取得を希望する子どもの月齢については、母親では「31か月以上」が38.8%と最も高く、父親では「1～3か月」が20.4%と最も高くなっています。

問33-5(1)・問33-5(2) 3歳までの育児休業があった場合の子どもの希望する月齢

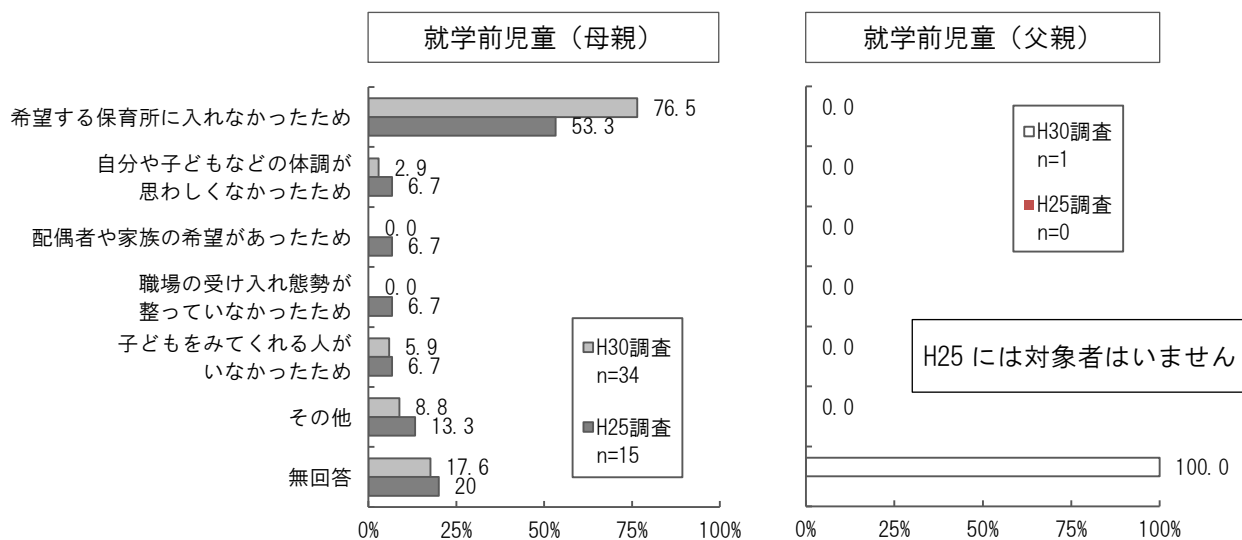


○母親が育児休業から「希望の時期」より早く職場復帰した理由については、「希望する保育所に入るため」が68.1%と最も高く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が17.7%となっています。

問33-6(1) 育児休業から「希望の時期」より早く職場復帰した理由（経年比較）



問33-6(2) 育児休業から「希望の時期」より遅く職場復帰した理由



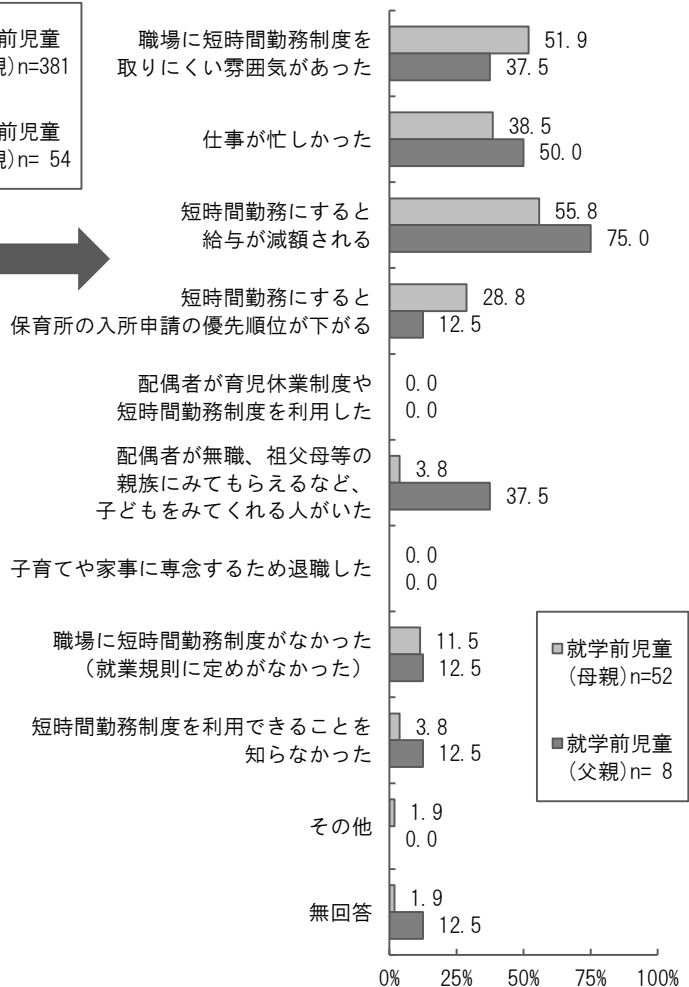
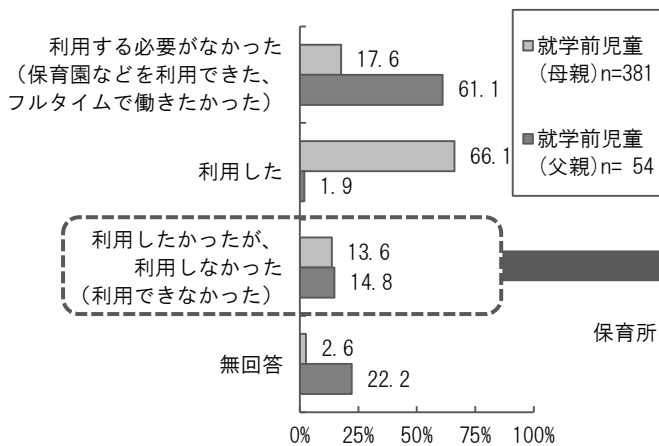
(4) 短時間勤務制度の利用状況

○職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況については、母親では「短時間勤務制度を利用した」が66.1%と最も高く、次いで「利用する必要がなかった」が17.6%となっています。父親では「利用する必要がなかった」が61.1%と最も高く、次いで「利用したかったが、利用しなかった」が14.8%となっています。

○職場復帰時に短時間勤務制度を利用しなかった理由については、母親では「短時間勤務にすると給与が減額される」が55.8%と最も高く、次いで「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が51.9%となっています。父親では「短時間勤務にすると給与が減額される」が75.0%と最も高く、次いで「仕事が忙しかった」が50.0%となっています。

問33-7(1)・問33-7(2) 職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況

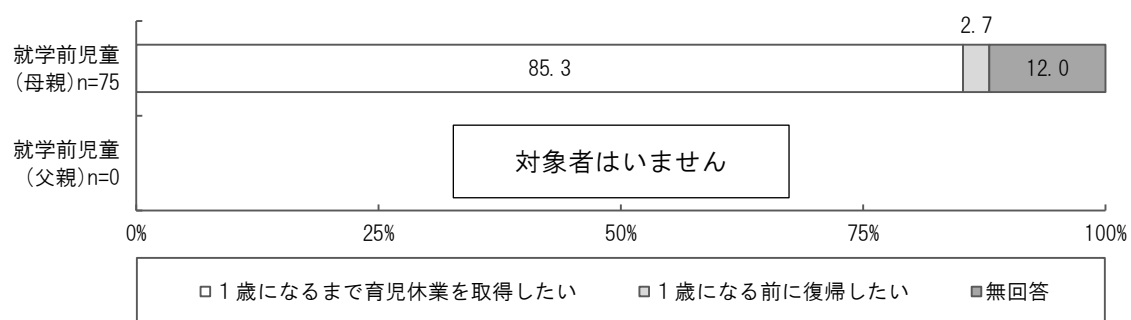
問33-8(1)・問33-8(2) 短時間勤務制度を利用しなかった理由



(5) 育児休業取得期間の希望

○現在育児休業取得の方が、1歳になった時に預け先が保障される場合の育児休業取得の希望については、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が85.3%となっています。

問33-9 1歳になったときに預け先が保障される場合の育児休業取得の希望



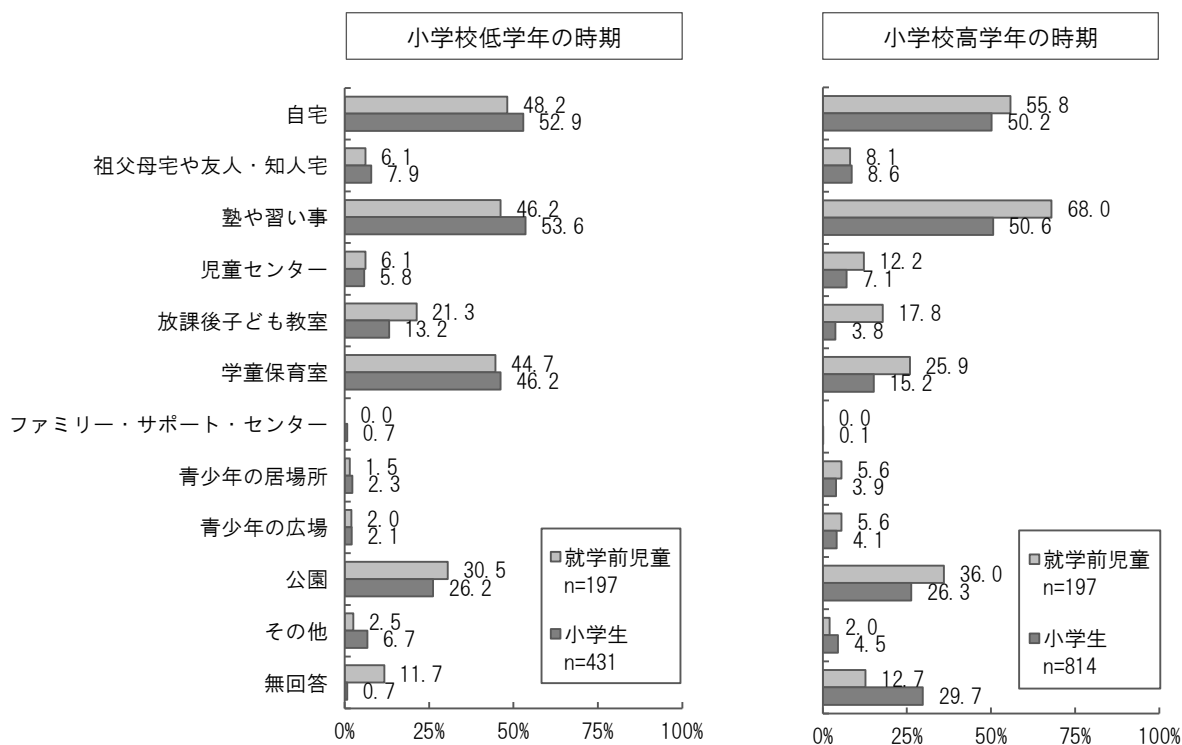
11 放課後の過ごし方について

(1) 平日の放課後の状況

○放課後の過ごし方の希望をみると、就学前児童では低学年のうち「自宅」が48.2%と最も高く、次いで「塾や習い事」が46.2%となっています。高学年になると、低学年時期に比べ21.8ポイント上昇した「塾や習い事」が68.0%と最も高く、次いで「自宅」が55.8%となっています。

○小学生では低学年のうち「塾や習い事」が53.6%と最も高く、次いで「自宅」が52.9%となっています。高学年になると、「塾や習い事」が50.6%と最も高く、次いで「自宅」が50.2%となっています。

問27[問10]・問28[問11] 放課後の過ごし方の希望

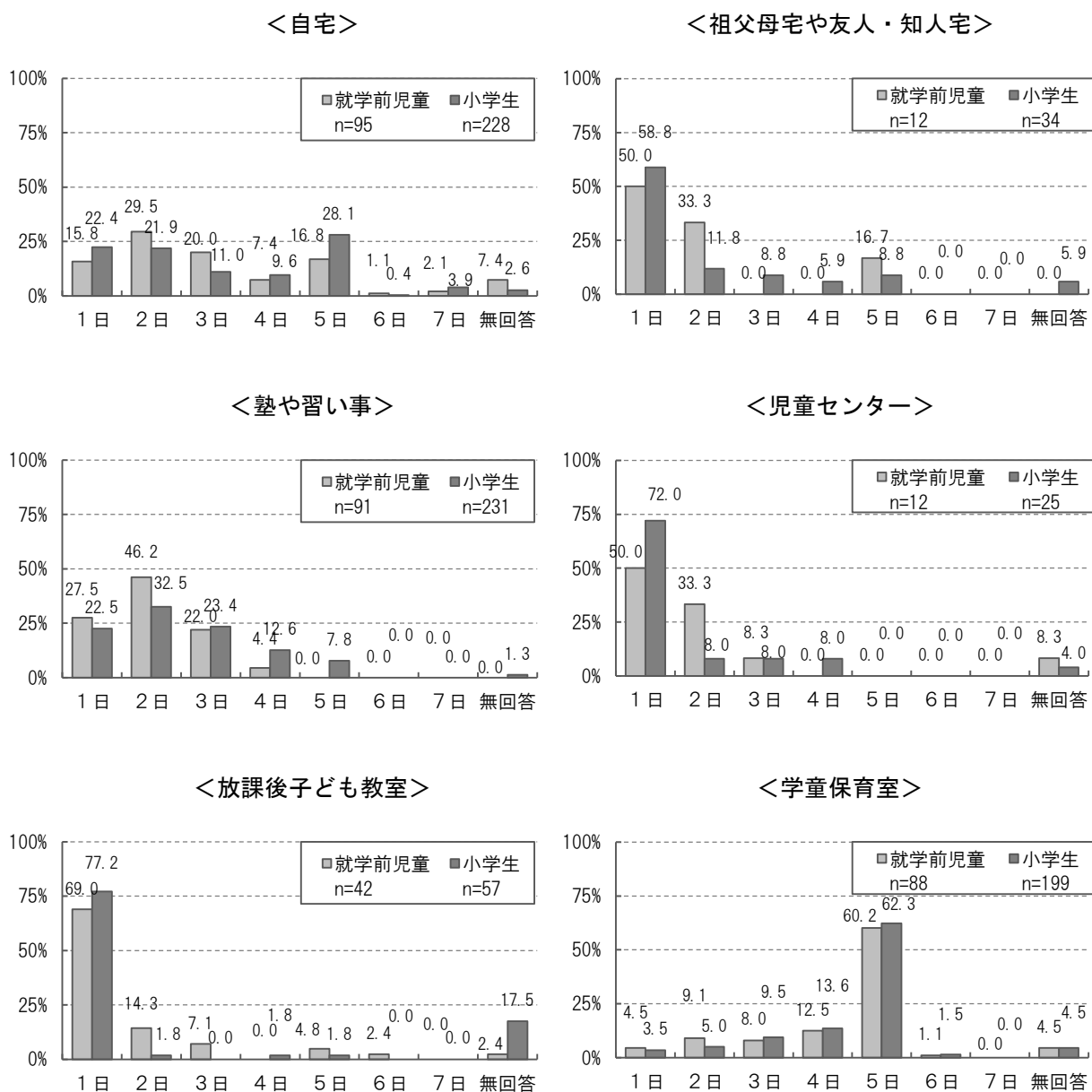


※「小学校低学年」は1～3年生、「小学校高学年」は4～6年生です。

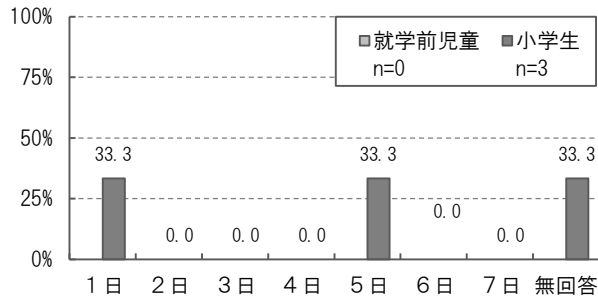
○1週間当たりの利用日数は、「祖父母宅や友人・知人宅」では「1日」、「塾や習い事」では「2日」、「学童保育室」では「5日」が最も高くなっています。

○下校時からの利用希望時間については、「17時台」～「19時台」が高くなっています。

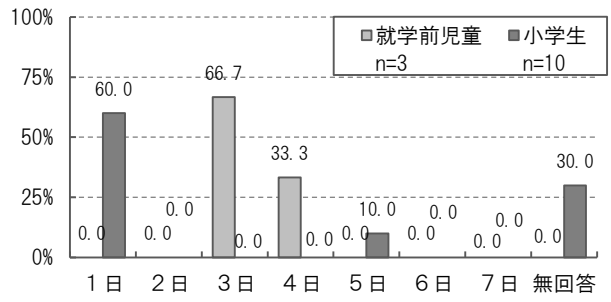
【利用日数（1週間当たり）】



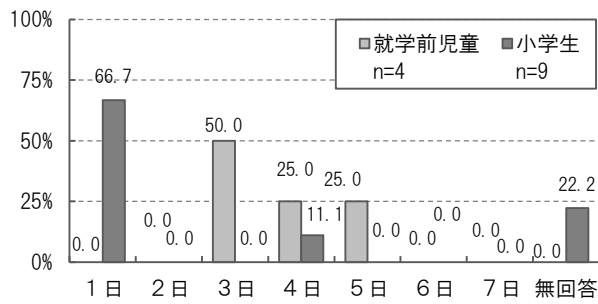
<ファミリー・サポート・センター>



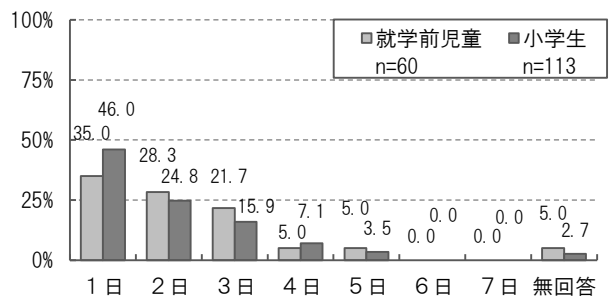
<青少年の居場所>



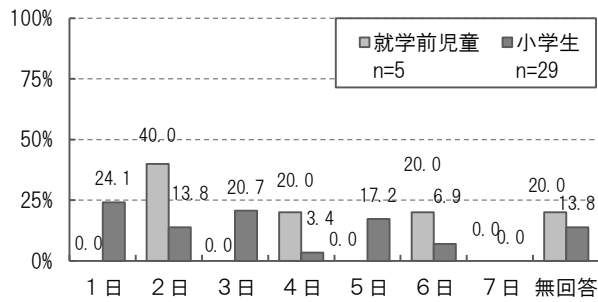
<青少年の広場>



<公園>

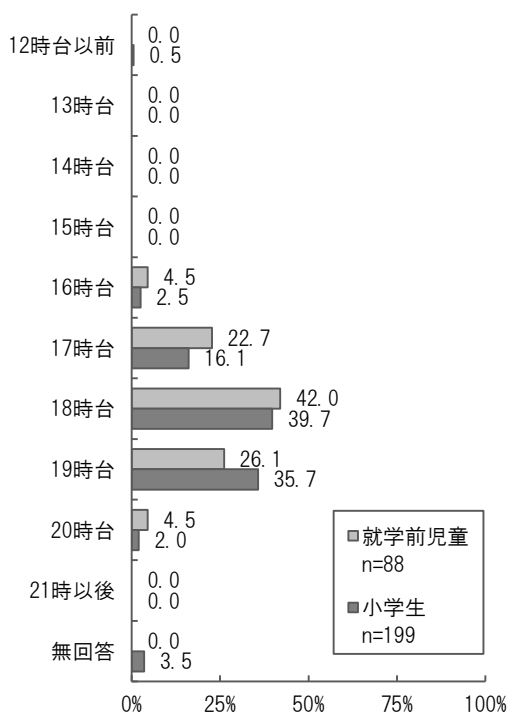


<その他（図書館・公園等）>



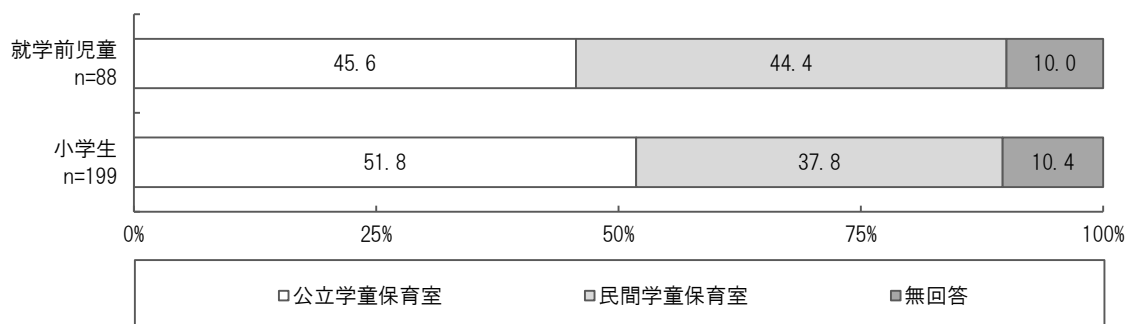
【下校時からの利用希望時間】

＜学童保育室＞



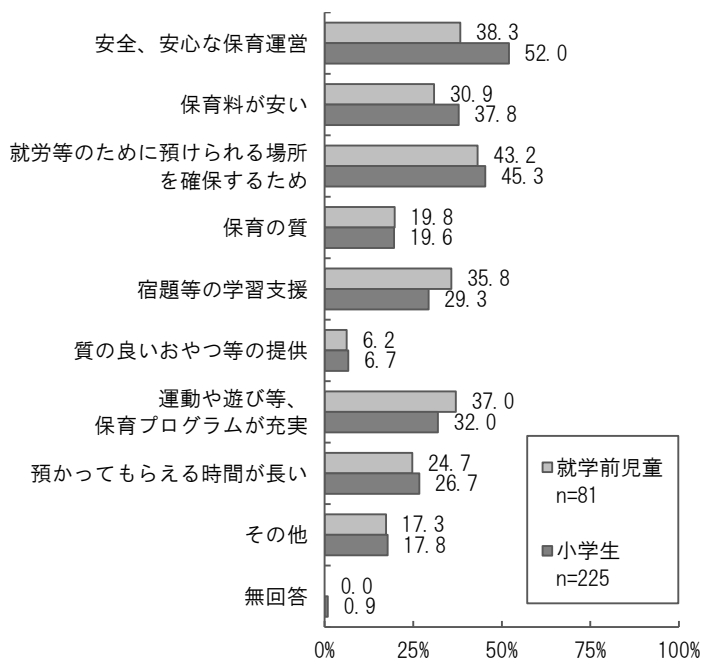
○学童保育室の運営主体については、「公立学童保育室」が就学前児童45.6%、小学生51.8%となっており、「民間学童保育室」が就学前児童44.4%、小学生37.8%となっています。

問29[問12] 学童保育室の運営主体



○学童保育室を選ぶ理由については、就学前児童では「就労等のために預けられる場所を確保するため」が43.2%と最も高く、次いで「運動や遊び等、保育プログラムが充実」が37.0%となっており、小学生では「安全、安心な保育運営」が52.0%と最も高く、次いで「就労等のために預けられる場所を確保するため」が45.3%となっています。

問30 [問13] 学童保育室を選ぶ理由

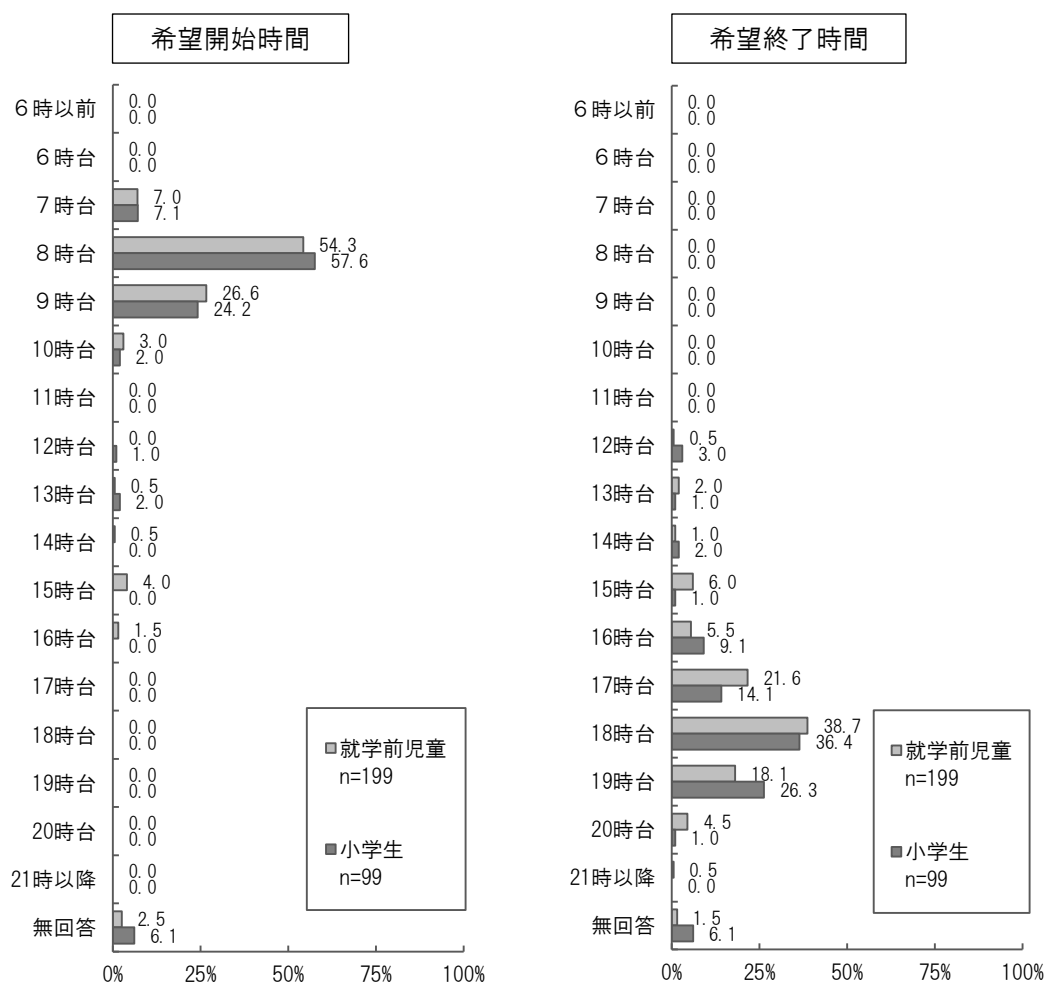
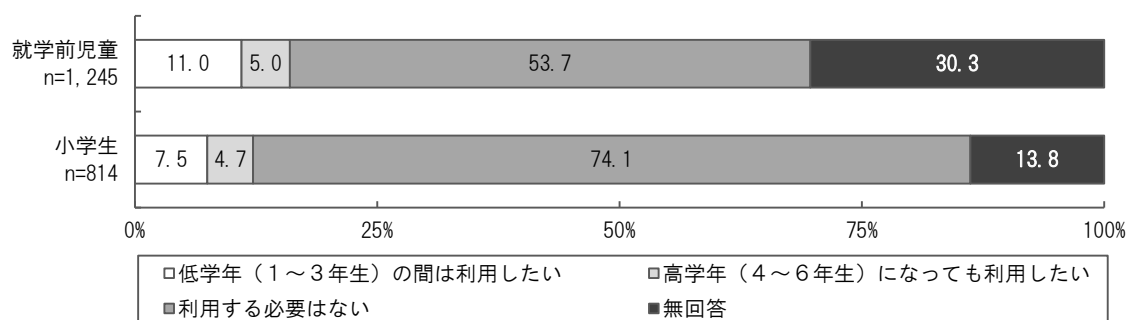


(2) 学童保育室の利用希望（土曜日、日曜日・祝日、長期休暇期間）

○土曜日の学童保育室の利用希望については、「利用する必要はない」が最も多く、就学前児童53.7%、小学生74.1%となっています。「低学年（1～3年生）の間は利用したい」は就学前児童11.0%、小学生7.5%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」は就学前児童5.0%、小学生4.7%となっています。

○土曜日の希望開始時間は、ともに「8時台」～「9時台」が高くなっており、希望終了時間は、ともに「17時台」～「19時台」が高くなっています。

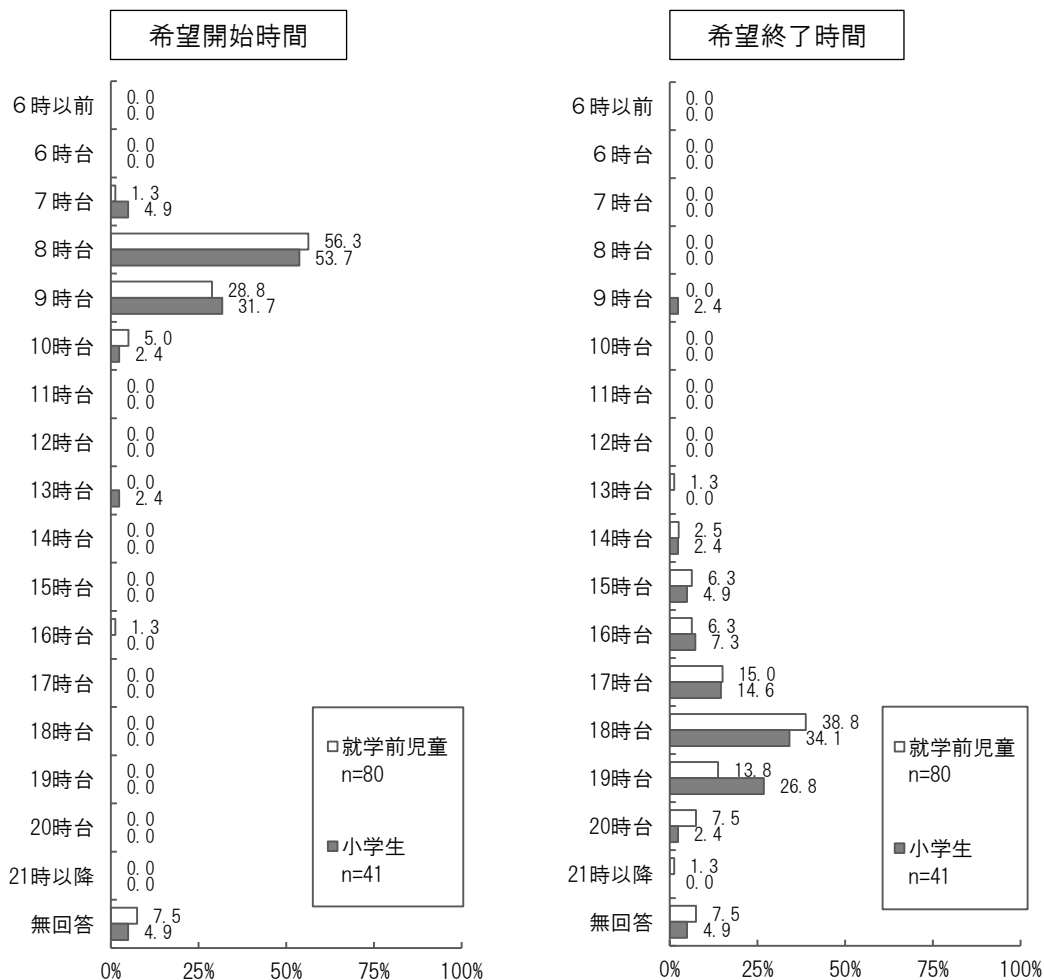
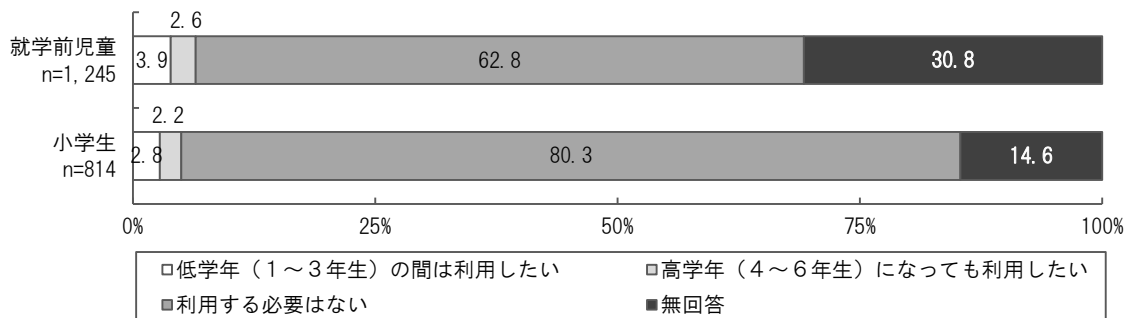
問31(1) [問14(1)] 学童保育室の土曜日の利用希望



○日曜日・祝日の学童保育室の利用希望については、「利用する必要はない」が最も多く、就学前児童62.8%、小学生80.3%となっています。「低学年（1～3年生）の間は利用したい」は就学前児童3.9%、小学生2.8%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」は就学前児童2.6%、小学生2.2%となっています。

○日曜日・祝日の希望開始時間は、ともに「8時台」が高くなっており、希望終了時間は、ともに「17時台」～「19時台」が高くなっています。

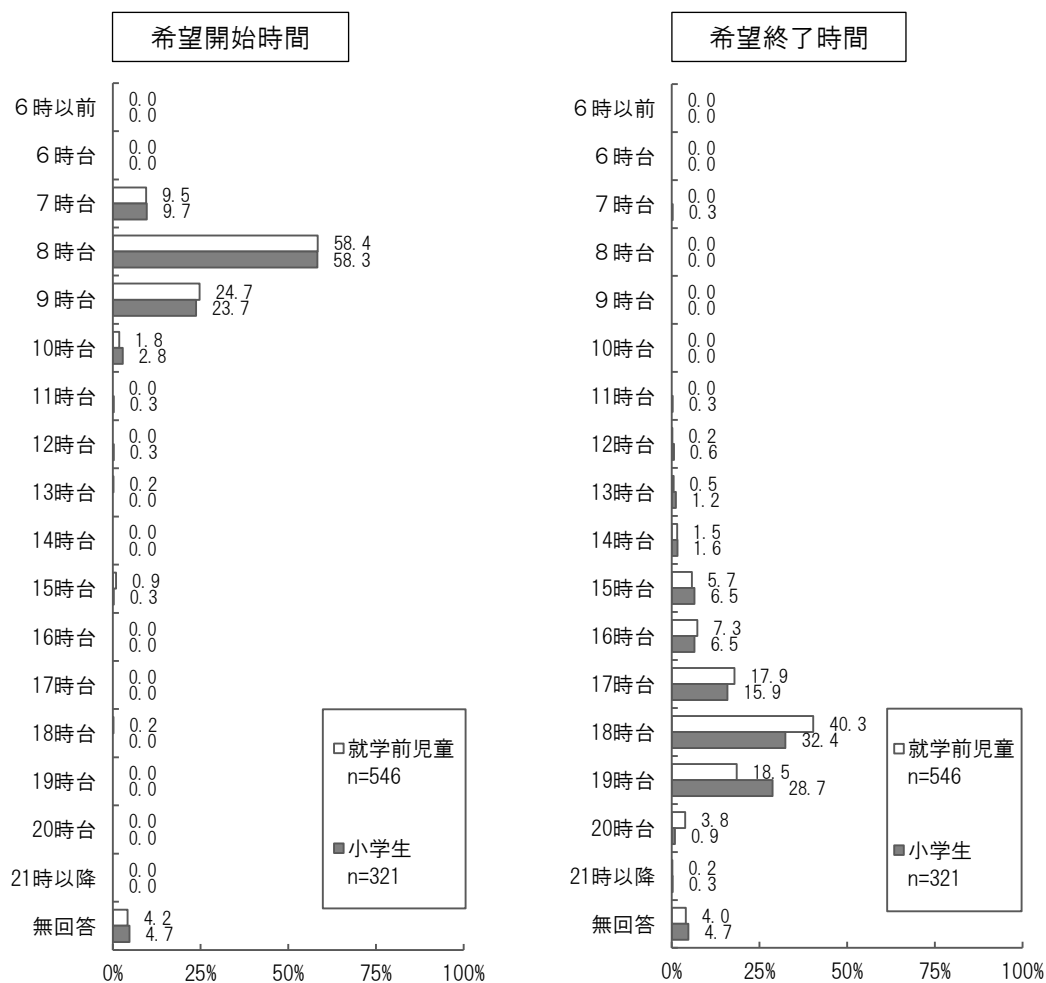
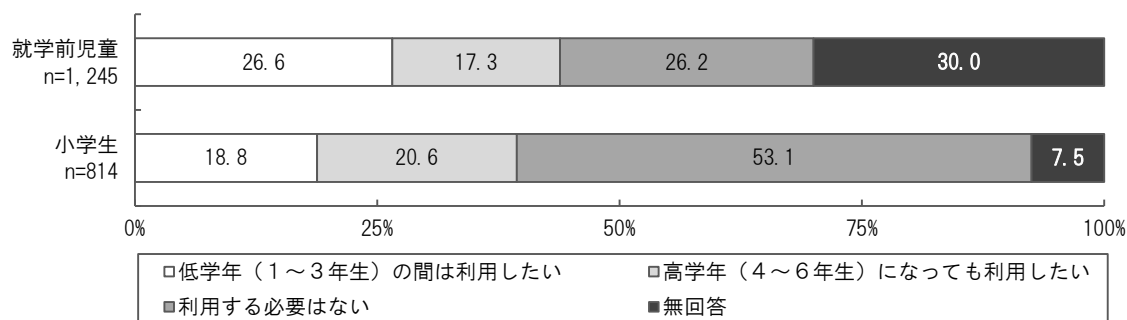
問31(2) [問14(2)] 学童保育室の日曜日・祝日の利用希望



○長期休暇期間中の学童保育室の利用希望については、「利用する必要はない」が就学前児童26.2%、小学生53.1%となっています。「低学年（1～3年生）の間は利用したい」は就学前児童26.6%、小学生18.8%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」は就学前児童17.3%、小学生20.6%となっています。

○長期休暇期間中の希望開始時間は、ともに「7時台」～「9時台」が高くなっており、希望終了時間は、ともに「17時台」～「19時台」が高くなっています。

問32[問15] 学童保育室の長期休暇期間中の利用希望



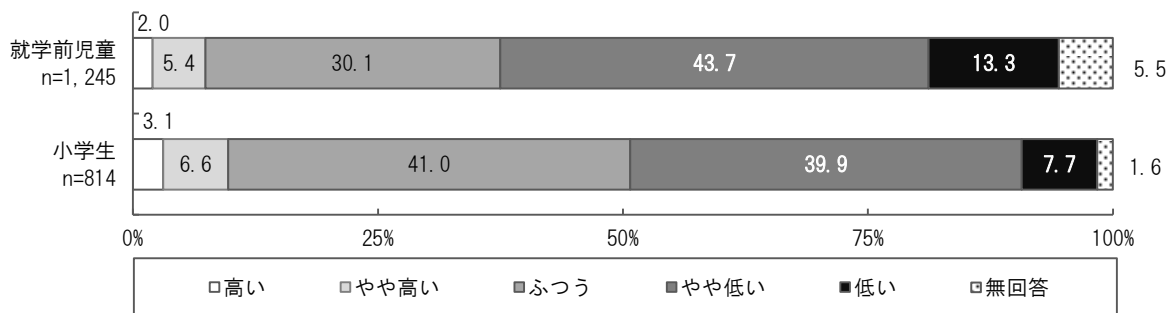
12 子育ての環境や支援への満足度

○地域の子育て支援の環境や支援に対する満足度の状況については、就学前児童では「高い」と「やや高い」の合計が7.4%、「やや低い」と「低い」の計が57.0%で不満が49.6ポイント上回っています。

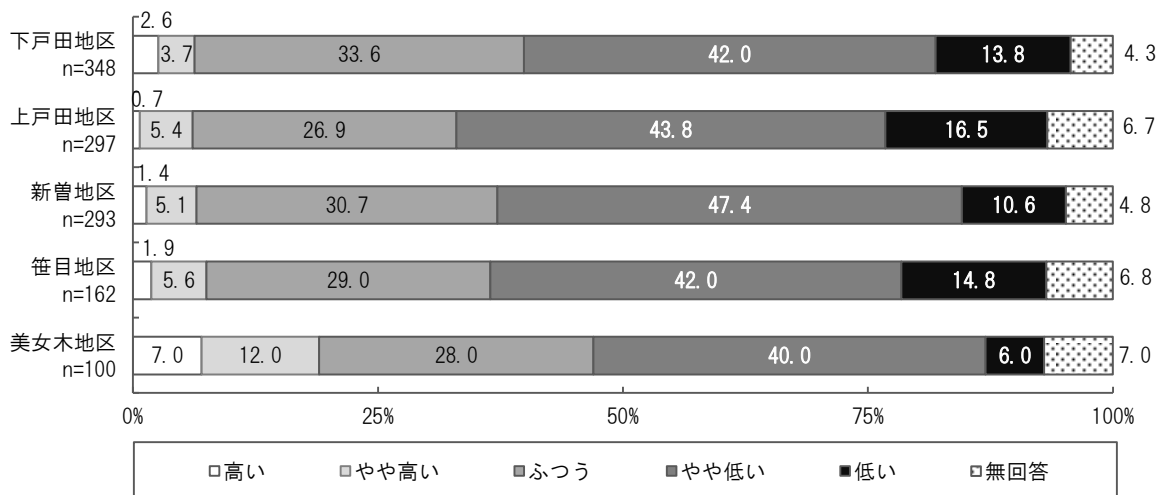
○一方、小学生は「高い」と「やや高い」の合計が9.7%、「やや低い」と「低い」の合計が47.6%で不満が37.9ポイント上回っています。

○地区別にみると、就学前児童・小学生ともに、美女木地区で「高い」と「やや高い」の合計が、他の地区よりも高くなっています。

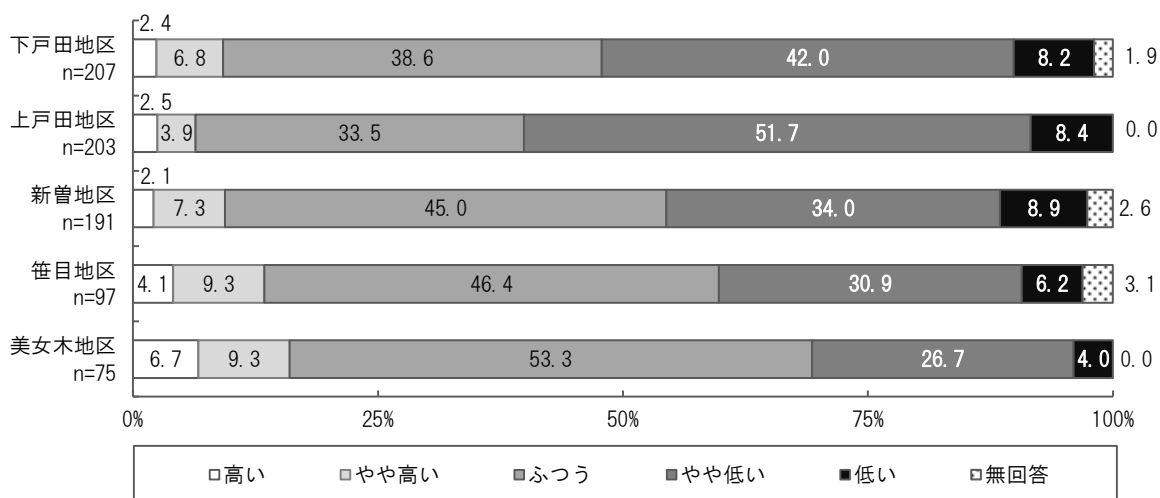
問34[問16] 地域における子育ての環境や支援への満足度



問34 地域における子育ての環境や支援への満足度（地区別）

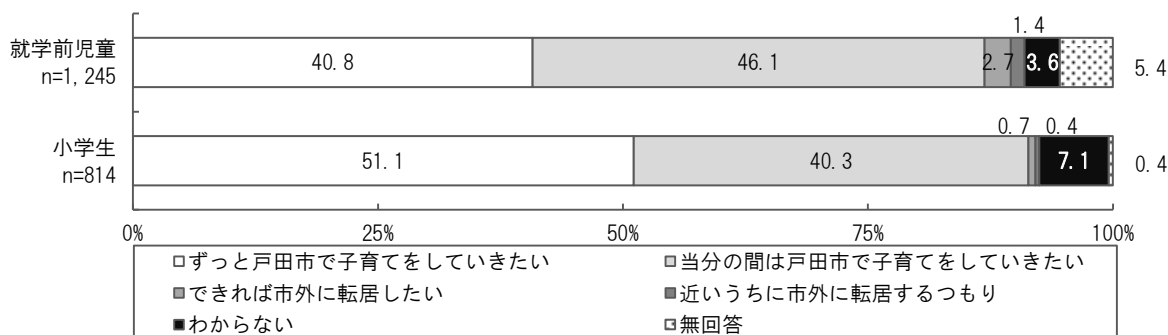


[問16] 地域における子育ての環境や支援への満足度（地区別）



○今後も戸田市で子育てをしていきたいかについては、就学前児童では「当分の間は戸田市で子育てをしていきたい」が46.1%と最も高く、次いで「ずっと戸田市で子育てをしていきたい」が40.8%となっており、小学生では「ずっと戸田市で子育てをしていきたい」が51.1%と最も高く、次いで「当分の間は戸田市で子育てをしていきたい」が40.3%となっています。

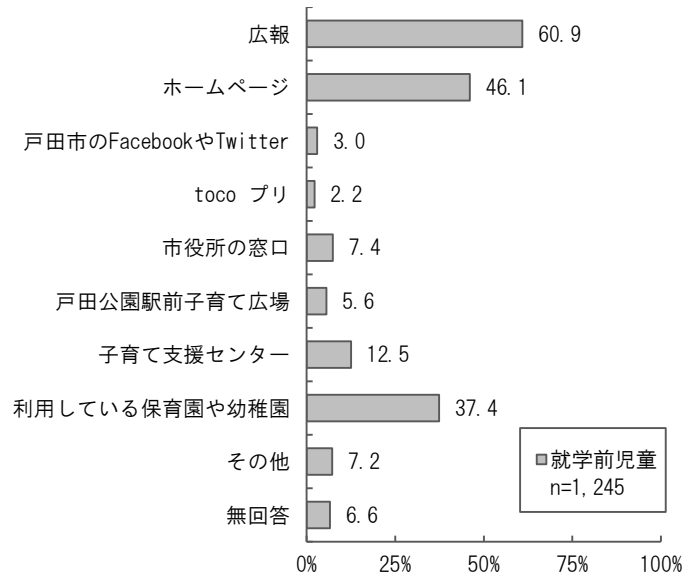
問35[問17] 今後も戸田市で子育てをしていきたいか



13 子育て情報や施設について

○戸田市の子育て情報の入手経路については、「広報」が60.9%と最も高く、次いで「ホームページ」が46.1%となっています。

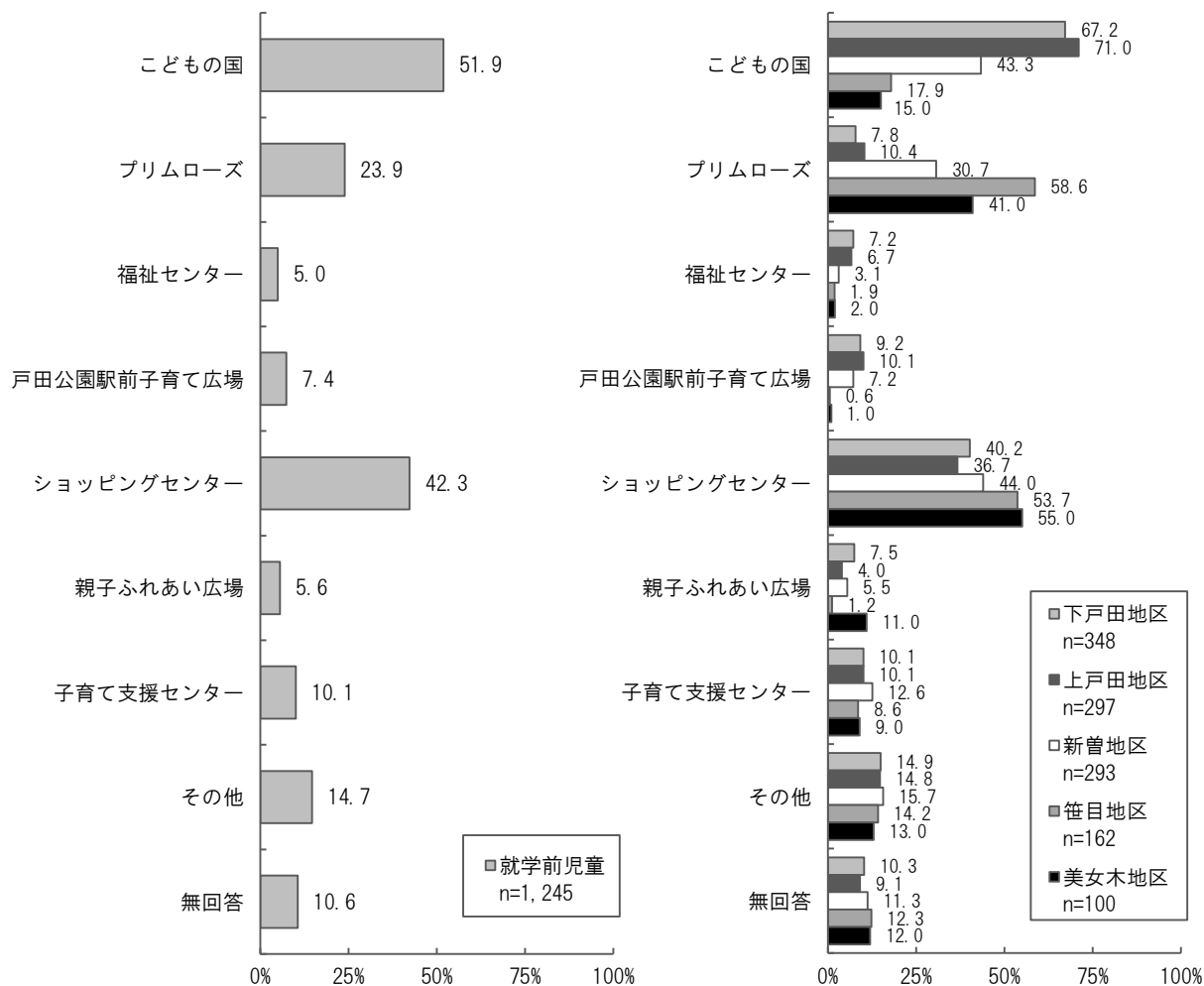
問36 戸田市の子育て情報の入手経路



○よく子どもと利用する施設はどこかについては、「こどもの国」が51.9%と最も高く、次いで「ショッピングセンター」が42.3%となっています。

○地区別にみると、「プリムローズ」が笹目地区では58.6%と高いものの、下戸田地区で7.8%と低くなっており、「こどもの国」が下戸田地区・上戸田地区では高いものの、笹目地区・美女木地区では低くなっています。

問37 よく子どもと利用する施設はどこか



14 自由記述

(1) 就学前児童

問 11-3 子育て（教育を含む）をする上で、周囲（身近な人、行政担当者など）からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。

- 保育園に預ける以外に、週末でもあずけるようになれば生活にゆとりがあるのではないかなと思う。
- 近所にお年寄り（元気な）が多いので、集会所でも自宅でもかまわないので子どもたちと少しの時間でも一緒にいてもらえるようなシステムが出来ると相方にとって良いと思います。
- 保育園＋学童の様な場所があるとありがたい。（民間学童を増やしてほしい）小学校で地域がバラバラになり、小学校に1人で不安になるようです。特に保育園の子は延長保育をしているので知っている子がいると少しでも安心できる様に思える。
- 幼稚園、学校の通ってみて気づいたことなどを話す相手が初め3年程はできず、孤立してしまい、多勢の中から気の合う方とめぐりあえるものなのか、と思った経験から、幼稚園、小学生の母親になっても子育て講座の気軽と参加できるものがあれば良いな、と思う事がありました。3年程たつと経験したことを聞かれるため、つながりができました。
- 一時預かりの制度をもっとわかりやすく、気軽に申し込めるようにしてほしい。保育園でなく幼稚園でもやってくれたら預けやすい。
- 病児保育が出来る場所を増やしてほしい。
- 私はシングルマザーなのでどうしても一人では手が回らないことがある。児童館等行くが（こどもの国）シングルの人は少なく話が合わない。そういった場で育児について話することもあるがやはり父母そろっている所とは違ってしまう。難しいことではあるがシングルで子育てをしている人達が気軽に話せる場がほしい。行政等（子育てセンター）通してならあるかもしれないが急に重くなる気がして利用しにくい。
- 保育園でも字の読み書きやマナーやお行儀等をまなんでほしいので週に一度、幼稚園の先生を招いて教えてくれるなどしてほしい。現在保育園に通わせていますが他の園は英語の時間があったりするのに、うちの保育園はなく、字の読み書きもないので、親が教えています。働きながら時間を作って教育するのは大変です。保育園でも教育の差はなるべくなくしてほしいので最低でも字の読み書きはやると市で決めて欲しい。
- 一時預かりが（特に無職の主婦）1ヶ月に1回はとても少ない。1ヶ月に3～5日は預けられると歯科や美容院、上の子の学校行事に通いやすいです。
- 冬のインフルエンザ予防接種を学校、幼稚園で接種出来るようにしてほしい。小学生になると帰りが遅くなるのと習い事もあり、病院に行くのが難しくなるので学校で打てると非常に助かる。主婦が働ける場所を増やしてほしい。（家のことと両立をした

いので急な休みや夏休み、冬休みに理解のある職場) 探しているがなかなか見つからない。子供がいると断わられることが多く、辛い。働く気もあり、働かなければ厳しい世の中なのに子持ちに理解がある所が少ない。

○知らない方と直接会って話すこと、電話などで問合せることに抵抗がある世の中かと思っています。もっと気軽に相談できるようなシステムがあってほしいと思います。中々人が足りず難しいとは思いますが、LINEなどで相談できれば楽だなと思ったりします。

○習い事が出来るところとかスクールの情報が手に入りやすかったら良いと思います。

○土曜日や日曜日、祝日も気軽にあずけられる保育園がほしい。

○イベントの開催。(他の子供とのふれあいの場をふやしてほしい)

○実際にそんなサポートをしてもらえる制度があるのか知らないもの多くて、書面などでお知らせしてほしい。利用しないですませてしまうこともあるような気がする。

○きれいに保たれた公園が欲しい。近くの公園は、すぐ草が生い茂り、タバコの吸いながらと犬とネコのフンがおちていることが多く、安心して遊べない。犬のおしっこをさせにくる人も多い(草が多いので)し、子供がいるのにタバコを吸う人も多い。そして犬の放し飼いをする人がいて嫌な気持ち、犬にかまれるかも…と不安。

問 35 あなたは、今後も戸田市で子育てをしていきたいと思いませんか。(あてはまる番号1つに○をつけ、その理由をご記入ください)

<戸田市で子育てをしていきたい理由>

- 公園や支援センターが沢山あるので。主人の転勤までは戸田市で。
- 子供達が戸田市に多くいて、お友達やママ友が沢山出来る環境だから。
- 保育園が増園したり、支援センターが充実していたり、子供が多かったり、中学まで医療費が無料だったりするから。
- 都市への通勤もまあまあ便利。マンションに友達も出来た。医療費も無料で助かる。
- 子育てに関する施設や施策が多く、更新も多いので、育てやすい。周りが子育て世帯ばかりなので、友人も作りやすく相談しやすい。
- 戸田市は平均年齢も若く経済的にも安定しているので。
- 子供と一緒に参加できるイベントが多い(戸田マラソンから戸田の朝市 e t c)ので、近くで楽しめるのは子連れにはとてもありがたいです。
- 都内への利便性もよく、子育て支援も充実している為。
- こどもの国やプリムローズの施設やイベント内容が充実していてとても満足しているから。公園に併設されているちびっこプールがありがたいです。
- 子育て支援が充実しているから。他の市と比べて学童や一時預かりの金額が安いから。

<戸田市では子育てをしていきたくない・戸田市を離れる理由>

- 転勤族なのでいつ転勤になるかわからない。
- 美女木地区は子育て支援制度が手薄と感じる。ファミリーサポートセンターも登録したが、利用できていない(来てくれる人がいない)。近くに頼める人がいないのに、保育所のリフレッシュは月一は少ないと感じる。
- 子育てしやすいとアピールしている割にそう感じない。
- 保育の質が良くないと思う。もっと自然の中で育てたい。
- 保育所に入れないから。
- 障害のある子供に対する支援が十分でない。待機児童の対策と言っても健常の子供が優先されて障害のある子供は後回し。その他の福祉サービスもまだまだ不十分。
- 戸田市は好きだし、住みやすいが、知り合いが少なく、育児について相談できる人も少なく、今後の不安のため。

問 38 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

1 生活環境の整備

- 戸田市に、ボール遊びができる広場を作って欲しい。小さな子供が遊んでるところに、小学生のサッカーボールが飛んできて、ケガをしました。ボール遊びが出来る所がないのが原因だと思う、北戸田には、あるのに、戸田（上戸田）には、ない。
- 新曽北小学校区内に大きな公園がない。子どもがのびのび遊べる場所がすくない。遊具が謎の健康器具に変更されたりしていて誰も使用しない状況になっていない場所がある。フェンスで囲みボール遊びが出来そうな広場なのにボール遊び不可の上、「苦情により一時閉鎖中」が2年間以上続いている広場がある。（新曽地区）小さい子が安心して遊べる大きな砂場のある公園が欲しい。大きな公園は老人が大々的に使用していて（ゲートボール等）子供が遊べない。区別して欲しい。子育て支援をうたうなら、きちんと示して欲しい。
- 美女木地区にも、プリムローズやこどもの国のように放課後天候に関係なく子供が行けるような場所があれば良いと思います。行動が学区内のみ限定されると子どものみで遊びに行ける場所がない。
- 芝生の公園をふやしてほしいです。春や秋に子どもとお弁当を持ってピクニックがしたいのですが、芝生がある公園が少なくて困りました。後谷公園の芝もはげてきているので、また増やしてもらえたら嬉しいです。芝は手入れが大変なので増設は難しいかもしれませんが、芝生の公園が増えたら保育園、幼稚園、小学校の遠足の内容充実にもつながると思います。宜しくお願いします。

2 教育・保育の充実

- 公立の幼稚園が欲しい。私立は負担が大きすぎる。補助金が少なすぎる、年間48万程度に対して8万せめて半分は補助して欲しい。なぜなら戸田市が公立の幼稚園を設立していないから。
- 希望する保育施設にまだまだ入り易い状況でないため、より入り易い状況になると共働きでの子育てがしやすいため有難いです。住居の近くの保育所に入りやすくするような優先順位付けを考慮してほしい。
- H29、H30年度と保育施設が増えているが、待機児童の問題が未だに解消しきれてません。また無償化によりさらに希望者が増えると思われます。この2点を市としましてどう対応頂けるか、気になっております。
- 保育の無償化によって保育の質（先生、給食、行事など）が落ちてくるのではないかと少し不安な面があります。戸田市は若い世帯が多く子供も多いので、金銭面ではありがたいが、保育する側にも補助などの制度が必要だと思います。子どもを預ける側としては安心して遊べ学べる場所がいいです。習い事の情報もHPにピックアップしてほしいです。

- 保育園にすぐ入れるよう、母子家庭にやさしい制度がほしい。
- ファミリーサポートセンターを利用してみたいなーと思いつつ、何の資格もなく今まで認識のない方の自宅へ子どもを預けるのはやはり不安。何か市がもっと介入して、フォローできる安全、安心して気軽に子供をあずけられるサポートがほしい。ベビーシッター制度も市がOKする人で安心して預けられたら嬉しい。
- 子供が3月生まれで0歳児保育所の入所がほぼ無理で、1歳児は枠が少なくて厳しい。育休はできれば皆1歳になるまで取得したい方が多いと思うし、0歳の枠よりも1歳の枠が増えてほしい。認定こども園や小規模保育施設が少ない。
- 保育所の保育料無償化は有難いですが、全額無償にしなくても良いので、その先の学童保育施設を増やしたり、料金の引き下げを強く望みます。(2歳と6歳の子育て中の為)
- 4月以外でも保育園の入所できる仕組み(枠をのこす)を作してほしい。子どもの誕生月によって、4月復帰だとつらい(まだ子供が小さすぎる)ケースが考えられ、出産時期の事を考えると妊娠をためらってしまう。秋(10月~11月ごろ)からも入所できる可能性があれば、できるだけ1歳を過ぎてから預けることができる。4月にあわせてしか入所できる可能性がないのは、選択肢が狭まってしまうと思う。

3 地域における子育て支援

- 戸田公園駅前行政センターの一時預かりはとても便利です。他の場所にもそのような所を作ってほしい。駅周辺にばかり子育て施設が集まっている気がするので駅から遠くに住んでいる人にも利用できるよう市内に分散させてほしい。
- 市内移動によくトコバスを利用します。国際興業バスの様に往復になってくれると助かります。
- 午後もあそべる(乳児、幼児が)施設を多く設置してほしい。戸田にはこどもの国、プリムローズ以外は充実していない。戸田公園駅周辺だけ施設が多い。児童館が2ヶ所しかないのは少なすぎる。都内はもっと点在化していて利用しやすい。支援センターも予約して参加するものが多く行きたい時に行けない。

4 学校教育環境の整備

- 保育所を増やしたりしているのは良く聞きますが、小学校からの学童保育室の数がさいたま市などに比べて少ない印象です。子供が成長していても、安心して仕事を続けられる環境がより整うことを切望します。
- 小学校の放課後の過ごす場所として会館を使わせてもらえないでしょうか?何も使わずに空いている会館もったいないと思います。校庭に(放課後の)、ボランティアで見守りしてくれる人がいたら助かります。
- これから小学校にあがるのですが、給食を大変心配している。栄養のない給食、食品添加物や農薬など子どもの発達にとっても悪い素材や小麦、牛乳の頻度を考えてほしい。お弁当持参との選択肢を入学前に行うなどの配慮があったらほしい。

5 子育てに関する情報

- 私は第1子出産後に様々な子育て支援の事業を知ったのだが出産前に知っていたら出産前にもっと色々と下調べ出来たかと思う。この冊子のP2の「ファミリーサポートセンター」以下の事業の概要を母子手帳配布の時にでも一緒に配れば出産前、時間のある時に調べられ、出産後すぐに利用できると思う。子育て支援に関する案内で、行政が関係してないものの紹介はHPとかでは出来ないのかもしれないけど例えば子連れで買い物が大変な人は、市内のお店が宅配してくれるよとか絵本の読み聞かせならあいパル以外にも東部福祉センターでもやってるよとか産院で産後ヨガをやってるよとかこの公園はボール使えるよ。夏になったらプールやるよとか子育てに関する「まとまった」情報（戸田市内）がみられる所があれば（HPでも）すごくみんな助かるし情報になると思う。
- t o c o プリは利用しているが、t o c o プリではいまいち子育て情報がわかりにくいと感じている。HPを検索して情報を得ているが、t o c o プリを使って簡単に情報収集出来るようにしてほしい。
- 市役所HPの子育て情報が見にくいので、わかりやすくしてほしい。

6 健康の確保及び増進

- 子どもの数が多いのに、小児科、耳鼻科が少なく、病院の診察時間が長くて辛いので、病院を増やしてほしいです。
- 健診関係をもう少し充実（回数を増やして）して欲しい。せめて、母子手帳にページがある分くらい。と思いました。あとは、保育園も増えてきたので良かったなと思います。今後ですが、小学校→希望する学童に連れて行ってってくれる人たちがいたらいいなと思いました。（ファミリーサポートセンターになるんですかね？）
- どの保育施設でも発達に関して専門的にみてもらえたらありがたいと感じる
- 娘が発達障害の疑いがあるのですが、戸田市にはあすなろ学園があり、療育させるところがあってすごくありがたいと思います。幼稚園などは、なかなか受入れてもらえる所が少なくもっと幼稚園でも、専門の先生が居て、受入れるたいせいが整ってくるといいと思います。
- 上の子が熱を出した時など下の子を病院に連れて行くのは大変なので、その間だけでも保育園に預かってほしかったのですが、仕事の時以外はダメですと断われ、だれにも助けてもらえずつらく悲しくなりました。もう少しサポートしてほしかったです。

7 職場と家庭の両立

- フルタイムで働いているため、他のお母さん（戸田在住）と関わる事が一切ありません。子供も保育園に通っていますが、いつもすれ違うのみでゆっくりとお話する機会はありません。あいパルが近く良く利用しますが交流イベント等は平日のみなので参加出来ず。日曜や祝日に働くママが楽しく交流や情報共有できる場所があるとい

いなと思います。以前あいパルでパパと子どもは運動して、ママは別室で製作という講座があり利用したのですがとても良かったです。家族全員で参加できる講座やイベントはもっとあるといいなと感じます。

○子育てをしながらの職探しは大変。月に3回、支援センターで子どもを見てもらえる制度があるが予約をとるのも一苦労。フルタイム勤務の母親の方が、専業主婦の母より優遇されている。仕事はみつけにくく不満。

○就労している方へ、保育所を増やしたり力を入れている印象がありますが、家庭で育児をしている家庭への、一時預かり事業等のサポートが少ないように感じています。また、自身（母親）が歯科等の通院や、美容院等にかかる時、「キッズスペースなどがあって、子供と通えたら、家族に預けることなく楽なのになあ」と感じます。そういうお店などに対して、市からの援助や働きかけがあると、ありがたいです。最近、市の人口が増えており、小学校や幼稚園の定員は大丈夫なのか、気になっています。

8 その他

○保育園を無償化にしたら、入園希望者が増えて、待機児童も増えるのではないのでしょうか？それよりも、育児休暇の充実や、福祉従事者への待遇改善、またそれを行った企業への金銭的補助、補助等を行った方が少子高齢化対策になるような。有休とは別に子どもが病気になる時に仕事を休むための休暇があると、正社員以外の子育て家庭も助かります。

○戸田市に転居してきて、子どもの多さにビックリしました。それまで東京の大田区に住んでいましたが、子どもの声はあんまりしませんでした。戸田市の地理的、経済的な良さと、みなさまのご尽力のおかげでもあると思います。ぜひとも、日本国内でトップクラスの子育て環境の良い町にしてください。子供達が幸せになれるために私も努力します。地域の事業や活動に子育て世代がもっと参加できるよう（参加しやすいよう）にしていきたいですね。

○最近子育ての時期に、親の介護が必要となるケースが増えている。事実、私自身がそうであったし、周囲でもそういった知人も数名いる。/高齢者が多いので、スーパーなどでも優遇されていることも多いが、子育て世代の得になることをもっと増やしてほしい。（戸田市独自で何かあるとうれしいです。）

○共働き世帯が多いからか、土日に習い事をさせたくても空きがない。仕事、家事、育児でとにかくヘトヘト。母親のために息抜きできる施設が欲しい（あるならもっと周知してほしい）

○最近、小学校、幼稚園共にハーフ、外国籍の子が増えているように思いますが、言葉、文化の壁があるせいか、保護者同士の交流もなく、不安なご家庭もあります。赤ちゃん訪問のような、市内のサポート事業をご案内する機会等増えれば、きっかけになるのかな、と期待しております。

(2) 小学生

問 17 あなたは、今後も戸田市で子育てをしていきたいと思いませんか。(あてはまる番号1つに○をつけ、その理由をご記入ください)

<戸田市で子育てをしていきたい理由>

- 子育て世代が多く、安心感がある。
- 子供の医療費が無料だったり、学校教育もi p a d等利用できたり進んでいる印象あり。子供の支援が充実しているから。
- 転校したくないので。
- 子育て支援がしっかりとされているから。
- 私自身が生まれた町であり、住みやすい場所だと思うからです。公園等の場所が各町目にあるのも良いです。
- 必要なものがコンパクトにまとまっていて暮らしやすいから。
- 環境がよい(治安、給食がある、医療費無料など)
- 他の自治体と比較すると、学童の保育時間も長く、充実しているんだと思うので。
- 比較的、子供のいる家族が多そうなので。不便なこともほとんどない。
- 若い人が多く、街に活気がある。子供向けのイベントがある。
- 教育水準も高いし、児童センターや図書館等も充実している。

<戸田市では子育てをしていきたくない・戸田市を離れる理由>

- 教育では熱心さがないと思う。子供を安心して学校へ預けたいとは思わない。戸市内(e x 美女木と南)でレベルが違いすぎる。
- 戸田は住みやすいが、もっと自然の多い田舎で活発な子に育てたいとも思うので。
- 転勤族のため。
- 当分は戸田市で考えていますが、中学校の質等を考えると都内や外も考えます。
- 現在、妻が第二子を授かっておりますが、産院が一つしかなく、歯科やその他の病院は多くあるのに、これはどうかと思います。市外の病院で出産予定。
- 障害者利用のデイは特に戸田市は少なすぎる。他の市と比べられないほど。
- 日曜日に20時まででもみてくれる所がない。
- 海も山もないし、観光をするところがない。都心から近い為、遊具の充実した景観の良い公園が欲しい。
- 近くにボールで遊べる所がない。天気の良い日や、暑い日寒い日に子供が行く所がなく、家になってしまう。
- 子どもは今の環境に満足しているが、都内の方が放課後の預け先が充実しており通勤にも楽なのでまよっているため。

問 20 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

1 生活環境の整備

- 歩道がきちんと整備されていない場所がまだまだ多く、通学路やベビーカーの方が危ない思いをしているのを見るので歩行者が安全に歩ける道がもう少し整備されるといいと思います。
- 子どもが通学や生活でよく利用する道の安全性の確保をお願いしたいです。見通しの悪い所、信号のない所、トラックなど大きな車の出入りが多い所などの安全の確保をお願いしたいです。また、未就学園児だけでなく、小学生くらいの子供が遊べる公園を増やしてもらえると嬉しいです。
- 横断歩道のない交差点があって学校の近くでもあるので(事故も多い)信号がほしい、できれば。
- 街灯や防犯カメラ等をより充実させていただきたいと思います。

2 教育・保育の充実

- 子供が幼少の頃、私立幼稚園に通わせていたが冬休み、春休み等は子供を預けられる場所が少なく、パートに行く時に困った。市立の保育所の一時保育は予約も取りにくく、朝8時半からしか預かってもらえないため、8時に出勤したい場合は預けられない。
- 学校の先生の質が昔と自分達が子どもの時と変わりすぎているように感じる。学校では勉強はもちろんだが、もっと1人1人を見て、良いと事を伸ばしてあげられるような気配りや声かけをもっとしてほしい。時間がないのは分かるが、子供達にも伝わっているし、あの先生に言っても何も変わらないなどと小学3年生に見抜かれてしまう教育はどうなのかと心配になります。親も先生も忙しいのは同じだと思う。その中でも先生にしかできない、教えるという事を大切にしてほしいと思います。
- 公立の学童を利用していますが、土曜日や長期休暇のお弁当を学童の方で用意してもらえるとたすかります。
- 教育については私学、塾などと公立学校との学習に差がありすぎると感じます。保育環境については、小学校高学年や中学生など年齢が増すごとに利用出来るサービスがなく義務教育中は全学年同様のサービスが利用出来るように工夫してほしいです。
- 学童の先生が子供達をあまり見ていない。ケンカをしても見てないふり。お迎えに行っても席を立たずに座ったまま。部屋の温度が先生たちの体感なので子供室はいつも顔が赤く暑そうにしている。外遊びがなく多くの子供が1日中部屋の中。全て公立の学童です。

- 現在シングルマザーの方が増えています。保育所の増設、特に願います。知り合いにも困っている方がいまして、もっと働きたくてもそれができなくなっている状態です。土日フルタイムで保育園が運営されていたら職種の幅も広がることも聞きました。託児所は高くて困りますので。
- 英語教育の充実に積極的に取り組んで欲しい。
- 少し費用はかかっても預かっている間に勉強を教えてくれたり、マナーを守って品の良いご家庭向けの学童が戸田市にできるとありがたいです。できれば私立小向けの学童が欲しいです。
- フルタイムの方が増えているので学童の入退室時間は、ニーズに合わせてほしい。19時では都内からの迎えはできない。所得に合わせての支援のあり方は再考していただきたい。3人の子がいても手当のメリットがない。子供にかかるお金はみな同じ。所得がある分については将来のために蓄えてあげたい。
- 下の子（1年）を公立学童に預けていますが、子供はクラス内に友達が出来るとクラスの友達と遊びたがり、2年生になったら学童に行きたくないと言ってます。現実には難しいと思いますが学童で書道とかそろばんとか習えたり、英語の学習とかできるというと思います。6年生まで預けられるようになりましたが、高学年で利用する人は殆んどないと思います。
- 学童保育室の時間（夏季、冬期、春期の休み中）、8：00より前に開けて欲しい。7：40から入室できると助かる。1人入室の難しい低学年のうちは送迎しなくてはならず、都内へ勤務する者には時間的に厳しい為。
- 保育園は増加していますが、学童保育室が不足していると感じます。小学校、3、4年生でフルタイムで働きたいと思っても3、4年生から入室できる学童保育室はなかなかありません。公立も民間の学童保育室も一時利用は利用できますが、民間は利用料が高いため、もう少し利用料を下げてください。
- 戸田市はものすごい勢いで保育園が増えています。今後必要なのは学童施設だと思います。建設されていく保育園を見る度「ここに通う子供たちが小学生になり、学童が足りるのだろうか？」と疑問に思っています。
- 学童に通っています。公立の学童でも、学習指導やスポーツ指導等行える様になると良いです。おやつも袋菓子以外でも、もう少し体に良いおやつにしていだけたら良いと思います。
- 3年生になっても、公立学童保育室に通えたらありがたい。他学年の子と仲良くなれる機会にもめぐまれるので。
- 高学年の一時保育が取りづらい。低学年と一緒にだて行きたがらない。が家の環境的には子供だけ自宅にいるのは良くないので学童へ行ってほしい。

3 地域における子育て支援

- 自分が小さい頃は、地域の人達が皆で子供を育て、人の子も自分の子のように注意したら、誉めていたが、時代も変わり、人の層や考え方も変わり、親自身が他の親との関係に気を使うようになってきている。地域間の交流に参加したいと思うが、難しい面もある。子供会や地域の行事に頑張って参加したいと思っている。地域性なのか地域によって教育方針の違いがある事に気づく。児童手当が低いし税金が高いと思う。もう少し働いてお給料を上げたいが子供の時間が少なくなるので難しい。
- 子供が自分のおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に楽しむ機会が無いので、年配者の方との交流が好きな時にとれる場所があると、子供も教わる事が多くなり、知識が学べ、年配者の方は子供と過ごす事で心も体も元気になれる気がします。一緒におやつを食べたり昔話を聞いたり、子供は年配者の方の肩をmonであげたりなどなど戸田公園駅周辺に駅名にちなんでもっと大きな体験型の公園などがあったら良いと思います。(木材のアスレチックやスケボーローラースケートのパーク広場など)

4 学校教育環境の整備

- 病院や保育施設など地域に偏りがある。子どもの数が増えている割に障害児関連の施設が少ない。児童発達支援センターの充実を望みます。
- 学校に自分(子供)専用のロッカー(鍵付き)にして、毎日持っていく教科書を減らして欲しい。問題にもなっていると思うけど、対応が遅すぎると思います。あと携帯を持っていかせる事をきちんと子供に教えたうえで子供の安全のためにも持たせる事を認めてほしいです。最後にできれば学校の様子がみれるようにライブビデオのようにしてもらえたらトラブルも減るのではないかと思います。

5 経済的な支援

- 上の子共が私立高校。収入があっても経済的に余裕がなく、将来、経済的不安。高校生までの医療費など補助がほしい。
- 幼稚園、保育園無償化もいいですが、中学校、高校にも何か手当があつたらいいと思います。
- 生活保護を受けているので、子供が成長し、高校以上の学校に行くことも考えます。金銭的にきびしいですが、働きに出る時間も限られているので、なやみ所だと思います。

6 子どもの居場所・あそびの場

- ほぼ毎日あいパルを利用しています。誰かの家におじゃまるのではなく、あのような場所を使えるのはとても気が楽だし、安心です。ボールで遊べる公園が増えるといいです。北戸田駅近くにあるようなバスケットコートがあるととてもいいです。
- 近くに子供が安心して遊べる施設があつたらなと思う。(あいパル、プリムローズのような)歩いて行ける範囲で。

- 今住んでいる所から児童館が遠いのが残念。大きくなって自分で友人と遊べるようになったので最近前は前ほど気にならなくなった。はやく図書館や郷土博物館が開くのを子供は楽しみにしています。
- プールがない。こどもの国のプールが混みすぎてて笑える。あのレベルで。学校のプールを開放すれば良いのにとおもいますがいろいろと大変そうな気もする（安全面）
- 「青少年の居場所」は学校にてチラシをよくもらいますが、学校から青少年の居場所まで子供だけで移動する必要がある、また、あまり近くもなく、共働き世帯には利用できません。専業主婦向けのサービスと認識しています。公立学童の保育スタッフの質の高さには満足しています。首都圏へ通勤する立場としては学童の時間が朝夜共にあと30分のびると助かります。
- 戸田市は子供が多いので、雨の日でも遊べる施設や、もっと広いプールなどがあれば良かったと思う。幼稚園の頃にそういう施設があればよかった。すごく残念。図書館の本も古かったり、15年以上住んでいるのに、あまりかわらないので最近ほとんど利用しなくなった。建物キレイにすると同時に中身もよくなればいい。
- プリムローズが学区外で、雨がふった場合、室内であそべる所がない。色々な地区に、プリムローズのような、学区内に室内であそべる所がほしい。
- 戸田市スポーツセンターのスポーツ教室のように短期間低料金で子供に新しいことを始めるきっかけになる習い事を、文化系でも作ってほしい。習字、そろばん、音楽、美術など。小学校一年生から学校で教育され入選などの評価があるものなのに、その個性を育ててみたい、伸ばしてあげようと思った時に個人経営の教室に入るしかないとなるときっかけ作りという軽い気持ちで始められないので。
- 自宅周辺に公園がたくさんありますが、ボール遊び出来る公園がありません。規制が多く、子供がおもいきり体を動かすことが出来ません。住宅などに配慮したネットなどの設置を早急に希望します。
- 放課後に子供だけで利用できる施設がもう少しあると良いと思います。（安全に）自分は学童を利用しているが、やめた時お友達同士で遊べる場所が室内であるのか不安になるからです。

7 職場と家庭の両立

- 共働きにとって給食はありがたいです。学校のある日はイベントに関わらず毎日提供してほしいです。負担が増えても構いません。
- こちらに書くことではないかもしれませんが、フルタイムで働いていると、家庭の両立がすごく大変です。子供が中学卒業までは、育児時短勤務（5～6時間位）が一般的になると理想的です。子育て、体力的、精神的にゆとりをもってできるとより良い社会につながるのではないかと思います。少子化も改善するのではないかと思います。
- 学校のPTAは任意の参加にしてほしいです。年間を通して役員の活動が多すぎて生活のさまたげになっています。参加は精神的にも負担が大きすぎます。現代は共働き世帯がほとんどです。時間的にも環境的にもPTA活動に参加しなければならないの

は、負担が大きくて辛いです。

- シングルで仕事をしていて、急に子供を1日だけとかあずける先が見つからず、いつも困っています。1日だけでもあずかってくれる所があれば、たすかります。勉強も忙しくおしえてあげられず学校の勉強についていけないのでわかるまで教えてくれるとありがたいです。
- 短期間のパートやアルバイトでも、長期のお休み（夏休み、冬休みなど）の時、手軽に子供を預けることができる施設がほしいと思います。働きたくても長期のお休みを考えるとなかなか働きにくいのが現実です。

8 その他

- 健常の子と障害のある子が気軽に交流できる場があればいいなと思う。
- 自閉症の事で相談が出来る場所や病院が少ないです。
- 小学校において、保護者の参加（ボランティア的な）が多いことにおどろきました。民間の学童を利用していますが、大変気に入っています。
- 戸田市にも外国の方が増えているので、マナーとかを小さい頃から、教育として教えて頂きたい。質問の内容が見にくいように感じました。
- 大きな問題はなくても、定期的な子供の事を相談できる所があったらと思う。夏休みなど、子供が過ごせる場所があったら（とだっ子や放課後子ども教室のような感じ）と思う。
- 子供のサポートの他、親のサポートもあると助かります。子供が軽度の発達障害の為、重度障害の親の会などに参加する事がむずかしいです。その程度で？なんていわれないかも知れないのがやはり気が引けてしまい、相談、交流ができず不安になる日があります。
- 障害者子供に対する戸田市の環境や支援は、保育世代に対しても環境や支援はいき届いていない。多数は健常者に対しての、保育園、幼稚園、小学校に対しての取組は戸田市は頑張っていると思うが子供が成長する課程に障害者の環境取組は他の市と比べてかなり低いと感じております。なぜでしょう？
- 母子、父子家庭にもっと色々な支援があったら、と思います。
- 障害児のため、特に母親に何かあった時（入院等）に、すぐに利用できる施設などがあると（情報含め）心強い。安心できる。共働きであっても、母親にだけ負担がかかる状況を、何とかしてもらいたい。父親や親世代などの常識、障害児＝母親見るべきとの考え方も変えてもらいたい。→情報を伝えてくれる環境を作ってもらいたい。